

薬学部授業概要索引

1 学年

科 目 名		開講時期	単位数		対象 クラス	科目担当者	掲載 ページ	備考
			必修	選択				
一般 教 養 科 目	薬学周辺	こどもの発達A	—	1	1P 全	—	—	1～3年で3単位以上 選択必修
		こどもの発達B	—	1	1P 全	—	—	
		健康の科学	後2	1	1P 全	押尾 茂	66・67	
		医薬の歴史A	前1	1	1P 全	押尾 茂	68・69	
		医薬の歴史B	前2	1	1P 全	押尾 茂	71・71	
		現代の社会福祉A	前2	1	1P 全	本田ルミ子	72・73	
		現代の社会福祉B	後1	1	1P 全	本田ルミ子	74・75	
		高齢者の健康A	前1	1	1P 全	小池・廣瀬 山崎・鈴木 (史)	76・77	
		高齢者の健康B	前2	1	1P 全	小池・廣瀬 山崎・鈴木 (史)	78・79	
		基礎薬学計算	前1	1	1P 全	木田・吉田	80・81	
	人文科学	言語学A	前1	1	1P 全	伊藤 頼位	82・83	1～3年で3単位以上 選択必修
		言語学B	後2	1	1P 全	伊藤 頼位	84・85	
		哲学A	前1	1	1P 全	佐々木隼相	86・87	
		哲学B	前2	1	1P 全	佐々木隼相	88・89	
		文化学・文化学A	後2	1	1P 全	伊藤オディ	90・91	
		文学A	後1	1	1P 全	柴田 尚子	92・93	
		文学B	後2	1	1P 全	柴田 尚子	94・95	
	社会科学	経済学A	前1	1	1P 全	後藤 康夫	96・97	1～3年で3単位以上 選択必修
		経済学B	前2	1	1P 全	後藤 康夫	98・99	
		社会学A	後1	1	1P 全	高橋 嘉代	100・101	
		社会学B	後2	1	1P 全	高橋 嘉代	102・103	
		法学・法学A	前1	1	1P 全	山田 朋生	104・105	
		心理学	—	1	1P 全	—	—	
		歴史学A	後1	1	1P 全	柳田 春子	106・107	
		歴史学B	後2	1	1P 全	柳田 春子	108・109	
	外国語	薬学英语Ⅰ	前	1	1P 全	柴田 尚子	110・111	
		薬学英语Ⅱ	後	1	1P 全	柴田 尚子	112・113	
	外国語(選)	基礎英語演習	前1	0.5	1P 全	伊藤 頼位	114・115	1～3年で2単位以上 選択必修
		英語検定Ⅰ	前1	0.5	1P 全	福富 靖之	116・117	
		英語検定Ⅱ	前2	0.5	1P 全	福富 靖之	118・119	
		英語検定Ⅲ	後1	0.5	1P 全	福富 靖之	120・121	
		英会話Ⅰ	前1	0.5	1P 全	辻ウェスリー誠	122・123	
		英会話Ⅱ	前2	0.5	1P 全	辻ウェスリー誠	124・125	
		英会話Ⅲ	後1	0.5	1P 全	辻ウェスリー誠	126・127	
		英語圏言語文化研修	集中	0.5	1P 全	伊藤 頼位	128・129	
		中国語Ⅰ	前1	0.5	1P 全	劉 芳	130・131	
		中国語Ⅱ	前2	0.5	1P 全	劉 芳	132・133	
		中国語Ⅲ	後1	0.5	1P 全	劉 芳	134・135	
		外国語単位認定科目A	—	0.5	1P 全	—	—	
		外国語単位認定科目B	—	0.5	1P 全	—	—	
		外国語単位認定科目C	—	0.5	1P 全	—	—	

一般教養科目	実技	体育A	前1		0.5	1P 全	中野 浩一	136・137	1～3年で1単位以上 選択必修
		体育B	前2		0.5				
		美術A	前1		0.5	1P 全	渡部 憲生	138・139	
		美術B	前2		0.5				
		書写A	前1		0.5	1P 全	鈴木 蒼舟	140・141	
		書写B	前2		0.5				
基礎教育科目	基礎科学	数学Ⅰ	前1	2		1P 全	木田 雄一	142・143	
		数学Ⅱ	後1	1		1P 全	渡邊・杉野	144・145	
		化学Ⅰ	前1	2		1P 全	石山・西村 金原・小田中	146・147	
		化学Ⅱ	前2	1		1P 全	西村・金原	148・149	
		物理学Ⅰ	前1	2		1P 全	小野 哲也	150・151	
		物理学Ⅱ	前2	1		1P 全	志村・小野	152・153	
		生物学Ⅰ	前1	2		1P 全	櫻井 小田中	154・155	
		生物学Ⅱ	前2	1		1P 全	守屋・山下 小田中	156・157	
		薬学基礎実習	後	1.5		1P 全	柏木・守屋 石山・古泉 西村・小野 金原・吉田 小田中	158～161	
	準備教育	フレッシュマンウィーク	入学直後	0.5		1P 全	学年主任他	162・163	
		フレッシュマンセミナー	前・後	0.5		1P 全	伊藤（頼） アドバイザー 教員他	164・165	
		情報科学講義	前2	1		1P 全	木田 雄一	166・167	
		IT 技能演習Ⅰ	前	1		1P 全	木田 雄一	168・169	
		IT 技能演習Ⅱ	後	1		1P 全	木田 雄一	170・171	
		日本語表現Ⅰ	前	2		1P 全	伊藤（頼） 本多	172・173	
		日本語表現Ⅱ	後1	1		1P 全	伊藤（頼） 本多	174・175	
		倫理学	前1	1		1P 全	石澤 理如	176・177	
	薬学基礎	薬学入門	前2	1		1P 全	衛藤・島貫 熊谷	178・179	
		チーム医療学演習Ⅰ	前	1		1P 全	木皿・衛藤 小池・早坂 熊谷	180・181	
		チーム医療学演習Ⅱ	後	1		1P 全	木皿・衛藤 押尾・早坂 今井 他	182・183	
専門教育科目	基礎科目	生化学Ⅰ	後1	2		1P 全	守屋・古泉 櫻井・小田中	184・185	
		機能形態学Ⅰ	後2	2		1P 全	守屋 孝洋	186・187	
		有機化学Ⅰ	後1	2		1P 全	西村 良夫	188・189	
		基礎分析化学	後2	2		1P 全	竹元・鈴木 小田中	190・191	
		物理化学Ⅰ	後1	1		1P 全	小野 哲也	192・193	
		物理化学Ⅱ （化学熱力学入門）	後2	1		1P 全	柏木 良友	194・195	
		薬学演習Ⅰ	後2	1		1P 全	学年主任 他	196・197	
配当単位計				37.5					

授業科目名	健康の科学		薬学周辺(選)-2	1～3年 後期2
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）		選択	1単位
担当教員	教授：押尾 茂			

1. 科目の概要

健康や医療に関する情報は世の中に溢れています。そして、それらの情報の信頼性には大きな違いがあることは何となくおわかりでしょう。あなたは、信頼性の判断をどこにおいていますか。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマスコミに取り上げられてものは信頼できますか。本講座では、医療人である前に、市民の一人として身に付けておきたい情報リテラシー（情報活用能力）を学びます。時間内に個人で調べてもらう事項があります。PC、Pad、スマホなどを持参して下さい。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は健康リテラシーを身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1・3に関連する。

3. 一般目標

市民としての基本的な素養として、健康や医療に関する情報を適確に判断することができる健康に関するリテラシーを身に付ける。

4. 到達目標

- 1) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
- 2) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。
- 3) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。
- 4) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。
- 5) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。
- 6) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。
- 7) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。
- 8) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明できる。
- 9) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。
- 10) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。
- 11) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。
- 12) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。
- 13) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。
- 14) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。
- 15) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を説明できる。
- 16) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。
- 17) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。
- 18) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解している。
- 19) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。
- 20) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。
- 21) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。

5. 授業時間外の学習

C-Learning を用いて準備学習の内容について指示する（30分程度）。

6. 評価・フィードバックの方法

毎回の講義終了時（または終了後）に講義に関するレポート等の提出を求め、その内容をもとにして評価する（100%）。

7. 教科書・参考書

教科書：なし（毎回、講義資料を配付します）

参考書：「医学的根拠とは何か」津田敏秀著 岩波新書 岩波書店、「予防接種は「効く」のか？ワクチン嫌いを考える」岩田健太郎著 光文社新書 光文社

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」（記号）		授業内容	担当者
1	健康の科学（1） 「講義」	A-(5)-① -2,3,5	健康情報に対するリテラシー	押尾 茂
2	健康の科学（2） 「講義」	A-(1)-④-2	プラセボ効果と薬効	押尾 茂
3	健康の科学（3） 「講義」	D1-(1)-③ -1～4	疫学的考え方とは何か	押尾 茂
4	健康の科学（4） 「講義」	D1-(2)-④ -1	臨床検査法の選択と評価法	押尾 茂
5	健康の科学（5） 「講義」	A-(2)-④-1,2 A-(2)-①-1～4 A-(2)-②-1～3	研究倫理と生命倫理	押尾 茂
6	健康の科学（6） 「講義」	A-(1)-②-1～8	利益相反とは何か	押尾 茂
7	健康の科学（7） 「講義」	B-(4)-②-2	薬剤師の職能と健康増進における役割	押尾 茂

授業科目名	医薬の歴史A 薬学周辺(選)-3-A		1～3年 前期1
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	教授：押尾 茂		

1. 科目の概要

医学とは、人体の構造や機能、病気について研究し、その病気を診断・治療・予防する学問です。我々の学ぶ薬学は医学の一分野を構成し、化学物質の人体活動への影響を調べ、必要な場合はそれらを合成し、それらの作用を薬物治療として人へ応用するあるいは悪影響を与える場合は人への影響をなくす方法を考える学問分野です。本講義では、薬物の歴史から医療制度の歴史までを学ぶことで、医療における薬剤師の役割を明らかにすることに目的があります。また、ここで得られる知識は、医療人が共通に持つべき基礎知識です。それを概観できることで、多職種の医療人と共通の話題を持つことができます。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医療人として必要な医学の歴史に関する教養を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1に関連する。

3. 一般目標

医療人として必要な教養を身に付けるために、薬剤師として必要な医学の歴史を学ぶ。

4. 到達目標

- 1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。
- 2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。
- 3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史について説明できる。
- 4) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。
- 5) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。
- 6) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。
- 7) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。
- 8) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。
- 9) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。
- 10) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を説明できる。
- 11) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。
- 12) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。
- 13) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解している。
- 14) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。
- 15) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。
- 16) 医療保険制度について説明できる。
- 17) 公費負担医療制度について概説できる。
- 18) 薬価基準制度について概説できる。
- 19) 調剤報酬、診療報酬の仕組みについて概説できる。
- 20) 上下水道制度の成立と公衆衛生へ及ぼす影響を概説できる。

5. 授業時間外の学習

次回の子習内容について、毎回指示するのでそれに従うこと。毎回、30分程度の予習を要する。

6. 評価・フィードバックの方法

毎回の講義終了時（または終了後）に講義に関するレポート等の提出を求め、その内容をもとにして評価する（100%）。

7. 教科書・参考書

教科書：なし（講義資料を配付します）

参考書：「病気の社会史」立川祥二著 岩波現代文庫 岩波書店、「医学探偵の歴史事件簿」小長谷正明著 岩波新書 岩波書店、「Disease 人類を襲った30の病魔」Mary Dobson 著 小林力訳 医学書院、「50の事事で知る図説医学の歴史」ギル・ボール著 原書房

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	薬の始まり「講義」	医薬の歴史を学ぶ意義を考える。紀元前に遡り、人類の発展と薬の進歩を学ぶ。	押尾 茂
2	薬の発明の歴史「講義」	近代における薬の発明の歴史を学ぶ。	押尾 茂
3	薬剤師の歴史「講義」	わが国における薬剤師制度の発展の歴史を学ぶ。	押尾 茂
4	医療倫理の歴史「講義」	「ヒポクラテスの誓い」から始まる医療倫理の流れを現代まで辿りながら、その歴史的意義を学ぶ。	押尾 茂
5	薬害の歴史「講義」	わが国で起きた薬害の歴史を学ぶ。	押尾 茂
6	医療保険の歴史「講義」	わが国の医療保険制度の成り立ちを学ぶ。	押尾 茂
7	上下水道の歴史「講義」	わが国の上下水道の成立と公衆衛生に及ぼす影響について学ぶ。	押尾 茂

授業科目名	医薬の歴史B 薬学周辺(選)-3-B		1～3年 前期2
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	教授：押尾 茂		

1. 科目の概要

本講義では、人類の歴史を変えてきた病気の中から代表的な30の病気を選び、その成り立ち、歴史的影響、治療法に至るまでの足跡を薬剤師の立場からたどることを目的とします。もちろん、この中にはすでに病気としては影響がないレベルまで発生しなくなっているものも含まれています。しかし、病気の歴史は医療人が共通に持つべき基礎知識ですし、それを薬剤師の立場から知っておくことが大切です。医薬の歴史を概観できることは、多職種の医療人と共通の話題を持つことに結びつきます。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医療人として必要な医学の歴史に関する教養を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

医療人として必要な教養を身に付けるために、薬剤師として必要な医学の歴史を学ぶ。

4. 到達目標

- 1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。
- 2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。

5. 授業時間外の学習

毎回指定された教科書の部分をよく読んで出席すること（30分程度）。

6. 評価・フィードバックの方法

毎回の講義終了時（または終了後）に講義に関するレポート等の提出を求め、その内容をもとにして評価する（100%）。

7. 教科書・参考書

教科書：「Disease 人類を襲った30の病魔」Mary Dobson 著 小林力訳 医学書院

参考書：「病気の社会史」立川祥二著 岩波現代文庫 岩波書店、

「医学探偵の歴史事件簿」小長谷正明 著 岩波新書 岩波書店、

「50の事物で知る図説医学の歴史」ギル・ポール著 原書房

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	イントロダクション 1 細菌感染症 (1) 「講義」	医薬の歴史を学ぶ意義を考える。ペスト・ハンセン病・梅毒・発疹チフス (教科書6-36ページ)	押尾 茂
2	細菌感染症 (2) 「講義」	コレラ・腸チフス・結核・産褥熱・嗜眠性脳炎 (教科書44-83ページ)	押尾 茂
3	寄生虫病 (1) 「講義」	マラリア・トリパノソーマ症・シャーガス病 (教科書84-107ページ)	押尾 茂
4	寄生虫病 (2) 「講義」	住血吸虫症・鉤虫症・オンコセルカ症 (教科書108-127ページ)	押尾 茂
5	ウイルス性疾患 (1) 「講義」	天然痘・麻しん・黄熱病・デング熱・狂犬病・ポリオ (教科書128-171ページ)	押尾 茂
6	ウイルス性疾患 (2) 「講義」	インフルエンザ・エボラ出血熱・エイズ・SARS (教科書172-207ページ)	押尾 茂
7	生活習慣病 「講義」	壊血病・クールー病・クロイツフェルト・ヤコブ病・がん・心臓病 (教科書208-247ページ)	押尾 茂

授業科目名	現代の社会福祉A 薬学周辺(選)-4-A		1～4年 前期2
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：本田ルミ子		

1. 科目の概要

社会福祉に関する基礎的知識について講義する。この科目では「社会福祉とは何か」を考え、自らの価値等をふり返り、形成するために、社会福祉の歴史、及び福祉の分野ごとの動向、課題について説明していく。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

社会福祉を学ぶことを通して、現代社会の現状と課題を学び、人と社会に関する薬剤師としての自覚をもって行動できるようになる。

3. 一般目標

社会の現状に目を向け、社会福祉について興味、関心を持つことができる。

4. 到達目標

- ①社会福祉に興味関心を持つ〔独自目標〕
- ②様々な社会問題に触れ、現代の社会状況が理解ができる〔独自目標〕
- ③自らの価値観を再吟味する〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

テキスト等もなく、事前準備は難しいが、広く世の中の出来事に対し、毎日30分くらいニュース等を読んでおくことが望ましい。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験（レポート）（80%）、出欠及び授業での発言等（20%）で評価する。

7. 教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：講義の中で、適宜、紹介します。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	社会福祉とは何か 「講義」	社会現象を社会福祉と結びつけながら考えていく	本田ルミ子
2	社会福祉の歴史 「講義」	産業革命からの歴史を通し、福祉を考える	本田ルミ子
3	貧困と福祉 「講義」	貧困問題について理解する	本田ルミ子
4	障がいと福祉 「講義」	障がいについて理解する	本田ルミ子
5	高齢者と福祉 「講義」	高齢者について理解する	本田ルミ子
6	子どもと福祉 「講義」	子どもの福祉について理解する	本田ルミ子
7	社会福祉の視点と価値 「講義」	社会福祉の視点・価値について理解する	本田ルミ子
8	定期試験		本田ルミ子

授業科目名	現代の社会福祉 B 薬学周辺(選)-4-B		1～4年 後期 1
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1 単位
担当教員	非常勤講師：本田ルミ子		

1. 科目の概要

社会福祉の知識の1つのフィールドとして、我が国の社会保障の制度を講義する。この講義を通して我が国の仕組みとしての社会福祉について理解を促していく。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

社会福祉，社会保障制度を学ぶことを通して，その現状と課題を理解し，医療と福祉に関する薬剤師の役割を考える。

3. 一般目標

医療制度が社会保障の枠組みのなかにあることを理解できる。

4. 到達目標

- ①社会福祉に興味関心を持つ〔独自目標〕
- ②社会保障制度について理解できる〔独自目標〕
- ③公的扶助，社会保険，介護保険について理解できる〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

テキスト等もなく，事前準備は難しいが，広く世の中の出来事に対し，毎日30分くらいニュース等を読んでおくことが望ましい。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験（レポート）（80％）と，出欠及び授業での発言等（20％）で評価する

7. 教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：講義の中で，適宜，紹介します。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	社会福祉とは何か「講義」	社会福祉は生活と密接に関連している事を理解する	本田ルミ子
2	社会保障制度の概要を理解する①「講義」	憲法25条, 生存権, 生活保護法を理解する	本田ルミ子
3	社会保障制度の概要を理解する②「講義」	社会保障制度を概観する	本田ルミ子
4	社会福祉関連法について「講義」	社会福祉関連法が成立した時代背景を理解する	本田ルミ子
5	社会保険について「講義」	医療保険, 介護保険, 年金保険, 労働保険等について理解する	本田ルミ子
6	医療保険制度について「講義」	医療保険の給付内容等について理解する	本田ルミ子
7	介護保険について「講義」	介護保険, 地域包括ケアシステムについて理解する	本田ルミ子
8	定期試験		本田ルミ子

授業科目名	高齢者の健康 A 薬学周辺(選)-5-A		1～3年 前期 1
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1 単位
担当教員	教授：小池勇一 教授（兼担）：廣瀬公治，山崎信也 准教授（兼担）：鈴木史彦		

1. 科目の概要

歯学部附属病院内科および歯科で診療経験を有する教員が担当する科目である。

わが国は世界でも例を見ない速度で高齢社会に突入した。また、高齢者を取り巻く環境や社会状況は近年になって大きく変貌を遂げてきている。従来は家族と同居している高齢者が一般的であったが、家族環境の変化により一人暮らしの高齢者が年々増加している。また、人口構成が少子高齢化となり、扶養者数に対する被扶養者数が年々増加していることにより、若年層に対する年金負担が重くのしかかり、若年層が高齢者層を支える扶養体制の維持が困難となりつつある。このような背景を鑑みて、高齢者の生活習慣病をはじめとした疾病予防やヘルスプロモーションにより、高齢者の健康を維持することが何よりも重要な課題となりつつある。本科目では、高齢者を取り巻く様々な問題について基本的な理解を深めていく。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、高齢者の特徴である老化のしくみや疾病の予防、介護やリハビリテーション、終末期医療など、高齢者を取り巻く種々の問題について理解することを目標としており、ディプロマ・ポリシーの1に関連する。

3. 一般目標

高齢者の国政、老化、疾患、予防、介護などについて理解を深める。

4. 到達目標

1. 人における老化について理解することができる。
2. 高齢者の健康指標について理解することができる。
3. 高齢者における身体疾患・精神疾患についての理解を深めることができる。
4. 在宅および入院や施設入所高齢者における問題点とその解決・支援方法について理解することができる。
5. 高齢者における口腔の健康、口腔機能向上、口腔ケアについて理解することができる。
6. 高齢者における災害・救急医療の特徴について理解することができる。
7. 高齢者の終末期医療およびターミナルケアについて理解することができる。

5. 授業時間外の学習

復習：講義内容はシラバスに掲載されているが、講義が中心となるので、講義内容を理解するためには配付資料に加え、講義ノートを作成することが望ましい（60分）。

6. 評価・フィードバックの方法

- ・定期試験の成績（100％）により評価する。
- ・定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。毎週、講義プリントや教材を配布する。

参考書：「高齢者保健福祉マニュアル」安村誠司，甲斐一郎（編集），南山堂，2013年，「高齢者医療」中島澄夫，オーム社，2008年

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	老化とは「講義」	老化の定義, 老化の種類, 老化のメカニズムなどについて	小池勇一
2	高齢者における健康づくり「講義」	高齢者の健康の定義, 健康指標などについて	廣瀬公治
3	高齢者の病気と疾病予防「講義」	高齢者によく見られる病気とその予防について	小池勇一
4	高齢者の介護およびリハビリテーション「講義」	在宅, 入所高齢者の介護や医学的リハビリテーションについて	鈴木史彦
5	高齢者と口腔の健康「講義」	高齢者における口腔疾患や口腔ケアなどについて	鈴木史彦
6	高齢者の救急医療「講義」	救急時, 災害時における高齢者の救急医療について	山崎信也
7	終末期医療とケア「講義」	終末期の実態やターミナルケアなどについて	小池勇一
8	定期試験		小池勇一

授業科目名	高齢者の健康 B 薬学周辺(選)-5-B		1～3年 前期 2
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）	選択	1 単位
担当教員	教授：小池勇一 教授（兼担）：廣瀬公治，山崎信也 准教授（兼担）：鈴木史彦		

1. 科目の概要

歯学部附属病院内科および歯科で診療経験を有する教員が担当する科目である。

わが国は世界でも例を見ない速度で高齢社会に突入した。また、高齢者を取り巻く環境や社会状況は近年になって大きく変貌を遂げてきている。従来は家族と同居している高齢者が一般的であったが、家族環境の変化により一人暮らしの高齢者が年々増加している。また、人口構成が少子高齢化となり、扶養者数に対する被扶養者数が年々増加していることにより、若年層に対する年金負担が重くのしかかり、若年層が高齢者層を支える扶養体制の維持が困難となりつつある。このような背景を鑑みて、高齢者の生活習慣病をはじめとした疾病予防やヘルスプロモーションにより、高齢者の健康を維持することが何よりも重要な課題となりつつある。「高齢者の健康 B」では、「高齢者の健康 A」での概論的な講義をさらに深め、各講義項目の内容をより深く解説することにより、専門的知識を習得する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、高齢者の特徴である老化のしくみや疾病の予防、介護やリハビリテーション、終末期医療など、高齢者を取り巻く種々の問題について理解することを目標としており、ディプロマ・ポリシーの 1 に関連する。

3. 一般目標

高齢者に多い疾患について症候と病態上の特徴を把握し、薬物療法、麻酔に関する留意点を学ぶ。また、老年医学と社会について理解を深める。

4. 到達目標

1. 高齢者におけるサルコペニアおよびフレイルについて説明できる。
2. 高齢者におけるロコモティブ・シンドロームの概念、診断、治療とその予防について説明できる。
3. 国民医療費と高齢者医療およびその問題点などについて説明できる。
4. 高齢者における薬物療法およびその問題点などについて説明できる。
5. 高齢者における精神、神経疾患、とくに認知症や Parkinson 症候群について説明できる。
6. 高齢者における麻酔の特徴や留意点について説明できる。
7. 高齢者のがん緩和療法の実際および終末期医療について説明できる。

5. 授業時間外の学習

復習：講義内容はシラバスに掲載されているが、講義が中心となるので、講義内容を理解するためには配付資料に加え、講義ノートを作成することが望ましい（60 分）。

6. 評価・フィードバックの方法

- ・定期試験の成績（100％）により評価する。
- ・定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。毎週、講義プリントや教材を配布する。

参考書：「高齢者医療」中島澄夫，オーム社，2008年，カラー版「老年医学系統講義テキスト」，日本老年医学会 編集，西村書店，2013年

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	サルコペニアおよびフレイルとは「講義」	サルコペニア，フレイルと老年症候群について	小池勇一
2	高齢者における健康づくり「講義」	ロコモティブ・シンドロームの基礎，評価，構成疾患について	小池勇一
3	高齢者医療と国民医療費「講義」	高齢者医療が国民医療費に及ぼす影響について	廣瀬公治
4	高齢者と薬剤「講義」	高齢者における薬物療法の原則や問題点について	鈴木史彦
5	高齢者の精神・神経疾患について「講義」	高齢者における認知症，Parkinson 症候群などについて	小池勇一
6	高齢者の麻酔「講義」	高齢者の麻酔時における特報や留意点について	山崎信也
7	終末期医療と緩和医療について「講義」	高齢者のがん緩和医療と終末期医療について	小池勇一
8	定期試験		小池勇一

授業科目名	基礎薬学計算		薬学周辺(選)-6	1 年 前期 1
授業区分	一般教養科目（薬学周辺）		選択	1 単位
担当教員	准教授：木田雄一 講師：吉田健太郎			

1. 科目の概要

薬学を学んでいく上で基礎となる物理学や化学を理解し活用するためには、薬学数学の知識と計算力が必要になる。この授業は、薬学数学を学ぶために必要な基礎学力の向上を必要とする学生を対象とする。薬学数学の理解に必要となる基本的な計算の解説と演習を繰り返しながら、計算力増強を図る。演習中は教員が教室内を巡回し、適宜指導を行う。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、社会人としての教養であると共に医療人としての使命を果たすために必要とされる「基本的な計算能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

物理学や化学の理解と活用に必要な薬学数学の学習をスムーズに行えるよう、基本的な計算力と基礎知識を身に付ける。

4. 到達目標

- ・ 分数の計算と、それを使った割合・比例計算をスムーズにできる。〔独自目標〕
- ・ 簡単な指数計算と対数計算ができる。〔独自目標〕
- ・ 方程式を使った計算ができる。〔独自目標〕
- ・ 基本的なグラフの読み書きができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：シラバスに従って講義を進めるので、その範囲の教科書を 30 分以上かけて熟読し、基本的な計算方法を理解しておくこと。

復習：授業終了後に、授業中にだされた演習問題を再度、解いてみること。（1 時間以上）どうしても解けない場合は、その週の内に教員に質問に行き、そのままにしないことが重要である。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験の結果を 80%、小テストの内容を 20% として評価する。

小テストの採点結果を随時通知する。

演習中に教室を巡回し、質問に答えるなど適宜指導する。定期試験の解答例を試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：岩崎祐一，上田晴久，佐古兼一 著，小林賢，熊倉隆二 編，わかりやすい薬学系の数学演習，講談社

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	連分数, 割合・比例計算 「講義」「演習」	連分数, 割合・比例計算の解説と演習	木田雄一 吉田健太郎
2	指数関数の基礎 「講義」「演習」	指数関数と半減期, 薬学での計算	木田雄一 吉田健太郎
3	対数関数の基礎 「講義」「演習」	対数とその性質, 対数の計算	木田雄一 吉田健太郎
4	対数関数の応用 「講義」「演習」	指数関数・対数関数のグラフ, 対数の薬学への応用	木田雄一 吉田健太郎
5	方程式の基礎 「講義」「演習」	方程式の使い方, 公式を使った計算	木田雄一 吉田健太郎
6	関数とグラフ① 「講義」「演習」	関数とグラフの関係, グラフの読み方	木田雄一 吉田健太郎
7	関数とグラフ② 「講義」「演習」	グラフの書き方	木田雄一 吉田健太郎
8	定期試験		木田雄一 吉田健太郎

授業科目名	言語学A		人文(選)-1-A	1～3年 前期1
授業区分	一般教養科目（人文科学）		選択	1単位
担当教員	准教授：伊藤頼位			

1. 科目の概要

言語学は人間が使用する言語の発音・文法・意味・歴史などを扱う学問領域である。この授業では言語の特徴をさまざまな面から探る方法を知るとともに、言語学の主要な領域についての基礎的な事項を説明する。授業の目的は普段無意識に使っている言語を客観的に分析することで言葉に対するより鋭敏な感覚を養うとともに、より良い言語コミュニケーションの基礎を作ることである。授業では日本語と英語を比較しながら説明を行うが、これらの言語の運用能力を高めることがこの授業の目的ではないことに注意されたい。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、社会人の教養の一つとして言語学の基本概念と研究成果を理解することを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

言葉に対するより鋭敏な感覚を養うために、言語を科学的に分析する言語学の中心的研究対象とその研究成果を知り、自ら言語を客観的にとらえる態度を養成する。

4. 到達目標

- (1) 言語学が対象とする事項を列挙することができる。〔独自目標〕
- (2) すべての言語が共通して持つ特徴を列挙し、それらを概説できる。〔独自目標〕
- (3) ヒトの発音器官の名称と構造を説明できる。〔独自目標〕
- (4) 言語音の分類法を説明できる。〔独自目標〕
- (5) 語形成の規則および語義関係を説明できる。〔独自目標〕
- (6) 代表的な品詞の定義を説明できる。〔独自目標〕
- (7) 文の句構造とそれに基づく多義性を説明できる。〔独自目標〕
- (8) 含意とは何か説明できる。〔独自目標〕
- (9) 含意を導く推論と文脈依存解釈を説明できる。〔独自目標〕
- (10) 第一言語の習得過程を説明できる。〔独自目標〕
- (11) 生成文法理論における普遍文法仮説を説明できる。〔独自目標〕
- (12) 言語の構造と解釈および運用について科学的に考察することができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：授業時に使用するプリントを事前に配布するので一読してから授業に臨むこと。(30分)

自主学習：授業内容に関連した書籍を1冊以上読むこと。(30分)

6. 評価・フィードバックの方法

100% レポート

観点別の評価結果を記載した個別のレポート評価表を配付する。

7. 教科書・参考書

教科書：プリントを使用

参考書：授業中に紹介する

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	言語学とは「講義」	言語学の対象と方法，言語を構成する要素	伊藤頼位
2	人間のことばが持つ特徴「講義」	恣意性，二重分節性，転位性，創造性，構造依存性	伊藤頼位
3	発音の仕組み「講義」	発音器官，調音点と調音法，母音と子音	伊藤頼位
4	単語の成り立ちと意味「講義」	形態素，語形成規則	伊藤頼位
5	文の構造「講義」	品詞と句構造	伊藤頼位
6	ことばの意味「講義」	多義性，文脈，含意	伊藤頼位
7	こどもの言語習得「講義」	第一言語の習得過程	伊藤頼位

授業科目名	言語学 B		人文(選)-1-B	1～3年 前期 2
授業区分	一般教養科目（人文科学）		選択	1 単位
担当教員	准教授：伊藤頼位			

1. 科目の概要

言語学は人間が使用する言語の発音・文法・意味・歴史などを扱う学問領域である。この授業では言語の特徴をさまざまな面から探る方法を知るとともに、言語学の主要な領域についての基礎的な事項を説明する。授業の目的は普段無意識に使っている言語を客観的に分析することで、言葉に対するより鋭敏な感覚を養うとともに、より良い言語コミュニケーションの基礎を作ることである。この授業では興味深い言語現象の幾つかを取り上げ、実際の言語分析がどのように行われるかを解説する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、社会人の教養の一つとして言語学の基本概念と研究成果を理解することを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

言葉に対するより鋭敏な感覚を養うために、言語を科学的に分析する言語学の中心的研究対象とその研究成果を知り、自ら言語を客観的にとらえる態度を養成する。

4. 到達目標

- (1) 言語学が科学的方法を用いて言語を分析する学問であることを説明できる。〔独自目標〕
- (2) 古代文字の例を挙げ、その特徴を説明できる。〔独自目標〕
- (3) 表音文字と表意文字を説明できる。〔独自目標〕
- (4) 言語音の分類法を説明できる。〔独自目標〕
- (5) 英語および日本語の音の特徴を説明できる。〔独自目標〕
- (6) 連濁がどのような現象か説明し、連濁が生じる条件について考察する。〔独自目標〕
- (7) 会話の協調原則と会話の公理を説明できる。〔独自目標〕
- (8) 会話の公理からの逸脱によって生じる含意を説明できる。〔独自目標〕
- (9) 代名詞の束縛規則について説明できる。〔独自目標〕
- (10) 受動文形成における句の移動について説明できる。〔独自目標〕
- (11) 受動文形成規則に課される制約について説明できる。〔独自目標〕
- (12) 語族の概念について説明できる。〔独自目標〕
- (13) 英語の歴史的変化について説明できる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：授業時に使用するプリントを事前に配布するので一読してから授業に臨むこと。(30 分)

自主学習：レポートの題材とするので、授業中に紹介した書籍を 1 冊以上読むこと。(30 分)

6. 評価・フィードバックの方法

100% レポート

観点別の評価結果を記載した個別のレポート評価表を配付する。

7. 教科書・参考書

教科書：プリントを使用

参考書：授業中に紹介する

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	記号と文字 「講義」	文字の特性，世界の言語で使われる文字体系	伊藤頼位
2	音声 「講義」	発音器官の特徴，言語音の分類方法	伊藤頼位
3	音韻 「講義」	日本語の連濁現象	伊藤頼位
4	会話の解釈 「講義」	会話の協調原則と会話の公理	伊藤頼位
5	統語構造 「講義」	文の句構造，文構造と意味解釈の関連	伊藤頼位
6	構文分析 「講義」	受動文の構造と機能，受動文に課される条件	伊藤頼位
7	言語の変化 「講義」	英語の歴史	伊藤頼位

授業科目名	哲学A		人文(選)-2-A	1～4年 前期1
授業区分	一般教養科目（人文科学）		選択	1単位
担当教員	非常勤講師：佐々木隼相			

1. 科目の概要

現代社会は、科学とそれに裏付けられた技術によって支えられていることは明らかである。このように科学・技術は人間社会に利益をもたらしてきた一方で、さまざまな災厄をもたらすことも、あるいは社会の対立につながることもある。その背景には、科学自体が、そして科学（・技術）をとりまく社会が複雑化してきたことが指摘される。

この授業ではこうした現代的な関心を念頭に置きながら、「科学とは何か」という問いをめぐってこれまで蓄積されてきた知見を紹介し、参加者自身が主体的に考えていく素材を提供する。その上で実際に教師と学生、学生どうしで科学をめぐる諸問題について対話を重ねていくことを予定している。対話への参加姿勢や対話後に提出する課題文を成績評価の材料とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、社会人・医療人に必要な教養である豊かな人間性と高い倫理性を身に付けることを目的としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

「科学とは何か」という問題をめぐってこれまでに提起されてきた様々な知見を習得する。特に近代科学の成立過程を歴史的経緯とともに把握し、科学哲学における様々な概念や潮流、立場を理解する。さらに以上の学習を経て習得した知見を踏まえて、自分自身が従事する科学的営みや現代社会における科学のあり方をとらえ直す視座を獲得する。

4. 到達目標

- ① 「科学」という営みとはいかなるものか、哲学の対象として「科学」を考えるためにはいかなる方法を必要とするかについて説明できる。〔独自目標〕
- ② 「科学」における推論の特徴として演繹法と帰納法を説明できる。〔独自目標〕
- ③ 科学的説明の特徴を説明できる。〔独自目標〕
- ④ 科学的实在論とそれに対立する立場の考えを説明できる。〔独自目標〕
- ⑤ 歴史的・社会的文脈から把握した際の「科学」の特徴を説明できる。〔独自目標〕
- ⑥ 日本における科学論の特徴を説明できる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

- ① シラバスを読み、授業のテーマや内容に関連する事項を図書館やインターネットで調べておく。
- ② ①で調べた事柄に対し、自分の立場や意見を考えておく。
- ③ ②で考えた内容を自分なりにまとめておく。その際、論理的なつながりを意識する。

＊ ①②③の学習準備にかかる時間は30～60分程度。

以上の事前学習を通じて授業時の理解度が上がる。また授業中に発言を求められたときの準備としても必要となる。

6. 評価・フィードバックの方法

- ① 授業参加・発言等の内容：50%（教師との対話、学生同士の対話〈グループでの対話〉）
- ② 課題文の論理性：50%（毎回授業時に授業で取り上げた内容へのみずからの考えをまとめて提出する）
課題文については次週以降に総評として説明する。

7. 教科書・参考書

教科書：なし。毎回プリントを配付する。

参考書：なし。必要に応じて案内する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オリエンテーション 「科学」とは何か？ 「講義」	オリエンテーション 「科学とは何か」「哲学とは何か」を考える。	佐々木隼相
2	科学史① 近代科学の確立 「講義」	近代科学の確立に至るまでの歴史的経緯を整理し、その特徴について考える。	佐々木隼相
3	科学哲学① 科学的推論／科学における説明 「講義」	科学の方法としての推論について演繹・帰納それぞれの長所と短所について考える。また科学的説明をめぐる種々の考え方を学び、その限界についても考察する。	佐々木隼相
4	科学哲学② 実在論と反実在論 「講義」	科学的実在論と、反実在論・道具主義について考える。特に事象の観察可能・不可能性めぐってそれらの立場の違いとその意味を考察する。	佐々木隼相
5	科学史② 科学革命 「講義」	「科学革命」にかんする考えを通じて、科学の変化をめぐる哲学上の問題について考える。科学における合理性や客観性についても考察する。	佐々木隼相
6	科学技術社会論① 現代社会における科学・技術 「講義」	現代社会に組みこまれた「科学・技術」の諸問題について考える。その際、現代社会において要求される倫理や社会的責任についても考察する。	佐々木隼相
7	科学史③ 日本の科学論 「講義」	近代日本（主に明治時代～戦後）における科学をめぐる多様な言説の存在とその歴史的展開、特徴を考える。	佐々木隼相

授業科目名	哲学B	人文(選)-2-B	1～4年 前期2
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：佐々木 隼相		

1. 科目の概要

今日環境問題は深刻な課題として共有されている、それは人間と自然の関わり方を再考することを要求していることもよく知られている。たとえばSDGsなどに象徴されるように自然との持続可能な付き合い方が世界的に模索されている。古来、人間社会は自然をさまざまな形で利用してきた。現代においては科学とそれに裏付けられた技術が高度・精密化していくにつれ、人間社会は自然をいっそう利用・改変し、結果として人工物のなかで生活するようになったとつとに指摘されもしている。

この授業では以上の問題関心を踏まえ、そもそも「自然と何か」という問題や、あるいは自然を対象としたさまざまな思考の歴史を振り返りながら、人間にとって自然がいかなる存在として認められてきたのかをめぐる知見を参加者に提供する。その上で実際に教師と学生、学生どうして自然をめぐる諸問題について対話を重ねていくことを予定している。「哲学A」同様、対話への参加姿勢や対話後に提出する課題文を成績評価の材料とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、社会人・医療人に必要な教養である豊かな人間性と高い倫理性を身に付けることを目的としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

「自然とは何か」「自然を考えることはいかなる意味をもつか」という問題をめぐってこれまでに提起されてきた様々な知見を習得する。特に自然と人間の関係をめぐる思想の歴史的な展開過程を把握し、そこで積み重ねられてきた諸概念や思想的潮流を理解する。さらに以上の学習を経て習得した知見を踏まえて、現代において喫緊の課題である自然と人間の関係性をとらえ直す視座を獲得する。

4. 到達目標

- ① 「自然」とは何か、自然と人間の関係はいかに考えられてきたのかについて考えることができる。
〔独自目標〕
- ② 「自然」をめぐる生命論の諸相を説明できる。〔独自目標〕
- ③ 「自然」をめぐる技術論の諸相を説明できる。〔独自目標〕
- ④ 翻訳語としての「自然＝Nature」が日本における「自然」認識において有する特徴を説明できる。
〔独自目標〕
- ⑤ 日本における自然哲学の特徴を歴史に照らして説明できる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

- ① シラバスを読み、授業のテーマや内容に関連する事項を図書館やインターネットで調べておく。
- ② ①で調べた事柄に対し、自分の立場や意見を考えておく。
- ③ ②で考えた内容を自分なりにまとめておく。その際、論理的なつながりを意識する。

＊ ①②③の学習準備にかかる時間は30～60分程度。

以上の事前学習をつうじて授業時の理解度が上がる。また授業中に発言を求められたときの準備としても必要となる。

6. 評価・フィードバックの方法

- ① 授業参加・発言等の内容：50%（教師との対話、学生同士の対話〈グループでの対話〉）
- ② 課題文の論理性：50%（授業時に授業で取り上げた内容へのみずからの考えをまとめて提出する）
課題文については次週以降に総評として説明する。

7. 教科書・参考書

教科書：なし。毎回プリントを配付する。

参考書：なし。必要に応じて案内する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オリエンテーション ：哲学Aの復習／「自然」とは何か？ 「講義」	オリエンテーション 哲学Aの内容を復習し、哲学Bの内容につなげる。 「自然とは何か」について考えることで、「自然」を哲学上の問題として捉える意義を考察する。	佐々木隼相
2	自然の哲学史① ：自然と自然ではないもの(1) 「講義」	「自然」と自然ではないものの関係を歴史を踏まえて考える。その際、「自然」とそうではないものを対立的に捉える立場をめぐって検討する。	佐々木隼相
3	自然の哲学史② ：自然と自然ではないもの(2) 「講義」	前回に続いて「自然」と自然ではないものの関係を歴史を踏まえて考えるが、今回は「自然」とそうではないものを連続的に捉える立場をめぐって検討する。	佐々木隼相
4	自然の哲学史③ ：自然の「脱人間化」 「講義」	前回までの自然と人間の関係が再考・批判されていく経緯を考える。その際、ニーチェら、19世紀までの思想史上の問題として検討する。	佐々木隼相
5	自然の哲学史④ ：現代における自然哲学の諸側面 「講義」	20世紀以降現在に至るまでの自然をめぐる思考の諸側面を、特に「生命」「技術」をめぐって積み重ねられてきた思想を通じて考える。	佐々木隼相
6	日本における自然認識① ：「自然と作為」と翻訳語「自然＝Nature」 「講義」	日本における「自然」概念の変遷について考える。その際、日本においては「自然」が19世紀に造られた翻訳語であることに留意し、翻訳という営みがもたらす認識上の諸問題も検討する。	佐々木隼相
7	日本における自然認識② ：三枝博音にみる日本の自然哲学 「講義」	哲学者・三枝博音（1892～1963）の文章をつうじて、日本における自然哲学の特徴を考える。また安藤昌益や三浦梅園といった江戸時代の思想家も取りあげる。	佐々木隼相

授業科目名	文化学・文化学A	人文(選)-3	1～3年 前期2
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：伊藤オディ		

1. 科目の概要

近年、海外の人が日本に住むこと、日本人が海外に行くことが増えています。職場環境でも海外の人と一緒に働く機会も多くなっています。いずれは海外の上司の元で働くことも増えていくでしょう。この時代に必要とされる能力は、国際的な価値観です。海外のことを知り、海外の人とどうコミュニケーションを取っていくか、日本のことをどう説明していくかなど課題は沢山あります。この授業ではまず、世界にはどんな国があり、どんな文化を持っているのか、海外の人と円滑にコミュニケーションを図るには何が重要なのかなどを学んでいきます。授業の中で、PPTで文化を知り、会話の話題を増やすため、習慣、芸術、衣食住、言語、考え方を始め、一通りその国や国民性を学びます。ワークショップ、グループワーク、ディスカッションをメインに授業を進めます。学生さん一人一人の授業への参加、発言、質問、貢献が重要です。クラスが一同となり楽しいかつ、有意義な授業にしていきたいと思います。授業中にスマホ、タブレットのいずれかを使用する為、あらかじめ学校のWi-Fi、回線接続などをご準備ください。オンラインで海外の人とチャットしてみることは必須です。場合によっては、リアルに会って話す機会もあります。授業中スマホを使ったオンライン対戦クイズなどが出てきます。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、国際的価値観・異文化理解を養い、コミュニケーション能力の向上を目的とするので、ディプロマポリシー1に関連する。

3. 一般目標

様々な国や文化の人と円滑にコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

4. 到達目標

- 1 ターゲット国々についての知識を深め、会話できる話題を増やす。
- 2 実際に海外の人とコミュニケーションを図り、実践的な経験を積む

5. 授業時間外の学習

予習：20分程度 それぞれの文化について、簡単にネットリサーチをしておくこと。プレゼンがある週のみ、グループで集まって1時間程度のプレゼン準備を事前に行ってください。

6. 評価・フィードバックの方法

評価：教員の観察による授業参加の積極性を評価 50% 振り返りシートの記載内容 50%

フィードバック

1. 授業中随時質問を受け付ける。
2. 振り返りシートに質問があった場合は、次回の授業内でフィードバックを行う。

7. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オリエンテーション (ワークショップ)	グループ分け, 自己紹介, 授業の進め方の説明	伊藤オディ
2	英語圏の文化 (講義・ワークショップ)	アメリカ, イギリス, オーストラリア, カナダの文化について学ぶ。	伊藤オディ
3	中国語圏の文化 (講義・ワークショップ)	中国, 台湾, 香港の文化について学ぶ。	伊藤オディ
4	旧ソ連圏の文化 (講義・ワークショップ)	ロシア, ウクライナ, ベラルーシーを始め, 周辺国の文化について学ぶ。	伊藤オディ
5	欧米圏の文化 (講義・ワークショップ)	フランス, スペイン, イタリア, ドイツの文化について学ぶ。	伊藤オディ
6	その他国々の文化 (講義・グループワーク・プレゼン)	グループごとに一つの国を選んでもらい, プレゼンを準備し, 発表する。	伊藤オディ
7	モンゴルの文化	近年注目されている日蒙関係について学び, 今後の発展について考える。学生さんの今後に役立つよう, 質疑応答の時間を長くする。	伊藤オディ

授業科目名	文学A		人文(選)-4-A	1～4年 後期1
授業区分	一般教養科目（人文科学）		選択	1単位
担当教員	非常勤講師：柴田尚子			

1. 科目の概要

様々な分野で先進技術が進む現代において、その発展が著しい一方、多くの問題も起きていることは否定できない。そのような中、文学は読者に今後起こりうる問題を提起し、読者に一度立ち止まり考えることを求めている。

本講義では、ジョディ・ピコーの『私の中のあなた』(My sister's keeper, 2004) とカズオ・イシグロの『私を離さないで』(Never let me go, 2005) を中心に扱う。医療を扱う文学作品に触れることで、受講者それぞれがその作品が提起している問題を理解し、関心を持ち、思考する過程を享受するきっかけとなることを望む。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医療を扱う文学作品を通して、教養を深めると共に、様々な問題に関心を持つことを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

医療問題を扱った英語の小説を読むことで、小説の英語に触れると同時に、提起している問題に関心を持ち、自分なりの考えを明確にする。

4. 到達目標

- (1) DVD を鑑賞し、英語の作品に触れる。〔独自目標〕
- (2) 小説の英語に触れ、その内容を理解することができる。〔独自目標〕
- (3) 小説が提起する問題について自分の考えを自分の言葉で表現することが出来る〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

授業は講義形式で行う。授業時にハンドアウトを配布し、作品に触れながら、授業で提起した問題について自分の考えや意見をまとめられるようにする。第2回目の授業から前の授業で配布した作品の英文を30分から1時間程度かけて調べ、読んでくる。授業後は1時間程度作品を通じて提示された問題について調べ、自分の考えを深める。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験：60% (レポート)

授業内課題：40% (授業終了時にコメントを書いてもらい、次の講義でそれをまとめた上で解説する。)

7. 教科書・参考書

教科書：プリントを配布する。

参考書：英和辞典

その他、必要であれば、随時配布・紹介する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	ガイダンス 『わたしを離さないで』 「演習」と「講義」	授業と注意事項の説明 DVD鑑賞	柴田尚子
2	『わたしを離さないで』 「演習」と「講義」	DVD鑑賞 作品読解, 内容理解, 解説	柴田尚子
3	『わたしを離さないで』 「演習」と「講義」	DVD鑑賞 作品読解, 内容理解, 解説	柴田尚子
4	『わたしのなかのあなた』 「演習」と「講義」	DVD鑑賞 作品読解, 内容理解, 解説	柴田尚子
5	『わたしのなかのあなた』 「演習」と「講義」	DVD鑑賞 作品読解, 内容理解, 解説	柴田尚子
6	『わたしのなかのあなた』 「演習」と「講義」	DVD鑑賞 作品読解, 内容理解, 解説	柴田尚子
7	『わたしのなかのあなた』 「演習」と「講義」	DVD鑑賞 作品読解, 内容理解, 解説	柴田尚子
8	定期試験		柴田尚子

授業科目名	文学B 人文(選)-4-B		1～4年 後期2
授業区分	一般教養科目（人文科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：柴田尚子		

1. 科目の概要

現在のコロナ禍のように、歴史上、感染症のパンデミックはこれまでも起こっている。16世紀から17世紀にイギリス、ロンドンで流行したペストもその一つである。現代と同じように、催し物や娯楽、宴会などが規制され、当時活躍していたウィリアム・シェイクスピアも劇場閉鎖の影響を受けた。シェイクスピア自身作品の中でペストについて描くことはほとんどなかった。その後当時のペストの状況を記したダニエル・デフォーの『ペスト』(A Journal of the Plague Year, 1722)では、現在のコロナ禍との共通点を垣間見ることができる。本講義では、16世紀から17世紀のイギリス文学を通じて、ペスト禍での状況を知り、現在、コロナ禍をどのように考え、乗り切ればよいのかを学ぶ機会になればと思う。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医療を扱う文学作品を通して、教養を深めると共に、様々な問題に関心を持つことを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

16世紀から17世紀ロンドンでペストが流行した状況に関する文献を読むことで、英語に触れ、当時の状況への理解を深め、現代のコロナ禍について考えていく。

4. 到達目標

- (1) 演劇や詩、文献の英語に触れる。〔独自目標〕
- (2) 演劇や詩、文献を理解することができる。〔独自目標〕
- (3) 当時の状況を理解し、当時の経験を現代にどのように生かすかを考えていく。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

授業は講義形式で行う。授業時にハンドアウトを配布し、作品に触れながら、授業で提起した問題について自分の考えや意見をまとめられるようにする。第2回目の授業から前の授業で配布した作品の英文を30分から1時間程度かけて調べ、読んでくる。授業後は1時間程度作品を通じて提示された問題について調べ、自分の考えを深める。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験：60%（レポート）

授業内課題：40%（授業終了時にコメントを書いてもらい、次回の講義でそれをまとめた上で解説する。）

7. 教科書・参考書

教科書：プリントを配布する。

参考書：英和辞典

その他、必要であれば、随時配布・紹介する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	ガイダンス 概説	授業と注意事項の説明 16～17世紀ロンドンでのペスト禍	柴田尚子
2	シェイクスピア時代の作品についての 「演習」と「講義」	作品の読解，内容理解，解説	柴田尚子
3	シェイクスピア時代の作品についての 「演習」と「講義」	作品の読解，内容理解，解説	柴田尚子
4	ダニエル・デフォー『ペスト』について の「演習」と「講義」	作品の読解，内容理解，解説	柴田尚子
5	ダニエル・デフォー『ペスト』について の「演習」と「講義」	作品の読解，内容理解，解説	柴田尚子
6	ダニエル・デフォー『ペスト』について の「演習」と「講義」	作品の読解，内容理解，解説	柴田尚子
7	ダニエル・デフォー『ペスト』について の「演習」と「講義」	作品の読解，内容理解，解説	柴田尚子

授業科目名	経済学A	社会(選)-1-A	1～4年 前期1
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：後藤康夫		

1. 科目の概要

テーマ：(ポリティカル・エコノミー入門) 21世紀の人類史的転換を考える。21世紀の世界は、これまで「あたりまえ」とされてきた社会のしくみや習慣が、足元から揺らぎ、巨大な地殻変動のなかにあります。私たち、人類は、どこへ向かうのでしょうか。本講義では、この変化を、人類史的スケールの転換と捉え、社会と人間存在の根元から、「考え方」をじっくり深めていくこととします。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養のひとつとされるコミュニケーション能力を、アクティブ・ラーニングとプレゼンテーションを通して、身につけることを目標としており、ディプロマポリシー1に関連する。

3. 一般目標

- ①地球市民としてスケール大きなものの見方、考え方を身につける。
- ②「世界の解剖学」としての経済学を身につける。その際、経済学を「出来上がった知識」としてではなく、「社会認識」のプロセスにおいて「行動の指針」として学ぶ。

4. 到達目標

- ①他者の意見に耳を傾け、理解する。
- ②自分の意見を、わかりやすく相手に伝える。
- ③講義は、学生参画型を採用し、学生の皆さん方との討論、学生自身のグループ・ディスカッションを行いながら、進めていく。したがって、コミュニケーション能力が求められる。

5. 授業時間外の学習

世界はいま、大変な激動期にあります。新聞やテレビ、インターネットを通して、「世界の動き」を敏感にキャッチすることが望まれます。もちろん、テキストを事前に読んで予習することや、理解できなかったところを自分で復習したり、それでも理解できなかった場合は、担当教員に質問することは大前提です。そのためには、本屋さんや図書館に出向くなど、「自分の手と足で調べる」ことが求められます。目安として、毎回、テキストの予習時間は20分、ノートや配布された資料などで復習する時間は20分。

6. 評価・フィードバックの方法

出席や討論への参加は大前提で、レポートを作成する（A4サイズで、1枚はテキストに関して、もう1枚は配布資料に関して、合計2ページ：100%）。

7. 教科書・参考書

教科書：オードリー・タン（台湾の最年少デジタル大臣で、ウイルス対策で陣頭指揮をとり有名に）『自由への手紙』講談社、2020年、本体1400円

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	A 格差・不平等から自由になる。 (1) 声をあげる Z 世代	気候変動 グレタの「金曜日学校ストライキ」	後藤康夫
2	(2) 新しい社会的価値の創造	「成長」から「成熟」へ 「豊かさ」から「幸福」へ	後藤康夫
3	(3) AI と労働の未来	人間的活動 ベーシック・インカム	後藤康夫
4	(4) まとめ：「新しい資本種後」の問題	ステークホルダー資本主義 ポスト資本主義	後藤康夫
5	B ヒエラルヒー組織（国家と企業） から自由になる	サイバースペース メタバース アバダー	後藤康夫
6	C ジェンダー（男と女）から自由になる	LGBTQ 性の多様性	後藤康夫
7	D 家族（家父長制）から自由になる	「家と家」から「個人と個人」へ 個人の尊厳	後藤康夫
8	総括と展望	地球市民 自由と平等 選択できる社会	後藤康夫

授業科目名	経済学B 社会(選)-1-B		1～4年 前期2
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：後藤康夫		

1. 科目の概要

ねらい：（現状分析・歴史・理論） ネット・デジタル資本主義論。21世紀に入り、とくに今回のCOVID-19パンデミックを機に、ネット・デジタル空間（サイバースペース）が職場と学校、そして生活のなかに深く入り込み、すっかり定着しました。私たち、人類は、いまやリアル空間とバーチャル空間という二つの空間で、いわば「二重生活」を送っています。いや、それ以上に、ネット空間という新世界が、リアル空間を旧世界に追い込み、グローバルに、一気に、すべての分野にわたって変革しつつあります。そこで、本講義では、①このネット・デジタル空間の特徴（万人公開・参加、共有、自律分散）と、②GAFA（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）などのネット企業による、この新世界の占拠・独占が引き起こす問題（監視資本主義）を、現状・歴史・理論から探っていくこととします。なお、講義は、資料として、日本経済新聞などの記事を配布、読み合わせを行い、受講生による討論の形で進める。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養のひとつとされるコミュニケーション能力を、アクティブ・ラーニング方式とプレゼンテーションを通して身につけることを目標としており、ディプロマポリシー1に関連する。

3. 一般目標

- ① ネット・デジタル空間というグローバルな問題をスケール大きく、地球市民として考えることができる。
- ② 問題を歴史的、体系的に整理し、論理的に思考できる。

4. 到達目標

- ① 他者の意見に耳を傾け、理解する。自分の意見を、わかりやすく相手に伝える。
- ② 講義は、学生参画型を採用し、学生の皆さんのプレゼンテーションと討論を行いながら進める。従って、確かなコミュニケーション能力が求められる。
- ③ 内容としては、ネット・デジタル空間を、人類史的スケールにおいて、私たちの世界観・人間観にまで踏み込んで、吟味する。そこから、21世紀の世界像を構想する。

5. 授業時間外の学習

世界も日本も、大変な激動期にあります。新聞やテレビ、インターネットを通して、「世界の動き」、「日本の動き」を敏感にキャッチすることが望まれます。もちろん、テキストを事前に読んで予習することや、理解できなかったところを自分で復習したり、それでも理解できなかった場合は、担当教員に質問することは大前提です。そのためには、本屋さんや図書館に出向くなど、「自分の手と足で調べる」ことが求められる。目安としては、毎回、テキストの読んで予習する時間20分、ノートなどで復習する時間20分。

6. 評価・フィードバックの方法

出席や討論への参加は大前提で、配布資料を材料に、レポートを作成する（A4サイズで2枚：100%）。

7. 教科書・参考書

教科書：なし（ただし、資料を配布する）

参考書：梅田望夫『ウェヴ進化論—本当の大変化はこれから始まる—』ちくま新書，2006年。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	A 現状分析 (1) Z世代の身近な世界	eスポーツ K-POP (BTS) NCT	後藤康夫
2	(2) ネットは「もう一つのリアル」になるのか	メタバース アバター	後藤康夫
3	(3) デジタル通貨	フェイスブックのリブラ デジタル人民元	後藤康夫
4	(4) アップルのiphoneはどこで設計・製造	米中の経済的相互依存と対立されているか	後藤康夫
5	B ネット空間の基本対抗 (1) オープンソースのリナックス（本流）	連帯・労働の新しい原理「万人公開・参加, 共有, 自律分散」	後藤康夫
6	(2) グーグル（逆流・監視資本主義）	知的所有権 個人情報への深掘り	後藤康夫
7	C 理論 (1) 労働からコミュニケーションへ	自発的活動 共感	後藤康夫
8	(2) 市場からネットワークへ	ポスト資本主義	後藤康夫

授業科目名	社会学A		1～4年 後期1
授業区分	一般教養科目（社会科学）	社会(選)-2-A 選択	1単位
担当教員	非常勤講師：高橋嘉代		

1. 科目の概要

社会学は近代社会の成立と相前後として生まれた。近代社会において、産業革命や身分制度の崩壊を背景として科学的・合理的世界観が広まり、様々な社会現象をより客観的に把握・分析しようとする態度が現れた。これが「社会学」という学問分野のはじまりである。

社会学において分析の対象となるのは、「複数の人間および社会集団が常時関わり合うこと」を前提として成り立つ社会の仕組みそのものであり、社会学者たちもその仕組みの解説を様々な切り口から試み続けてきた。そこでこの授業においても、「家族」や「役割」、「集団・組織」など我々が日々の生活の中で比較的身近に接する事象や関係性に注目し、関連する議論を紹介したい。受講前に必要とされる知識は特にないが、日常生活において自明視しがちな社会の仕組みや人と人との関わり方の枠組みに対する気づきの力を育むことをこの授業の目標とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、複雑化する社会構造と社会現象を分析的に把握・理解する能力を身につけるものであり、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

社会学の基礎知識を学び、現代社会の基本的構造、様々な集団・組織の構成原理、人々のつながりのあり方についての今日的な課題について理解できるようになることを目標とする。

これらの過程を通して、現代社会における様々な課題への感心と分析力を是非身につけて欲しい。

4. 到達目標

1. 社会学の基礎知識を身につけ、世の中で発生する様々な社会現象を分析的に把握できる。〔独自目標〕
2. 現代社会における様々な社会システムと、それぞれの連関について概説できる。〔独自目標〕
3. 「個人的なこと」と「社会的なこと」とのそれぞれのつながりを考える。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

受講前に必要とされる知識および技能は特にはないが、授業でとりあげたトピックから日常生活に対する知的好奇心を持ち続ける態度を是非育くまれない。また、授業後には授業の配布資料を再読し、授業中に示された統計データ等を確認されたい（30分程度）。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験 100%（記述式：授業配布資料に限り持ち込み可）

定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：特になし。教員作成の資料を使用する。

参考書：適宜授業中に紹介する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	社会学ことはじめ：社会学誕生とその背景「講義」	西欧近代社会の成立過程と，最初期の社会学者の「世の中の見方」について紹介する。	高橋嘉代
2	社会から人を見る・人から社会を見る・社会から社会を見る：デュルケム，ウェーバー，パーソンズの社会学「講義」	社会学の歴史において大きな足跡を残したデュルケム・ウェーバー・パーソンズの議論とその特徴について紹介する。	高橋嘉代
3	社会構造と社会階層「講義」	「社会階層」の概念を学び，社会階層が社会構造に及ぼす影響について考える。	高橋嘉代
4	自己と他者，そして役割「講義」	自己と他者，そして役割についての基礎理論とその考え方について紹介する。	高橋嘉代
5	家族の仕組みとはたらき「講義」	家族の類型とその機能について学ぶ。	高橋嘉代
6	集団と組織「講義」	集団と組織についての基礎的な考え方を学ぶ。	高橋嘉代
7	地域社会の構造とはたらき「講義」	地域社会についての基礎理論および地域社会の変化について学ぶ。	高橋嘉代
8	定期試験	授業配付資料に限り持ち込み可。	高橋嘉代

授業科目名	社会学 B		社会(選)-2-B	1～4年 後期 2
授業区分	一般教養科目（社会科学）		選択	1 単位
担当教員	非常勤講師：高橋嘉代			

1. 科目の概要

社会学 B では、社会学 A で学習した基礎理論を展開させながら、今とこれからの医療・福祉について重要な論点を提示するトピックを紹介したい。現代社会における医療が向き合っている様々な課題への関心と分析力育むために、現代社会の基本的構造、様々な集団・組織の構成原理、人々のつながり・かかわりに関する今日的な課題について分析・考察できるようになることを目標とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、複雑化する現代社会において、人々と医療との関わりを社会学の知見を参考に医療人として分析的に理解し社会に還元してゆく能力を身につけるものであり、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

1. 社会学の基礎理論と中心的な論者について知識を深める。
2. 健康／疾病と生活についての今日的な課題を理解する。
3. 生活者そして医療者として、社会学的な分析力および考察力を身に付ける。

4. 到達目標

1. 社会学の基礎知識を身につけ、世の中で発生する様々な社会現象を分析的に把握できる。〔独自目標〕
2. 現代社会における様々な社会システムと、それぞれの連関について概説できる。〔独自目標〕
3. 「個人的なこと」と「社会的なこと」とのそれぞれのつながりを考える。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

受講前に必要とされる知識および技能は特にはないが、授業でとりあげたトピックから日常生活に対する知的好奇心を持ち続ける態度を是非育くまれない。また、授業後には授業のプリントを再読し、授業中に示された統計データ等を再度確認されたい（30 分程度）。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験 100%（記述式：授業配布資料に限り持ち込み可）

定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：特になし。教員作成の資料を使用する。

参考書：適宜授業中に紹介する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	現代社会と医療 「講義」	現代社会における医療について概観する。	高橋嘉代
2	社会問題と逸脱 「講義」	社会問題と逸脱についての理論を学ぶ。	高橋嘉代
3	社会的行為としてみた医療 「講義」	医療施設において行われる医療を社会的行為の一つとして把握する。	高橋嘉代
4	役割と医療 「講義」	医療の現場における専門職についての議論および医師・患者役割に関する議論を学ぶ。	高橋嘉代
5	感情労働と医療 「講義」	医療の現場における感情労働についての議論を学ぶ。	高橋嘉代
6	「病い」の語り 「講義」	疾病／病いを「語ること」について考察する。	高橋嘉代
7	死をめぐる認識とその文脈 「講義」	死をめぐる「認識文脈」の変遷について学ぶ。	高橋嘉代
8	定期試験	授業配布資料に限り持ち込み可。	高橋嘉代

授業科目名	法学・法学 A		社会(選)-3	1～4年 前期 1
授業区分	一般教養科目（社会科学）		選択	1 単位
担当教員	非常勤講師：山田 朋生			

1. 科目の概要

この講義では、主に六法及び薬剤師に関わる法律をベースに重要な法律及び行政や法律に関する政策・制度を素材として、「法の使い方」を解説しながら、法律の初心者が今後法の専門分野を学ぶために必要な法の基礎知識を習得することを目的とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医療及び薬学に関する法令等を学ぶことにより、当該専門職として保険、福祉、健康増進に寄与するとともに、現行法令との関係について基礎事項を習得することを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 及び 2 に関連する。

3. 一般目標

本講義では、（１）法律の専門用語と（２）今後、法律関係科目を履修する際に必要な基礎（土台）を理解するとともに、（３）社会人としての教養を身に付けることができるようになる為の法律学を習得する。

4. 到達目標

- （１）現行法令における専門用語を概説することができる。
- （２）今後、法律関係科目を履修する際に必要な基礎（土台）が概説できる。
- （３）社会人の教養として、基礎的な法律学を活用できる。

5. 授業時間外の学習

事前学修：各授業内容に掲げる提供話題を確認し、受講の準備をしておく。（最大 120 分）

事後学修：教科書や配布資料を一読し、提供話題に関する私見を持てるようにする。（最大 120 分）

6. 評価・フィードバックの方法

定期テスト（100％）で評価する。定期テストの解答例は、試験終了後に希望者に対して解説をする。

7. 教科書・参考書

教科書：Next 教科書シリーズ 法学〔第 3 版〕（弘文堂）

参考書：開講時に必要に応じて適宜指示をする。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	はじめに 「講義」	一般社会と法のかかわり	山田朋生
2	法の体系と形式 「講義」	法源・法の分類等	山田朋生
3	法と裁判 「講義」	法の適用の意義・必要性, 裁判所・各種の裁判手続き	山田朋生
4	法の解釈の諸方法 「講義」	法解釈の意義・必要性, 様々な解釈方法	山田朋生
5	法の種類 「講義」	基本六法, 法の目的等	山田朋生
6	情報と法 「講義」	個人情報保護, プライバシー権, 知る権利(情報公開)等	山田朋生
7	医療及び薬学と法 「講義」	薬剤師に関わる法律, 行政政策・制度, コンプライアンス・倫理等	山田朋生
8	定期試験		山田朋生

授業科目名	歴史学A		社会(選)-5-A	1～4年 後期1
授業区分	一般教養科目（社会科学）		選択	1単位
担当教員	非常勤講師：柳田春子			

1. 科目の概要

郡山は奥州街道の宿駅であり、各地への交通も開け、二本松藩安積三組の代官所および蔵場もあったことから、在郷町として発達した。文政7年（1824）閏8月には、「村」から「町」へ昇格をゆるされて「郡山町」が誕生した。

郡山は、諸大名の参勤交代の休泊や人馬継ぎ立て、問屋場の整備・拡大により、旅籠屋商店の町並みも発達した。また、全国的な通信・通送を請負う京屋・島屋の進出もあり、ますます町場としての機能を拡大し、城下町の特権商人に劣らない資力をもつ商人も出現したのである。

宝暦12年（1762）以降頃から、藩は幕府の御手伝普請やその他の公務、藩主の臨時的な支出を賄うため、領内の農商からの貸上金・才覚金などの徴収が不可欠となっていたが、郡山・本宮などの在郷商人の財力に頼らねば、藩体制は維持できなくなっていた。

受講者が、郡山の発展の基礎は江戸時代にすでに芽生えていたことを理解し、当時の「郡山宿の賑わい」の様子知り、農民の負担実態も理解できることを目的とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、社会人の教養の一つである歴史を学び幅広い視野を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

実際生活している現在の郡山市の歴史の理解を深め、郡山に残っている記録（資料）などから歴史を身近なものとして考えられるようになり、歴史のながれの中に生活していることに気付く。

4. 到達目標

- 1 郡山が奥州街道（仙台・松前道）の宿駅として発展してきたことについて説明できる。〔独自目標〕
- 2 当時の交通手段である伝馬制度と寄人馬（助郷）について説明できる。〔独自目標〕
- 3 問屋の整備と諸大名・幕府役人の休泊が宿にとって負担となっていたことについて説明できる。〔独自目標〕
- 4 郡山が宿場町であり旅籠屋が軒を並べ賑わっていたことや当時の社会の矛盾について説明できる。〔独自目標〕
- 5 軒並図から江戸時代の郡山宿の姿について説明できる。〔独自目標〕
- 6 文政7年の「村」から「町」への昇格を当時の史料を示し、行政側と民間側からの動きを説明できる。〔独自目標〕
- 7 貨幣経済の拡大と商品作物の流通により、物価高騰し、大名も献金が無くては藩運営ができなかったこと、格式という賞誉を与えて献金をうけていた社会状況を説明できる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

レポート提出を課すので、できるだけ通して出席をすること。毎回渡すプリントなどの資料を目を通しておくこと。（30分）

6. 評価・フィードバックの方法

- ①授業時の態度（観察による評価）：40%
- ②レポート：60%提出されたレポートに関するコメントシートを配付する。

7. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配布する。
参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	郡山宿の歴史（1） 「講義」	二本松藩の成り立ちと郡山宿について	柳田春子
2	郡山宿の歴史（2） 「講義」	奥州街道の宿駅・伝馬制度と寄人馬（助郷）	柳田春子
3	郡山宿の歴史（3） 「講義」	問屋の整備と諸大名・幕府役人の休泊	柳田春子
4	郡山宿の歴史（4） 「講義」	旅籠屋と飯盛女	柳田春子
5	郡山宿の歴史（5） 「講義」	軒並図からみた郡山宿の様子	柳田春子
6	郡山宿の歴史（6） 「講義」	文政七年の郡山宿昇格について	柳田春子
7	郡山宿の歴史（7） 「講義」	献金・賞誉と農民の負担	柳田春子

授業科目名	歴史学 B 社会(選)-5-B		1～4年 後期 2
授業区分	一般教養科目（社会科学）	選択	1 単位
担当教員	非常勤講師：柳田春子		

1. 科目の概要

安積疏水は、明治政府が大規模な東北地方開発政策を掲げるなかでこれをその中心に据え、国営事業第一号として総力をあげて完成させた一大土木遺産である。安積疏水の恵みは、農業用水のほか、発電、工業用水・飲料水など広範囲に及んでいる。

安積疏水が産業の近代化に果たした役割にスポットをあて、この時代の商工業の発達、現在の郡山の町の姿の原型となっていることを理解できるようにする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、社会人の教養の一つである歴史を学び幅広い視野を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

戊辰戦争の兵火により町が焼かれたにうえ、藩も消滅したなかでの村役人たちの行動と役割を知る。岩倉使節団に参加していた安場保一や大久保利通と郡山のかかわりを通して、明治初期の郡山の歴史が動いたことを理解する。郡山が江戸末期約 4,500 人弱の宿場町から現在は 32 万人の人口を持つ中核都市となっていることを資料を通して理解する。

4. 到達目標

- 1 安積疏水ができる前の郡山の農業用水事情と江戸末期にあった湖水東注を考えた人々について説明できる。〔独自目標〕
- 2 県令安場保和指揮の県の安積開拓のはじまりと桑野村の誕生について説明できる。〔独自目標〕
- 3 安積疏水の調査と設計と安積疏水の開削について説明できる。〔独自目標〕
- 4 明治政府による国営安積開墾について説明できる。〔独自目標〕
- 5 安積疏水の恩恵 ～製糸業～ の発達について説明できる。〔独自目標〕
- 6 安積疏水の恩恵 ～水力発電～ について説明できる。〔独自目標〕
- 7 安積疏水の恩恵 ～上水道～ について説明できる。〔独自目標〕
- 8 安積疏水の維持・管理と商業の町から工業の町へ変革した様子を説明できる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

レポート提出を課すので、できるだけ通して出席をすること。毎回渡すプリントなどの資料を目を通しておくこと。(30 分)

6. 評価・フィードバックの方法

- ①授業時の態度（観察による評価）：40%
- ②レポート：60% 提出されたレポートに関するコメントシートを配付する。

7. 教科書・参考書

教科書：使用せず。毎回プリントを配布する。
参考書：指定せず。必要な場合は随時紹介する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	安積疏水の歴史 (1) 「講義」	安積疏水前史と湖水東注	柳田春子
2	安積疏水の歴史 (2) 「講義」	安積開拓のはじまりと桑野村の誕生	柳田春子
3	安積疏水の歴史 (3) 「講義」	安積疏水の調査と設計と安積疏水の開削	柳田春子
4	安積疏水の歴史 (4) 「講義」	明治政府による開墾	柳田春子
5	安積疏水の恩恵 (1) 「講義」	製糸業	柳田春子
6	安積疏水の恩恵 (2) 「講義」	水力発電	柳田春子
7	安積疏水の恩恵 (3) 「講義」	上水道	柳田春子

授業科目名	薬学英语Ⅰ	外国語-1	1年 前期1・2
授業区分	一般教養科目（外国語）	必修	1単位
担当教員	非常勤講師：柴田尚子		

1. 科目の概要

これまで習得した英語運用能力を向上させるとともに、医療・薬学に関する英文に触れ、実際の場面で必要な英語表現を習得することを目指す。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会の教養の一つとされる英語を学習する中で、その四技能（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）を高めながら、医学・薬学に関する英語の基礎を身につけことを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

既習の英語知識を土台に、医療・薬学に関する教材を用いながら、基礎的な医療・薬学に関する英語を習得する。また、語彙力を増やし、英文の内容を正確に把握し、情報を聞き取り、音読することで、更なる英語運用能力の向上を目指す。

4. 到達目標

- （1）これまで学習してきた英語に関する知識を再確認しながら、知識の定着を図る。[独自目標]
- （2）英文法や英文の構造を理解し、速く正確に文章を読み、内容を把握することができる。[独自目標]
- （3）医療・薬学の現場で使用する英語表現を習得し、活用する [独自目標]
- （4）リスニングによって、情報を正確に聞き、書き取ることが出来る。[独自目標]

5. 授業時間外の学習

授業の際、予習範囲を指定するので、1時間から2時間程度その範囲を予習し、授業に臨むこと。また、1時間程度授業の復習を怠らず、定期的に行う小テストに備え、日頃から学習することを心掛ける。

6. 評価・フィードバックの方法

- （1）定期試験 60%（試験後、模範解答を配布し、解説する。）
- （2）授業時の発表や課題 20%
- （3）小テスト 20%

7. 教科書・参考書

教科書：『English for Medicine』 著者：西原俊明，西原真弓，Carey Benom 出版社：金星堂
(ISBN:978-7647-4153-9)

参考書：英和辞書（その他必要であれば、授業時に随時紹介する。）

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	ガイダンス Chapter 1 Polio and Vaccination 「演習」	授業の進め方, 注意事項の説明 英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
2	Chapter 1 Polio and Vaccination 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
3	Chapter 2 A Doctor's Prescription 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
4	Chapter 3 Barometric Pressure and Migraines 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
5	Chapter 4 Internal Medical Exam 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
6	Chapter 5 Colon Polyps 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
7	Chapter 6 Respiratory Symptoms 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
8	Chapter 7 Diabetes 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
9	Chapter 8 Coronary Arterial Problems 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
10	Chapter 9 A Single Doctor's Office Visit and Health Insurance 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
11	Chapter 10 Allergic Reactions 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
12	Chapter 11 COVID-19 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
13	Chapter 12 Heartburn and Endoscopy 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
14	Chapter 13 Menopause 「演習」	英文読解, リスニング, 英語表現の習得	柴田尚子
15	Chapter 1~13の総復習 「演習」	第2回～第14回の未習事項や復習を行う。	柴田尚子
16	定期試験	授業で学習した内容についてのまとめ	柴田尚子

授業科目名	薬学英语Ⅱ	外国語-2	1年 後期1・2
授業区分	一般教養科目（外国語）	必修	1単位
担当教員	非常勤講師：柴田尚子		

1. 科目の概要

本授業では、薬学英语Ⅰで学んだことをもとに、医学・薬学英语の文章や表現、用語を習得し、より迅速かつ正確に理解できるようになることを目指す。より専門的な英文に触れながら、英語の基礎知識の定着を図る。また、内容を理解するだけでなく、正確に聴き取り、発音できるようになることで、総合的な英語力を向上させる。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会の教養の一つとされる英語を学習する中で、その四技能（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）を高めながら、医学・薬学に関する英語の基礎を身につけことを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

既習の知識をもとに、基礎的な医療・薬学に関する英語の知識を深め、習得する。また語彙力を増やし、英文を迅速かつ正確に理解し、情報を聞き取り、相手に正確に伝えらるような英語運用能力の向上を目指す。

4. 到達目標

- （１）これまで学習してきた英語に関する知識を再確認しながら、医学・薬学に関する英文構造を理解し、迅速かつ正確に内容を把握する。〔独自目標〕
- （２）医療・薬学の現場で使用する英語表現を習得し、活用する〔独自目標〕
- （３）リスニングによって情報を正確に聞き、書き取り、また、正確に発音し相手に伝えることが出来る。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

授業の際、予習範囲を指定するので、１時間から２時間程度その範囲を予習し、授業に臨むこと。また、１時間程度授業の復習を怠らず、定期的に行う小テストに備え、日頃から学習することを心掛ける。

6. 評価・フィードバックの方法

- （１）定期試験 60%（試験後、模範解答を配布し、解説する。）
- （２）授業時の発表や課題 20%
- （３）小テスト 20%

7. 教科書・参考書

教科書：The Wonders of Medicine 〈Third Edition〉 著者：瀬谷幸男，高津昌宏，西村月満，平井清子，
和治元義博，James A. Goddard, Hugh A. W. Kirkwood 出版社：南雲堂 (ISBN 978-4-523-17938-2)
参考書：英和辞書（その他必要があれば、授業時に紹介する。）

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	ガイダンス Unit 1 Receptors as Drug Targets 「演習」	授業の進め方，注意事項等の説明英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
2	Unit 1 Receptors as Drug Targets 「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
3	Unit 2 Routes of Drug Administration 「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
4	Unit 3 ADME-Absorption, Distribution, Metabolism, & Excretion of a Drug 「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
5	Unit 4 Adverse Drug Reactions (ADRs) 「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
6	Unit 5 Drug Development and Approval in the US「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
7	Unit 6 What is Kampo? 「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
8	Unit 7 Helicobacter pylori and the New Drugs for Peptic Ulcers「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
9	Unit 8 Heart Disease: Nitroglycerin as a Cardiovascular Drug「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
10	Unit 9 Respiratory Disease: Asthma from Past to Present「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
11	Unit 10 Pharmacotherapy and Psychiatry 「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
12	Unit 11 Chemotherapy: Flexibility in Cancer Treatment「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
13	Unit 12 Infectious Disease-A Measure of Lethality「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
14	Unit 13 Identifying the Origins of infectious Diseases「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
15	Unit 14 Drugs that Are Applied on Your Skin 「演習」	英文読解，リスニング，問題演習	柴田尚子
16	定期試験	授業で学習した内容についてのまとめ	柴田尚子

授業科目名	基礎英語演習		外国語(選)-1	1年 前期1
授業区分	一般教養科目(外国語)		選択	0.5単位
担当教員	准教授：伊藤頼位			

1. 科目の概要

英語は薬学において重要な科目であるが、これまでの英語学習で十分な成果が得られず、英語が苦手あるいは嫌いだという意識を持つ者がいるのも事実である。この授業では、高等学校までの英語学習とは異なるアプローチを取り入れ、英語に対する抵抗感をなくすことを第一の目標として学習を進める。特に音声活動を豊富に取り入れ、英語で伝える楽しさを実感できる授業を目指す。この授業ではグループワークを行う。原則として、実力試験に基づいて受講者を指定する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養の一つとされる「英語によるコミュニケーション能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

音声活動、多読活動を主軸とした豊富な言語活動を通じて、薬学部での英語学習に対応できる心構えと学習スキルを身につける。

4. 到達目標

- (1) 人前で抵抗なく英語を話すことができる。〔独自目標〕
- (2) 効果的な方略と技能を用いて語彙を増加させることができる。〔独自目標〕
- (3) 英文を流暢に音読できる。〔独自目標〕
- (4) 基礎的な文法規則を踏まえて正しい文を作ることができる。〔独自目標〕
- (5) 英和辞典を適切かつ効率的に活用できる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

多読教材を読む。(毎週 60 分)

文法のドリル問題に取り組み、翌週の授業で提出する。(毎週 60 分)

6. 評価・フィードバックの方法

20% 授業時の活動(観察による評価)

20% 読書量

30% 提出課題

30% 定期試験

定期試験の解答例を試験終了時に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：旺文社オーレックス英和辞典第2版

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Unit 1 「演習・グループワーク」	発音演習, 多読演習	伊藤頼位
2	Unit 2 「演習・グループワーク」	発音演習, 多読演習	伊藤頼位
3	Unit 3 「演習・グループワーク」	発音演習, 多読演習	伊藤頼位
4	Unit 4 「演習・グループワーク」	発音演習, 多読演習	伊藤頼位
5	Unit 5 「演習・グループワーク」	発音演習, 多読演習	伊藤頼位
6	Unit 6 「演習・グループワーク」	発音演習, 多読演習	伊藤頼位
7	Unit 7 「演習・グループワーク」	発音演習, 多読演習	伊藤頼位

授業科目名	英語検定 I 外国語(選)-2-1		1～3年 前期 1
授業区分	一般教養科目 (外国語)	選択	0.5 単位
担当教員	非常勤講師：福富靖之		

1. 科目の概要

この授業は、初めて TOEIC を受験する学生を対象とした、TOEIC 受験準備のための科目である。経済やビジネスに関する英語表現の確認と比較的ゆっくり話された英文を聞き取る訓練を行う。

この授業の具体的な進め方は、以下のように予定している。

- ・その日のターゲットとなる放送を聴く。(5分程度)
 －特に知らない単語の発音に注意－
- ・その日の授業に必要な語彙を20程度厳選し、発音、つづりともに確実に身につける。(20分)
- ・覚えた単語、熟語を文の中で使えるよう訓練する。(10分)
- ・単語、熟語、文法その他解説。(10分)
- ・英文を聴き取れるよう訓練する。(20分)
- ・放送記事の内容を確認する。(5分)
- ・小テストのための確認作業。(10分)
- ・最後に確認テストを行う。(10分)

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養の一つとされる「英語によるコミュニケーション能力」を身につけることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

TOEIC を始めとする検定試験は、それ自体目的ではなく、あくまでも自分の英語力を確認するための手段であることを忘れずに、総合的・自律的に英語を学習する姿勢を身につける。

4. 到達目標

- (1) 基本的な文法・語法を身につけている。
- (2) TOEIC で出題される経済・ビジネスに関する基本的な語彙を身につけている。
- (3) 比較的ゆっくり話された英文の内容を正確に聞き取ることができる。

5. 授業時間外の学習

英語の習得には反復的な訓練が最も重要である。授業中の演習に加えて、予習・復習を怠らないこと。毎回、確認のための小テストを行うので、必ず準備して臨むこと。また、小テストは、その回の授業内容の理解度を確認するためのものであるが、復習のための資料でもあるので、自らの到達度を確認する一助とすること。

ターゲットとなる放送を聴いて予習する (10分)

基本的な文法・語彙を復習する (20分)

意味を理解した上で、ターゲットの英語をシャドーイングする復習 (20分)

6. 評価・フィードバックの方法

小テスト (40%) と定期試験 (60%) に基づいて評価する。小テストは採点のうえ返却、定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：教材はプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Voice of America Special English「演習」	リスニング，語彙の確認，英文構造の把握	福富靖之
2	Voice of America Special English「演習」	リスニング，語彙の確認，英文構造の把握	福富靖之
3	Voice of America Special English「演習」	リスニング，語彙の確認，英文構造の把握	福富靖之
4	Voice of America Special English「演習」	リスニング，語彙の確認，英文構造の把握	福富靖之
5	Voice of America Special English「演習」	リスニング，語彙の確認，英文構造の把握	福富靖之
6	Voice of America Special English「演習」	リスニング，語彙の確認，英文構造の把握	福富靖之
7	Voice of America Special English「演習」	リスニング，語彙の確認，英文構造の把握	福富靖之
8	定期試験		福富靖之

授業科目名	英語検定Ⅱ		外国語(選)-2-2	1～3年 前期2
授業区分	一般教養科目（外国語）		選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：福富靖之			

1. 科目の概要

この授業は、TOEIC 受験準備のための科目である。原則として「英語検定Ⅰ」を履修した学生を対象とする。経済やビジネスに関する英語表現の確認とナチュラルスピードで話された英文を聞き取る訓練を行う。

この授業の具体的な進め方は、以下のように予定している。

- ・その日のターゲットとなる放送を聴く。(10分程度)
 - －特に知らない単語の 発音に注意－
- ・その日の授業に必要な語彙を20程度厳選し、発音、つづりともに確実に身につける。(15分)
- ・覚えた単語、熟語を文の中で使えるよう訓練する。(10分)
- ・単語、熟語、文法その他解説。(10分)
- ・英文を聞き取れるよう訓練する。(20分)
- ・放送記事の内容を確認する。(5分)
- ・小テストのための確認作業。(10分)
- ・最後に確認テストを行う。(10分)

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養の一つとされる「英語によるコミュニケーション能力」を身につけることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

TOEICを始めとする検定試験は、それ自体目的ではなく、あくまでも自分の英語力を確認するための手段であることを忘れずに、総合的・自律的に英語を学習する姿勢を身につける。

4. 到達目標

- (1)基本的な文法・語法の確認。〔独自目標〕
- (2)TOEIC で出題される経済・ビジネスに関する基本的な語彙の習得。〔独自目標〕
- (3)ナチュラルスピードで話された英文の内容を聞き取る力。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

英語の習得には反復的な訓練が最も重要である。授業中の演習に加えて、予習・復習を怠らないこと。毎回、確認のための小テストを行うので、必ず準備して臨むこと。また、小テストは、その回の授業内容の理解度を確認するためのものであるが、復習のための資料でもあるので、自らの到達度を確認する一助とすること。

ターゲットとなる放送を聴いて予習する (10分)

基本的な文法・語彙を復習する (20分)

意味を理解した上で、ターゲットの英語をシャドーイングする復習 (20分)

6. 評価・フィードバックの方法

小テスト(40%)と定期試験(60%)に基づいて評価する。小テストは採点のうえ返却、定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：教材はプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	NPR 「演習」	リスニング、語彙の確認、意味のかたまりと音のかたまりとのズレ	福富靖之
2	NPR 「演習」	リスニング、語彙の確認、意味のかたまりと音のかたまりとのズレ	福富靖之
3	NPR 「演習」	リスニング、語彙の確認、意味のかたまりと音のかたまりとのズレ	福富靖之
4	NPR 「演習」	リスニング、語彙の確認、意味のかたまりと音のかたまりとのズレ	福富靖之
5	NPR 「演習」	リスニング、語彙の確認、意味のかたまりと音のかたまりとのズレ	福富靖之
6	NPR 「演習」	リスニング、語彙の確認、意味のかたまりと音のかたまりとのズレ	福富靖之
7	NPR 「演習」	リスニング、語彙の確認、意味のかたまりと音のかたまりとのズレ	福富靖之
8	定期試験		福富靖之

授業科目名	英語検定Ⅲ		外国語(選)-2-3	1～3年 後期1
授業区分	一般教養科目（外国語）		選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：福富靖之			

1. 科目の概要

この授業は、TOEIC受験準備のための科目である。原則として「英語検定Ⅱ」を履修した学生を対象とする。テストの出題様式に準拠した練習問題を解くことにより、問題形式に慣れるとともに、PARTごとの具体的な目標を明確にする。日常会話であれば要点を理解できるレベルとされる530点を目標スコアとする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養の一つとされる「英語によるコミュニケーション能力」を身につけることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

TOEICを始めとする検定試験は、それ自体目的ではなく、あくまでも自分の英語力を確認するための手段であることを忘れずに、総合的・自律的に英語を学習する姿勢を身につける。

4. 到達目標

- (1)基本的な文法・語法の確認。
- (2)TOEICで出題される様々なジャンルに関する基本的な語彙を身につけている。
- (3)TOEICで用いられる様々な英語のアクセント、特にアメリカ英語とイギリス英語を聞き分けることができる。

5. 授業時間外の学習

英語の習得には反復的な訓練が最も重要である。授業中の演習に加えて、予習・復習を怠らないこと。また、模擬試験のための単語リストをあらかじめ配布するので、必ず準備して臨むこと。

必要な文法・語彙を覚える予習（30分）

模擬試験リスニング問題を聴く復習（20分）

6. 評価・フィードバックの方法

毎回の模擬試験（50%）と定期試験（50%）に基づいて評価する。模擬試験は採点のうえ返却、定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：教材はプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	TOEIC Listening & Reading 「演習」	模擬試験	福富靖之
2	TOEIC Listening & Reading 「演習」	模擬試験と解説	福富靖之
3	TOEIC Listening & Reading 「演習」	模擬試験と解説	福富靖之
4	TOEIC Listening & Reading 「演習」	模擬試験と解説	福富靖之
5	TOEIC Listening & Reading 「演習」	模擬試験と解説	福富靖之
6	TOEIC Listening & Reading 「演習」	模擬試験と解説	福富靖之
7	TOEIC Listening & Reading 「演習」	解説	福富靖之
8	定期試験		福富靖之

授業科目名	英会話 I 外国語(選)-3-1		1～3年 前期 1
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5 単位
担当教員	非常勤講師：辻ウエスリー誠		

1. 科目の概要

This course is designed to help false-beginner learners of English to learn and practice talking about themselves and things that are familiar to them. Although accuracy will play a small role, the main focus will be on fluency. Students will be encouraged to use English in a friendly and supportive environment and they should not fear making mistakes. All of the lessons of this course will be conducted in English.

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養の一つとされる「英語によるコミュニケーション能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

Students will engage in conversational exchanges centered on themselves and their interests such as self introductions, hobbies, likes and dislikes, family, etc.

4. 到達目標

Students will be able to carry a fluent conversation in English on the following subjects:

- (1) Greeting People
- (2) Introducing themselves
- (3) Talk about likes/dislikes
- (4) Talk about family
- (5) Asking Yes/No questions
- (6) Describe objects
- (7) Talk about food

5. 授業時間外の学習

Students will be expected to come to class ready to practice English with a positive attitude. Students will occasionally be expected to do work outside of class. This work may be in the form of homework or preparing for a class activity. (30 minutes)

6. 評価・フィードバックの方法

50% Classwork 30% Homework

20% End of Course Activity

Verbal feedback will be given regularly in class. Written feedback may be given on homework.

7. 教科書・参考書

教科書：None

参考書：None

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習・グループワーク」	Greeting people / Self introductions	辻ウェスリー
2	Unit 2「演習・グループワーク」	Expressing likes and dislikes / Talking about hobbies	辻ウェスリー
3	Unit 3「演習・グループワーク」	Talking about family	辻ウェスリー
4	Unit 4「演習・グループワーク」	Asking Yes/No questions	辻ウェスリー
5	Unit 5「演習・グループワーク」	Describing objects	辻ウェスリー
6	Unit 6「演習・グループワーク」	Talk about food	辻ウェスリー
7	Unit 7「演習・グループワーク」	End of Course Activity: Self Introductions using the right content for a variety of settings	辻ウェスリー

授業科目名	英会話Ⅱ		外国語(選)-3-2	1～3年 前期2
授業区分	一般教養科目（外国語）		選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：辻ウエスリー誠			

1. 科目の概要

This course is designed to help low-intermediate learners of English to learn and practice giving narrations using past, present, and future tense. Although accuracy will play a small role, the main focus will be on fluency. Students will be encouraged to use English in a friendly and supportive environment and they should not fear making mistakes. All of the lessons of this course will be conducted in English.

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養の一つとされる「英語によるコミュニケーション能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

Students will give narrations on topics such as personal experiences, retelling of second-hand sources, and fictional stories using the three tenses.

4. 到達目標

Students will be able to carry a fluent conversation in English on the following subjects:

- (1) Talk about past events
- (2) Talk about future plans
- (3) Talk about ongoing activities
- (4) Ask locations and give directions
- (5) Talk about frequencies
- (6) Describing routines and schedules

5. 授業時間外の学習

Students will be expected to come to class ready to practice English with a positive attitude. Students will occasionally be expected to do work outside of class. This work may be in the form of homework or preparing for a class activity. (30 minutes)

6. 評価・フィードバックの方法

50% Classwork 30% Homework

20% End of Course Activity

Verbal feedback will be given regularly in class. Written feedback may be given on homework.

7. 教科書・参考書

教科書：None

参考書：None

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習・グループワーク」	Talk about past events	辻ウェスリー
2	Unit 2「演習・グループワーク」	Talk about future plans	辻ウェスリー
3	Unit 3「演習・グループワーク」	Talk about ongoing activities	辻ウェスリー
4	Unit 4「演習・グループワーク」	Asking Yes/No questions	辻ウェスリー
5	Unit 5「演習・グループワーク」	Asking locations and giving directions	辻ウェスリー
6	Unit 6「演習・グループワーク」	Describing routines and schedules /Talk about frequencies	辻ウェスリー
7	Unit 7「演習・グループワーク」	End of Course Activity: Group Story Telling	辻ウェスリー

授業科目名	英会話Ⅲ 外国語(選)-3-3		1～3年 後期 1
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5 単位
担当教員	非常勤講師：辻ウエスリー誠		

1. 科目の概要

This course is designed to help upper-intermediate learners of English to give opinions and explain reasoning. Although accuracy will play a small role, the main focus will be on fluency. Students will be encouraged to use English in a friendly and supportive environment and they should not fear making mistakes. All of the lessons of this course will be conducted in English.

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における教養の一つとされる「英語によるコミュニケーション能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

Students will talk about more abstract topics such as giving opinions, comparing, giving reasons, etc.

4. 到達目標

Students will be able to carry a fluent conversation in English on the following subjects:

- (1) Make comparisons
- (2) Give opinions
- (3) Describe pros and cons
- (4) Make suggestions and recommendations
- (5) Agree and disagree
- (6) Use connectors
- (7) Discuss imaginary situations

5. 授業時間外の学習

Students will be expected to come to class ready to practice English with a positive attitude. Students will occasionally be expected to do work outside of class. This work may be in the form of homework or preparing for a class activity. (30 minutes)

6. 評価・フィードバックの方法

50% Classwork 30% Homework

20% End of Course Activity

Verbal feedback will be given regularly in class. Written feedback may be given on homework.

7. 教科書・参考書

教科書：None

参考書：None

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	Unit 1「演習・グループワーク」	Make comparisons	辻ウェスリー
2	Unit 2「演習・グループワーク」	Give opinions /Agree and disagree with opinions	辻ウェスリー
3	Unit 3「演習・グループワーク」	Describe pros and cons	辻ウェスリー
4	Unit 4「演習・グループワーク」	Make suggestions and recommendations	辻ウェスリー
5	Unit 5「演習・グループワーク」	Use connectors	辻ウェスリー
6	Unit 6「演習・グループワーク」	Discuss imaginary situations	辻ウェスリー
7	Unit 7「演習・グループワーク」	End of Course Activity: Class debate / Prepare for Final Interview	辻ウェスリー
8	Interview「演習」	Final Interview	辻ウェスリー

授業科目名	英語圏言語文化研修		外国語(選)-4	1～3年 集中
授業区分	一般教養科目（外国語）		選択	0.5単位
担当教員	准教授：伊藤頼位			

1. 科目の概要

海外の言語文化に接することは、国際化社会で生活する上での必須の条件であるばかりでなく、豊かな人間性を育む素地ともなる。この授業では学外の英語・英国文化研修施設を利用した2泊3日の合宿を通じて、日本で紹介される機会の比較的小さい英国の歴史文化に関する造詣を深め、英会話力の強化を図る。活動の中心はグループワークである。利用施設：プリティッシュヒルズ(福島県岩瀬郡天栄村)。なお、食費・宿泊費・研修費は受講者の負担となる（予定額：¥60,000）。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、英語を用いたコミュニケーションの能力向上を図り、英国文化に触れることで教養を深めることを目的としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

ネイティブスピーカーによる指導下で英会話と各種文化活動を行い、英語運用能力を高め英国の歴史文化への理解を深める。

4. 到達目標

- (1) 英国の食文化を理解する。〔独自目標〕
- (2) 英国の娯楽文化を理解する。〔独自目標〕
- (3) 英語による初歩的なコミュニケーションができる。〔独自目標〕
- (4) 率先して英語を使ったコミュニケーションを行おうとする。(態度)〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

研修期間内は授業以外の時間も目標達成のために費やすよう努力すること。予習は不要だが、復習として学習した表現を用い、参加者同士や現地スタッフとの間で英語を使ったコミュニケーションを図ること。(30分)

6. 評価・フィードバックの方法

40% 授業への取り組み姿勢（担当教員による観察）

20% 英語の流暢性

40% 研修報告書

研修への取り組み姿勢に改善を要する場合には個別に指導を行う。研修報告書はコメントを付して返却する。

7. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	英会話講習 1 「演習・グループワーク」	Survival English（滞在中に役立つフレーズを学ぶ）	伊藤頼位 研修先教員
2	英会話講習 2 「演習・グループワーク」	All About Me（簡単な英語を使って自己紹介をする）	伊藤頼位 研修先教員
3	英会話講習 3 「演習・グループワーク」	Listening Skills（英語を聞き取る能力を伸ばす）	伊藤頼位 研修先教員
4	英会話講習 4 「演習・グループワーク」	Active Learning Class（読む、聞く、話すを総合したアクティビティを通じて実践的な英語運用力を伸ばす）	伊藤頼位 研修先教員
5	英会話講習 5 「演習・グループワーク」	Speech Skills 1（イントネーション、表情、ジェスチャーなどを中心にスピーチの方法を学ぶ）	伊藤頼位 研修先教員
6	英会話講習 6 「演習・グループワーク」	Speech Skills 2（スピーチコンテストを開催する）	伊藤頼位 研修先教員
7	英会話講習 7 「演習・グループワーク」	Cooking（英語での指導を受けながら英国の伝統的なお菓子であるスコーンを作る）	伊藤頼位 研修先教員

授業科目名	中国語Ⅰ	外国語(選)-5-1	1～3年 前期1
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		

1. 科目の概要

世界中には、6000種類以上の言語があるが、「漢字」を使う言語は日本語と中国語だけである。中国語をマスターできれば、日本とあらゆる分野で深いつながりがある13億の人口を持つ中国本土だけではなく、台湾、香港、シンガポール、マカオなど、中国語を公用語とする地域でも活用できる。また、薬剤師として必ず覚えなければならない生薬名や漢方薬名の学習にも役立つ。一方、中国語にどこかに親近感を感じながら、発音が難しくてなかなか深く理解することができないという悩みを持つ者も多い。

この授業では、7回に分けて中国語の発音と基本文法を丁寧に教える。HSK検定試験公認テキストを使用し基礎から中国語を学習。平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけることができる。中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業をすべて履修した段階で中国語能力検定試験（HSK検定試験）1級を狙えるレベルに達する。また、「生薬学」及び「漢方医学」との連携教育として、生薬や漢方薬によく出てくる漢字を用いて中国語の発音を練習する。会話の学習については、自己紹介や薬学に関する専門性の高い内容も取り入れる。中国語をマスターすると同時に、生薬名も覚えられるという一石二鳥のスタイルで授業を進める。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における望ましい教養の一つである「中国語によるコミュニケーション能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

基本中国語を学習するほか、中国語の勉強をきっかけに、中国の漢字に興味を持つようになり、生薬名などをカタカナで暗記するのではなく、意味を持つ漢字で理解して覚えることを目指す。

4. 到達目標

1. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。〔独自目標〕
2. 代表的な生薬名、漢方薬名を中国語で発音できる。〔独自目標〕
3. 中国語の初歩的な文法を用いて単純な文を作ることができる。〔独自目標〕
4. 中国語で自己紹介と簡単な会話ができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：教科書の音声ファイルをダウンロードし、新しい単語と例文の発音を覚えること（所要時間10分）
復習：教科書の練習問題を解いて文法を熟知、質問などを準備しておくこと。（所要時間10分）

6. 評価・フィードバックの方法

- 50% 授業活動の積極性
- 20% 提出物（提出物は採点して返却する）
- 30% 力試しテスト（解答例をポータルサイトで掲示する）

7. 教科書・参考書

教科書：宮岸雄介『中国語検定 HSK 公認テキスト 1級改訂版』スプリックス
参考書：授業中紹介する

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	UNIT 1 漢字は1文字1音節に1つの意味	①形（字形）→簡体字（简体字） ②声（発音）	劉 芳
2	UNIT 2 発音編（1）～母音～	①単母音は7種類 ②二重母音は9種類 ③三重母音4種類 ④鼻母音は16種類	劉 芳
3	UNIT 3 発音編（2）～子音～	①子音の発音（1） ②子音の発音（2）	劉 芳
4	発音の練習及び復習	①中国語で自己紹介 ②中国語の歌	劉 芳
5	UNIT 4 動詞述語文（1）	～是を使う文～ 「是」は中国語の be 動詞	劉 芳
6	UNIT 5 動詞述語文（2）	中国語は語順が大事	劉 芳
7	まとめ復習及び力試しテスト	授業前半はリスニング及び HSK 検定試験対策，後半は SHK 検定模擬試験を実施	劉 芳

授業科目名	中国語Ⅱ		外国語(選)-5-2	1～3年 前期2
授業区分	一般教養科目（外国語）		選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳			

1. 科目の概要

世界中には、6000 種類以上の言語があるが、「漢字」を使う言語は日本語と中国語だけである。中国語をマスターできれば、日本とあらゆる分野で深いつながりがある 13 億の人口を持つ中国本土だけではなく、台湾、香港、シンガポール、マカオなど、中国語を公用語とする地域でも活用できる。また、薬剤師として必ず覚えなければならない生薬名や漢方薬名の学習にも役立つ。一方、中国語にどこかに親近感を感じながら、発音が難しくてなかなか深く理解することができないという悩みを持つ者も多い。

この授業では、7 回に分けて中国語の発音と基本文法を丁寧に教える。HSK 検定試験公認テキストを使用し基礎から中国語を学習。平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけることができる。中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業をすべて履修した段階で中国語能力検定試験（HSK 検定試験）1 級を狙えるレベルに達する。また、「生薬学」及び「漢方医学」との連携教育として、生薬や漢方薬によく出てくる漢字を用いて中国語の発音を練習する。会話の学習については、自己紹介や薬学に関する専門性の高い内容も取り入れる。中国語をマスターすると同時に、生薬名も覚えられるという一石二鳥のスタイルで授業を進める。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における望ましい教養の一つである「中国語によるコミュニケーション能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

基本中国語を学習するほか、中国語の勉強をきっかけに、中国の漢字に興味を持つようになり、生薬名などをカタカナで暗記するのではなく、意味を持つ漢字で理解して覚えることを目指す。

4. 到達目標

1. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。〔独自目標〕
2. 代表的な生薬名、漢方薬名を中国語で発音できる。〔独自目標〕
3. 中国語の初歩的な文法を用いて単純な文を作ることができる。〔独自目標〕
4. 中国語で簡単な会話ができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：教科書の音声ファイルをダウンロードし、新しい単語と例文の発音を覚えること（所要時間 10 分）
復習：教科書の練習問題を解いて文法を熟知、質問などを準備しておくこと。（所要時間 10 分）

6. 評価・フィードバックの方法

- 50% 授業活動の積極性
- 20% 提出物（提出物は採点して返却する）
- 30% 力試しテスト（解答例をポータルサイトで掲示する）

7. 教科書・参考書

教科書：宮岸雄介『中国語検定 HSK 公認テキスト 1 級改訂版』スプリックス
参考書：授業中紹介する

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	UNIT 6 形容詞述語文	①形容詞述語文の「很」 ②「太」の使い方	劉 芳
2	UNIT 7 名詞述語文～年月日の表現～	①中国語は名詞も述語になる！ ②数字と時間の表現を覚えよう！	劉 芳
3	UNIT 8 数詞と量詞	量詞は数詞や指示代詞と名詞をつなぐもの	劉 芳
4	文法の復習と活用	①薬局で使える中国語会話 ②中国語の歌	劉 芳
5	UNIT 9 疑問代詞を使った疑問文 (1)	①何曜日？何時？と尋ねる表現「几」 ②数の尋ね方（年齢とお金）	劉 芳
6	UNIT10 疑問代詞を使った疑問文 (2)	聞きたいところに置く！中国語の疑問代詞	劉 芳
7	まとめ復習及び力試しテスト	授業前半はリスニング及び HSK 検定試験対策，後半は SHK 検定模擬試験を実施	劉 芳

授業科目名	中国語Ⅲ	外国語(選)-5-3	1～3年 後期1
授業区分	一般教養科目（外国語）	選択	0.5単位
担当教員	非常勤講師：劉 芳		

1. 科目の概要

世界中には、6000種類以上の言語があるが、「漢字」を使う言語は日本語と中国語だけである。中国語をマスターできれば、日本とあらゆる分野で深いつながりがある13億の人口を持つ中国本土だけではなく、台湾、香港、シンガポール、マカオなど、中国語を公用語とする地域でも活用できる。また、薬剤師として必ず覚えなければならない生薬名や漢方薬名の学習にも役立つ。一方、中国語にどこかに親近感を感じながら、発音が難しくてなかなか深く理解することができないという悩みを持つ者も多い。

この授業では、7回に分けて中国語の発音と基本文法を丁寧に教える。HSK検定試験公認テキストを使用し基礎から中国語を学習。平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけることができる。中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業をすべて履修した段階で中国語能力検定試験（HSK検定試験）1級を狙えるレベルに達する。受講生には積極的な授業参加を期待する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、現代社会における望ましい教養の一つである「中国語によるコミュニケーション能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

基本中国語を学習するほか、中国語の勉強をきっかけに、中国の漢字に興味を持つようになり、生薬名などをカタカナで暗記するのではなく、意味を持つ漢字で理解して覚えることを目指す。

4. 到達目標

1. 中国語の発音（ピンイン）を身につけ、活用できる。〔独自目標〕
2. 中国語の初歩的な文法を用いて単純な文を作ることができる。〔独自目標〕
3. HSK検定試験1級にチャレンジできるレベルに達する。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：教科書の音声ファイルをダウンロードし、新しい単語と例文の発音を覚えること（所要時間10分）

復習：教科書の練習問題を解いて文法を熟知、質問などを準備しておくこと。（所要時間10分）

6. 評価・フィードバックの方法

50% 授業活動の積極性

20% 提出物（提出物は採点して返却する）

30% 力試しテスト（解答例をポータルサイトで掲示する）

7. 教科書・参考書

教科書：宮岸雄介『中国語検定 HSK 公認テキスト 1級改訂版』スプリックス

参考書：授業中紹介する

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	UNIT11 中国語の助動詞～能願動詞～	① 2つの「できる」…「能」と「会」 ② 「～したい」の「想」	劉 芳
2	UNIT12 動詞述語文 (3)	1つの文で動詞を2つ使う用法	劉 芳
3	映画で学ぶ中国語(1)	中国への理解を深め、中国語の用法を学ぶ	劉 芳
4	映画で学ぶ中国語(2)	中国への理解を深め、中国語の用法を学ぶ	劉 芳
5	UNIT13 存在と場所	存在と場所を表す「有」と「在」	劉 芳
6	UNIT14 「在」の用法	動詞以外の「在」の用法	劉 芳
7	まとめ復習及び力試しテスト	授業前半はリスニング及び HSK 検定試験対策、後半は SHK 検定模擬試験を実施	劉 芳

授業科目名	体育 A・体育 B		実技(選)-1-A-B	1～3年 前期1・2
授業区分	一般教養科目（実技）		選択	各0.5単位
担当教員	非常勤講師：中野浩一			

1. 科目の概要

体育科目は単にスポーツ技術を習得するために設置されているのではなく、学生生活や卒業後において必要となる資質の育成を目的としている。学力や専門性は他者との差異を示す上で必要ではあるが、それを実社会で生かして行くためには「健康・体力」や「自己形成」や「他者との関係づくり」が欠かせない。これらを欠いた場合、学力や専門性を生かす前に病死したり、伸ばす努力を欠いたり、他者の理解を得られなかったりする。また、機械が発達した今日、重い物を持ち上げたり、細かい作業をする必要が無くなってきている。この社会的な構造の変化より、本人の意志とは関係なく、体力や技術が軽視されていたり、不足する事態が生じることとなる。この不足を補うため、今日、注目されているのがスポーツである。スポーツには大筋活動（だいしんかつどう）、すなわち胸・腹・背中・臀部・太腿など、体幹を使った活動となるものが多く、この場合、細かな調整を行う小筋群も使用されている。このように、体全体を使った活動となるスポーツには、生活習慣病の予防など、一生涯を通じて「豊かなライフスタイルを確立」することが期待されている。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、スポーツを通して、スポーツマンシップや人間性を養うことを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

身体活動の楽しさを体験するなかで、健康の保持増進と体力の向上、身体活動を通しての自己形成、他者との関係づくりなどを行う。また、豊かなライフスタイルを確立するため、生涯スポーツに対する知識と運動文化の意義について理解することを目的として授業（実技・理論）を展開する。

4. 到達目標

- (1) チームやグループの一員としての役割や協調性を理解する。〔独自目標〕
- (2) スポーツや運動の身体的スキルを獲得できるようになる。〔独自目標〕
- (3) スポーツの特性と基礎理論について理解する。〔独自目標〕
- (4) スポーツと健康との相互関係を理解する。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

授業内容に関するスポーツ種目を予習し、授業に臨むこと。(30分)

運動用の靴とジャージは高校で使用したものでもかまわないので、必ず準備すること。

スポーツ用具は準備してあるが、自前のものを持参してもかまわない。

6. 評価・フィードバックの方法

実技授業のため、出席状況や積極的な取り組みを評価する(45%)

コミュニケーションや協調性など、態度を評価する(10%)

スポーツ技術の習得状況を評価する(45%)

100点満点で65点以上を合格とする。

7. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
「体育A」			
1	バドミントン「実技」	ラケットの握り方，基本ルール，試合	中野浩一
2	バドミントン「実技」	サービス，各種ストローク，試合	中野浩一
3	テニス「実技」	ラケットの握り方，基本ルール，試合	中野浩一
4	テニス「実技」	サービス，各種ストローク，試合	中野浩一
5	バレーボール「実技」	パス，基本ルール，試合	中野浩一
6	バレーボール「実技」	サーブとレシーブ，試合	中野浩一
7	卓球「実技」	打ち方，基本ルール，試合（含，スリッパ卓球）	中野浩一
「体育B」			
8	インドア・ソフトボール「実技」	キャッチボール，基本ルール，試合	中野浩一
9	インドア・ソフトボール「実技」	バッティング，試合	中野浩一
10	アルティメット「実技」	（フリスビー競技） 投げ方，基本ルール，試合	中野浩一
11	アルティメット「実技」	（フリスビー競技） 「ゲームの精神」の学習，試合	中野浩一
12	バスケットボール「実技」	シュート，基本ルール，試合	中野浩一
13	バスケットボール「実技」	試合（含，3 on 3，ストリートボール）	中野浩一
14	卓球「実技」	試合（含，サウンド・テーブルテニス）	中野浩一

授業科目名	美術A・美術B		実技(選)-2-A-B	1～4年 前期1・2
授業区分	一般教養科目（実技）		選択	各0.5単位
担当教員	非常勤講師：渡部憲生			

1. 科目の概要

我々の身の回りに存在している「美術」は、意識・無意識にかかわらず、我々の生活に大きな影響を与えている。たとえば、衣服の選択や日用品の購入、住居の環境構成など、それぞれの趣味やセンスとして認識され、顕在化される。そんな我々の生活に大きな影響を与える重要な文化の一つである「美術」について、よく知られる美術作品の鑑賞や基本的な表現体験を通して、認識を新たにするとともに、「美術」に対する興味、関心、理解を深める。造形的な表現によって、人は何を表し、伝達しようとするのか。美術の全てのジャンルについて学習する時間はないが、芸術と言われる絵画と彫刻、そして、デザインとは何かについて考えるために、多くの表現体験を行い、考えるために多くの表現活動を行い、自らのイメージの具現に向けて、意図的・計画的・継続的に表現活動に取り組む実践力、問題解決力を醸成する。

表現体験では、以下のような“表現用具・材料”が必要となる。

- スケッチブック（マルマン・スケッチブック S-84 [F4 号]）
- 鉛筆（H, HB, B, 2B, 4B 各1本程度）、色鉛筆セット（12色～24色）
- 水彩絵の具（12～18色の絵の具。ポスターカラー、アクリル絵具可）
- 色紙（日本色研「トータルカラー（いろがみ）」B6判65色）
- 軽量紙粘土（150g「のびるエアクレイ」）
- 高麗石セット（篆刻用石材）
- 高麗石セット（篆刻用石材）

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、基本的な表現体験や鑑賞体験を通して「美術」に対する理解を深め、文化に対する教養を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

美術への興味・関心・理解は、表されるものの価値や表現方法、表す技術を学ぶことによって高まる。文化的、精神的に豊かな生き方を考えるために、造形表現の意味や価値について学び、美術への興味・関心・理解を深めるとともに、文化に対する一般的な教養を身に付ける。

4. 到達目標〔独自目標〕

- (1) 造形表現に関心をもち、それらを通じた学びの意味を考え、意義深い学習活動を構築することができる。
- (2) 造形的要素を用いた表現を体験し、日常生活や生涯学習に活用できる文化価値を理解することができる。
- (3) 学習活動から得られた認識力、表現技術により、知性的・感性的人格の実現を目指すことができる。
- (4) ものやことに触れ、描画センスや配色の調和感覚、手の巧緻性を高めることができる。
- (5) 授業準備、計画実施、学習意欲等について多面的に自らの姿勢を振り返り、自己改善することができる。
- (6) 情報や資料の収集に努め、主体的に授業に参加することができる。
- (7) 文化の伝承や民族性について理解し、人々の営みと文化の多様性、芸術活動について理解することができる。
- (8) 美術史学習から造形的な文化について洞察を深め、「美」を求めてきた意義について考察することができる。
- (9) 表現活動を通して、条件や状況に合わせて発想したり企画したりすることができる。

5. 授業時間外の学習

- (1) 美術や自然、市街、日用品等に関心をもち、美術館等に足を運ぶとともに、自然の美しさや季節感、表示や街のデザイン、機能と利便性などについて、視線を向け、よく観察する。
- (2) 文化史、美術史に関する文献や美術全集などから、興味あるものを選んで読む。
- (3) 授業に臨むに当たっては、制作計画に基づき、自分の表現の進捗に遅れがある場合は次の授業までに表現を進めておくこと。
また、授業終了後、自分の表現を振り返り、修正点や次回の自己課題について明確にしておくこと。（60分程度）

6. 評価・フィードバックの方法

提出作品とレポート及び出席により評価する。（作品〈スケッチブック〉50％、レポート及び毎時の授業感想〈出席カード記録〉30％、出欠〈授業時の態度等〉20％の割合で評定する。）

提出作品については、主題の捉え方、表現技術（作品の質）の他、資料収集力、表現の丁寧さ、独創性など、授業への積極性・関心意欲等も加味した評価を行う。作品評価のため、授業で使ったスケッチブックを定められた方法・内容、期日で提出する。提出されたスケッチブックはコメントなどを付して返却する。

筆記による試験は、授業全体を振り返る総括レポートを課す。さらに、出席確認を兼ねた授業感想カードの提出を毎時ごとに求める。

7. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。必要な資料は授業で配付する。

参考書：必要に応じて授業の中で紹介する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
「美術 A」			
1	オリエンテーション 鑑賞体験 (1) 表現体験 (1) “線で表す” ①「実技」	・「美術」の内容と準備物及び評価についての説明 ・造形物の要素と造形美の発見 ・線による表現① [基本形]	鉛筆 スケッチブック 渡部憲生
2	表現体験 (1) “線で表す” ②「実技」	・線による表現② [立体感・遠近感]	〃 渡部憲生
3	表現体験 (1) “線で表す” ③「実技」	・線による表現③ [自画像]	〃 渡部憲生
4	表現体験 (1) “線で表す” ④「実技」	・線による表現④ [自画像] ・作品鑑賞	〃 渡部憲生
5	表現体験 (2) “色で表す” ①「実技」	・色の性質とデザインの要素 ・色の性質を生かした色紙による 「四季」の平面構成① (構想)	スケッチブック 色鉛筆 色紙・のり 渡部憲生
6	表現体験 (2) “色で表す” ②「実技」	・色の性質を生かした色紙による 「四季」の平面構成② (表現)	〃 渡部憲生
7	表現体験 (2) “色で表す” ③「実技」	・色の性質を生かした色紙による 「四季」の平面構成③ (表現)	〃 渡部憲生
8	表現体験 (2) “色で表す” ④「実技」	・色の性質を生かした色紙による 「四季」の平面構成④ (完成) ・作品鑑賞 ・学習の総括 (総括レポート作成)	〃 渡部憲生
「美術 B」			
9	表現体験 (3) “粘土で表す” ①「実技」	・粘土による動物の立体表現① (構想)	スケッチブック 紙粘土 水彩用具一式 渡部憲生
10	表現体験 (3) “粘土で表す” ②「実技」	・粘土による動物の立体表現② (成形)	〃 渡部憲生
11	表現体験 (3) “粘土で表す” ③「実技」	・粘土による動物の立体表現③ (成形・着色)	〃 渡部憲生
12	表現体験 (3) “粘土で表す” ④「実技」	・粘土による動物の立体表現④ (着色・完成) ・作品鑑賞	〃 渡部憲生
13	表現体験 (4) “石を彫る” ①「実技」	・篆刻に挑戦「蔵書印」の制作① (印稿作成)	スケッチブック 高麗石セット 渡部憲生
14	表現体験 (4) “石を彫る” ②「実技」	・篆刻に挑戦「蔵書印」の制作② (運刀)	〃 渡部憲生
15	表現体験 (4) “石を彫る” ③「実技」	・篆刻に挑戦「蔵書印」の制作③ (運刀、補刀)	〃 渡部憲生
16	表現体験 (4) “石を彫る” ④「実技」 鑑賞体験 (2) 「美術B」試験	・篆刻に挑戦「蔵書印」の制作④ (補刀、完成) ・作品鑑賞 ・学習の総括 (総括レポート作成)	〃 渡部憲生

授業科目名	書写A・書写B		実技(選)-3-A-B	1～4年 前期1・2
授業区分	一般教養科目（実技）		選択	各0.5単位
担当教員	非常勤講師：鈴木蒼舟			

1. 科目の概要

最近ではコンピューターが定着し、また携帯電話でもメールやラインが頻繁に用いられるようになりました。文字離れの時代などとも言われていますが、文字が「言葉を視覚的に表現する」ことだけであれば情報機器の方が適切な場合も多いことでしょう。

しかし、社会生活においては、まだまだ手書きで文字を書く場面が多々あります。

手書き文字の良いところは、お礼状、お祝状、お悔やみ状、喜び、悲しみなどの気持ちを伝える際、手書きで書くことによって、文字の表情から、書者の心情などを、読む人に伝えることが出来るからです。

ここでは、毛筆と硬筆を合わせて、楷書、行書、草書、隸書、ひらがな、ペン字、調和体、実用書などを、基本から学び、手書き文字を、正しく、調和良く、丁寧に書くことを意識し、書くことを学びます。

「書写A」と「書写B」は両方を履修可能です。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科は、現代社会の教養の一つとして、人間にとってかけがえのない文化の一つである文字を、「書写」により、正しく丁寧に書くばかりでなく、身の回りの多様な文字を効果的に書く事を目標としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。

3. 一般目標

文字を正しく、調和良く整えて、丁寧に書く。

4. 到達目標

- 1) 正しい姿勢で書く。〔独自目標〕
- 2) 執筆法（筆記用具の持ち方）の習得。〔独自目標〕
- 3) 正しく書く。〔独自目標〕
- 4) 丁寧に書く。〔独自目標〕
- 5) 調和良く書く。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

前回学習した課題を練習し、出席する。(30分)

6. 評価・フィードバックの方法

授業時に課す課題による提出物による評価（100%）。

7. 教科書・参考書

教 材：適時プリントや教材を配布する。道具セット（和筆墨んぼ〔ナイロン製〕、和筆つらゆき、文鎮、下敷樹脂美濃半野入 名枠無、墨液墨美人携帯用 150cc、優美半紙 100 枚）

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
「書写A」			
1	執筆法 「実技」	姿勢・筆の持ち方・腕の構え方 楷書・基本点画（1）	鈴木蒼舟
2	毛筆楷書 「実技」	楷書・基本点画（2）	鈴木蒼舟
3	毛筆楷書 「実技」	楷書・基本点画（3）	鈴木蒼舟
4	毛筆行書 「実技」	行書（1）	鈴木蒼舟
5	毛筆行書 「実技」	行書（2）	鈴木蒼舟
6	毛筆草書 「実技」	草書	鈴木蒼舟
7	毛筆まとめ 「実技」	楷書・行書・草書各一枚提出	鈴木蒼舟
「書写B」			
8	実用毛筆楷書 「実技」	実用毛筆楷書	鈴木蒼舟
9	実用毛筆楷書 「実技」	実用毛筆行書	鈴木蒼舟
10	硬筆ペン字 「実技」	調和体（漢字ひらがな交じり文）	鈴木蒼舟
11	硬筆ペン字 「実技」	調和体（漢字ひらがな交じり文）	鈴木蒼舟
12	実用書毛筆 「実技」	御祝・御礼等の書式（のし袋）	鈴木蒼舟
13	実用書毛筆 「実技」	封筒，はがき（宛名）	鈴木蒼舟
14	実用書毛筆硬筆まとめ 「実技」	実用書3 ペン字1提出	鈴木蒼舟

授業科目名	数学Ⅰ	基礎科学-1-1	1年 前期2
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）	必修	2単位
担当教員	准教授：木田雄一		

1. 科目の概要

薬学は自然科学を根底にもつ学問であり、その自然科学を理解する必須の手法の一つとして数学がある。例えば、物理現象、生命現象、社会現象のような複雑な現象を定式化し解析するために確率論と統計学が用いられる。複数の薬物を混合して望みの濃度を得る計算には連立方程式が必要であり、反復投与する薬物の血中濃度を予測するには数列と級数の計算が必要となる。また、反応速度の計算においては微分の知識が必要であり、体内薬物動態におけるAUC（血漿薬物濃度曲線下面積）の計算には積分の知識が必要である。

そこで本講義では、薬剤師にとって必要な、あるいは、効率よく薬学を学んでいく上で有効な数学的な知識・技能を身につけていく。具体的には、実践的な薬学数学である確率論の基礎、連立方程式の解法、数列と級数、指数関数・対数関数・微分と積分の計算、微分方程式と反応速度式の計算に関する基礎知識について学習する。

本講義は、随時、即時応答システムであるGoogle Formsにより小問を解答させて、それに対するフィードバックを行うICTを活用した授業である。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医薬品・化学物質等の作用や性状、生体および環境への影響に関する科学的な根拠を理解・分析するために必要とされる「数学能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 一般目標

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。

4. 到達目標

1. 等差数列と等比数列の基本概念を理解し、それぞれの和を計算できる。〔独自目標〕
2. 行列の基本概念と演算を理解し、それを用いて連立一次方程式の解を求められる。〔独自目標〕
3. 場合の数、順列、組合せの基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。〔独自目標〕
4. 確率の定義と性質を理解し、計算ができる。〔独自目標〕
5. 平均値、分散、標準偏差などの基本的な統計量について説明し、求めることができる。〔独自目標〕
6. 二項分布および正規分布について概説できる。〔独自目標〕
7. 指数と対数の計算ができる。〔独自目標〕
8. 指数関数と対数関数を式およびグラフを用いて説明できる。〔独自目標〕
9. 極限と導関数の基本概念を理解し、指数関数と対数関数の微分ができる。〔独自目標〕
10. 原始関数の基本概念を理解し、指数関数と対数関数の不定積分および定積分ができる。〔独自目標〕
11. 変数分離型の微分方程式の基本的な計算ができる。〔独自目標〕
12. 反応速度式の計算ができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：基本的に、指定の教科書に沿って講義を進行する。授業の終わりに次回の学習項目等を発表するので、その項目を30分以上かけて予習しておくこと。

復習：教科の特性上、演習問題を多く出題するので、前回の授業内容を30分以上かけて復習し、次回講義前には必ず解けるようにすること。どうしても解けない場合は、その週の内に教員に質問に行き、そのままにしないことが重要である。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験の結果を 90%, 小演習の内容を 10% として評価する。

随時, Google Forms を活用した即時応答システムを用いて小問題を解答させ, その正誤を通知する。

小演習の成績に応じて次回の授業に復習の時間を設けるなど工夫する。

定期試験の解答例を試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書: 安西和記, 高木徳子, 田中栄一, 豊田実司 著, 都築稔 編, わかりやすい薬学系の数学入門, 講談社

石村園子 著, 「すぐわかる確率・統計」, 東京図書株式会社

参考書: 岩崎祐一, 上田晴久, 佐古兼一 著, 小林賢, 熊倉隆二 編, わかりやすい薬学系の数学演習, 講談社

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	等比数列と等差数列 「講義・演習」		等差数列の定義と和の公式, 等比数列の定義 と和の公式, 無限等比級数の極限	木田雄一
2	行列と連立方程式 「講義・演習」		行列とベクトルの定義と演算, 行列式, 逆行 列, 連立方程式	木田雄一
3	試行と事象, 順列・組み合 わせ「講義・演習」	Pre-(7)-④ -1	試行と事象, 場合の数, 順列と組合せ, 標本 空間	木田雄一
4	確率の定義と公理 「講義・演習」	Pre-(7)-④ -3	確率の定義と公理	木田雄一
5	確率分布と期待値 「講義・演習」	Pre-(7)-⑤ -3	確率変数と確率分布, 平均・分散・標準偏差	木田雄一
6	二項分布と正規分布 「講義・演習」	Pre-(7)-④ -2	二項分布の性質, 正規分布の性質, 確率変数の 標準化	木田雄一
7	指数関数・対数関数の基本 「講義」「演習」	Pre-(7)-② -1	指数計算と半減期, 対数とその性質, 対数計 算	木田雄一
8	指数関数・対数関数と pH 計算「講義」「演習」	Pre-(7)-② -1	pH 計算における指数関数・対数関数の使い 方	木田雄一
9	微分 基本講義 「講義」「演習」	Pre-(7)-③ -1,2	極限の概念, 極限値の求め方, 導関数の求め 方	木田雄一
10	微分 基本演習 「講義」「演習」	Pre-(7)-③ -1,2	各種関数の導関数の求め方の基本演習 応用例の紹介	木田雄一
11	積分 基本講義 「講義」「演習」	Pre-(7)-③ -3	原始関数の基本概念, 不定積分, 定積分の求 め方	木田雄一
12	積分 基本演習 「講義」「演習」	Pre-(7)-③ -3	各種関数の不定積分, 定積分の求め方の基本 演習。応用例の紹介	木田雄一
13	微分方程式 基本講義 「講義」「演習」	Pre-(7)-③ -4	変数分離型の微分方程式の基本的な計算方法	木田雄一
14	微分方程式 基本演習 「講義」「演習」	Pre-(7)-③ -4	微分方程式の薬学への応用 (反応速度式の計 算)	木田雄一
15	定期試験			木田雄一

授業科目名	数学Ⅱ		基礎科学-1-2	1 年 後期 1
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）		必修	1 単位
担当教員	准教授：渡邊哲也 講師：杉野雅浩			

1. 科目の概要

薬学は自然科学を根底にもつ学問であり、その自然科学を理解する必須の手法の一つとして数学が挙げられる。例えば、薬物の反応速度に関しては微分と微分方程式さらには積分の知識が必要であり、薬物動態解析や酸・塩基の pH や解離定数の算出には指数、対数の知識が必要である。そのため、薬学を学ぶ上で、指数・対数・微分（微分方程式）・積分の知識、考え方、解法やその応用方法を身につけることが重要である。これは、薬学の現場で起こる科学的な現象を数学的な思考で考えていくための基礎となる。本講義は、指数・対数・微分・積分の分野を中心に高等学校の内容を復習しながら、より専門性の高い薬学分野の内容を理解できるよう、薬学で必要な内容を例題にして進め、科学的な現象を筋道をたて、総合的に理解する力を養う。なお、この授業では、クラス分けを行う。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は薬剤師として活躍するに必要な基礎科目の一つとされ、患者の様々な病態における医薬品の使用に際し、安全かつ有効な薬物療法（医薬品の投与計画）の提案および評価を行うために必要な計算能力を養うことを目的としており、ディプロマ・ポリシー 4 に関連する。

3. 一般目標

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的な知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための、基本的技術を身につける。また、物事を論理的に考える力を身につける。

4. 到達目標

1. 割合と比の扱いができる。〔独自目標〕
2. 指数関数および対数関数を、式およびグラフを用いて説明できる。〔独自目標〕
3. 極限の基本概念を概説できる。〔独自目標〕
4. 導関数の基本概念を理解し、代表的な関数の微分ができる。〔独自目標〕
5. 原始関数の基本概念を理解し、代表的な関数の不定積分および定積分ができる。〔独自目標〕
6. 微分法的式の成り立ちを理解し、基本的な微分方程式（変数分離型）の一般解と特殊解を求めることができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

数学Ⅱでは、数学Ⅰで学んだ内容を含んだ応用数学となるため、必ず数学Ⅰを復習すること（開講前まで）。講義内容の復習はその日に行うこと（約 30 分）。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験：100%

定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。課題に対しては添削し、解答例を掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：わかりやすい薬学系の数学演習，講談社
自作プリントを配布

参考書：わかりやすい薬学系の数学入門，講談社

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	割合と比 「講義」	濃度および割合を表す単位と比例計算	渡邊哲也 杉野雅浩
2	割合と比の薬学への応用 (1) 「講義」	固体と濃度。散剤の調剤計算	渡邊哲也 杉野雅浩
3	割合と比の薬学への応用 (2) 「講義」	液体と濃度。水剤の調剤計算	渡邊哲也 杉野雅浩
4	指数・対数 「講義」	指数・対数の復習	渡邊哲也 杉野雅浩
5	指数関数・対数関数の薬学への応用 (1) 「講義」	ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式の解法とグラフを用いた説明。ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式を用いた種々計算問題	渡邊哲也 杉野雅浩
6	指数関数・対数関数の薬学への応用 (2) 「講義」	アレニウスの式の解法とグラフを用いた説明。アレニウスの式を用いた種々計算問題	渡邊哲也 杉野雅浩
7	微分・積分 「講義」	微分・積分の復習	渡邊哲也 杉野雅浩
8	微分・積分の薬学への応用 (1) 「講義」	速度論における物質収支式の作り方, その解法	渡邊哲也 杉野雅浩
9	微分・積分の薬学への応用 (2) 「講義」	反応式 (0 次, 1 次, 2 次) の解法とグラフを用いた説明	渡邊哲也 杉野雅浩
10	微分・積分の薬学への応用 (3) 「講義」	反応式 (併発, 逐次, 可逆) の解法とグラフを用いた説明	渡邊哲也 杉野雅浩
11	微分・積分の薬学への応用 (4) 「講義」	血中薬物濃度式 (静注, 経口, 点滴) の解法とグラフを用いた説明	渡邊哲也 杉野雅浩
12	微分・積分の薬学への応用 (5) 「講義」	Higuchi 式, ノイエスホイトニーの式の解法とグラフを用いた説明	渡邊哲也 杉野雅浩
13	定期試験		渡邊哲也 杉野雅浩

授業科目名	化学 I		基礎科学-2-1	1 年 前期 1
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）		必修	2 単位
担当教員	准教授：石山玄明，西村良夫 講師：金原 淳 助教：小田中啓太			

1. 科目の概要

- ・第 1 学年後期以降に開講される化学系の専門科目にギャップを感じることなく学習を開始できるように，高等学校での化学の概念・基本事項を確認しつつ，ワンランク上の基礎学力，科学的思考力，論理力についても身につける。
- ・前半はいわゆる無機化学，後半は有機化学を中心に学習する。大学での化学は有機化学の比率が高くなり，新しい概念も登場する。その新しい概念を理解するためには，化学反応を電子の動きとして捉えることが重要となる。化学 I では化学反応の電子の動きの基礎も身につける。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は，医薬品・化学物質等の作用や性状の理解に係る「医薬品を含む有機化合物を代表的な視点から理解する基礎力」を身に付けることを目標としており，ディプロマ・ポリシー 3 に関連する。

3. 一般目標

- ・高等学校における化学基礎の単元と有機化学の範囲において，専門科目を無理なく履修できるような知識を修得する。
- ・酸・塩基の反応，酸化還元反応，また，平衡と物質の変化を履修することにより，化学物質（医薬品を含む）を分析できるようになるための基礎を養う。
- ・代表的な有機化合物の性質，基本的な有機化学の反応を習得することで，医薬品を含む有機化合物を代表的な視点から理解する基礎力を身につけ，さらに 後期以降に開講される有機化学 I ～ IV をスムーズに履修できるような一歩踏み込んだレベルの知識を修得する。

4. 到達目標

1. 元素の周期表のそれぞれの族の特徴を説明できる。
2. 混合物と純物質の違いを説明できる。さらに，基本的な化学物質の分離方法を説明できる。
3. 化学反応の特徴を理解し種類別に分類できる。
4. 物質が反応したり溶解したりするときの熱の出入りについて概説できる。
5. 化学反応に関連づけて物質質量及び濃度を的確に求めることができる。
6. 酸・塩基の特徴，反応性について説明できる。さらに，水溶液の pH を的確に求めることができる。
7. 酸化還元の定義および酸化還元滴定について説明できる。
8. 有機化合物の異性体について説明できる。さらに，有機化合物が持つ特徴を構造と関連づけて概説できる。
9. 基本的な有機反応の仕組みについて説明できる。

5. 授業時間外の学習

春休み中に学習した課題や教科書を基にして，簡単（約 10 分）でも良いので必ず予習してくる。基本事項の上に，毎回積み重ねていく科目なので，その日のうちに理解が不足している部分を教科書，ノート，配付プリントなどを利用して毎回復習すること（約 30 分）。さらに，1 週間後，一ヶ月後に練習問題が解けるか，自らチェックすることも重要である。

6. 評価・フィードバックの方法

中間試験および定期試験：80%。授業時の課題の取組み：20% 中間試験および定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：「薬学生のための基礎化学（修正版）」廣川書店 「『有機化学』ワークブック」奥山格著
丸善出版

参考書：「ソロモンの新有機化学Ⅰ（第11版）」廣川書店

「プライマリー薬学シリーズ3 薬学の基礎としての化学Ⅱ 有機化学」日本薬学会編，東京化学同人

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	化学の基本事項の確認1 「講義・演習」		化学と人間生活 有機化学と薬の関わり	石山玄明
2	化学の基本事項の確認2 「講義・演習」	準備教育 -(5)-①-4	元素の周期表 元素の性質など	小田中啓太
3	化学の基本事項の確認3 「講義・演習」		物質の成分と分類 混合物と純物質，溶解，物質の三態	石山玄明
4	化学の基本1 「講義・演習」		化学反応の分類と化学反応式について	石山玄明
5	化学の基本2 「講義・演習」		化学反応とエネルギーの出入り（熱化学）	石山玄明
6	化学の基本3 「講義・演習」	準備教育 -(5)-③-2	化学反応の計算	石山玄明
7	化学反応式とその性質1 「試験・講義・演習」	準備教育 -(5)-③-4	酸・塩基の理論と反応	石山玄明
8	化学反応式とその性質2 「試験・講義」		中間試験 平衡と物質の変化	石山玄明
9	化学反応式とその性質3 「講義・演習」	準備教育 -(5)-③-5	酸化還元の理論と反応	石山玄明
10	有機化学入門1 「講義・演習」	C3-(1)-② -1,2,3	有機化合物の書き方，命名法と分類	西村良夫
11	有機化学入門2 「講義・演習」	C3-(3)-①-1 C3-(1)-①-6	官能基の性質 有機反応の分類	石山玄明
12	有機反応論1 「講義・演習」	C3-(1)-② -1,2,3,4	有機化合物の異性体と立体化学	西村良夫
13	有機反応論2 「講義・演習」	C3-(1)-① -3,9	有機反応機構	金原 淳
14	有機反応論3 「講義・演習」	C3-(2)-③ -1,2 C3-(2)-③-3	芳香族性（Hückel則） π 結合の反応性	金原 淳
15	総合演習		化学Ⅰの範囲の演習問題を解説	石山・西村 金原・小田中

授業科目名	化学Ⅱ		基礎科学-2-2	1年 前期2
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）		必修	1単位
担当教員	准教授：西村良夫 講師：金原 淳			

1. 科目の概要

薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるため、物質を構成する基本単位である原子および分子の性質について説明する。無機化学、金属のまわりを小分子あるいはイオンが取り囲んだ構造をもつ錯体について学ぶ。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

化学の基礎力を身につけることを目標としており、ディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 一般目標

代表的な元素（典型元素、遷移元素）とその化合物及び錯体の性質を理解するために、名称、構造、性状などに関する知識を習得する。

4. 到達目標

- 1) 原子の構造及び電子配置を説明できる。
- 2) 分子の構造及び極性を説明できる。
- 3) 典型元素および遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。
- 4) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、基本的性質を説明できる。
- 5) 代表的な錯体の名称、立体構造、基本的性質を説明できる。
- 6) 無機医薬品を列挙できる。

5. 授業時間外の学習

講義終了の際に、次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと。（約30分）
また、講義内容をノートや講義資料および演習問題を利用して復習する。（約30分）

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験を100%として評価する。
定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：「ベーシック薬学教科書シリーズ4 無機化学」化学同人，
「薬学生のための基礎化学（修正版）」 廣川書店
参考書：「ソロモンの新有機化学Ⅰ」廣川書店，
「理系のためのはじめて学ぶ化学〔無機化学〕」 ナツメ社

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	原子の構造 「講義」		原子の構造, 量子数と原子軌道	金原 淳
2	電子配置と原子の性質 「講義」	C1-(1)-①-2	電子配置の規則, 原子の大きさ, イオン化エネルギー, 電子親和力, 電気陰性度	金原 淳
3	化学結合と分子の極性 「講義」	C1-(1)-①-1	イオン結合, 共有結合, 配位結合, 金属結合 極性分子と無極性分子	金原 淳
4	分子の構造と形式電荷 「講義」	C3-(1)-①-3,4	ルイス構造, ケクレ構造, 結合・線式, 形式電荷, VSEPR モデルによる分子の形の予測, 原子価結合法	金原 淳
5	混合軌道と構造式 「講義」	C1-(1)-①-2	sp^3 混成軌道, sp^2 混成軌道, sp 混成軌道, 混成軌道の比較	金原 淳
6	「演習」		上記授業(1回～5回)の演習	金原 淳
7	元素と周期律 「講義」	C3-(5)-①-1	代表的な典型元素と遷移元素とその特徴	西村良夫
8	無機化合物 1 「講義」	C3-(5)-①-2	イオウ, 炭素, ハロゲン, リンの酸化物, オキソ化合物の名称, 構造, 性質	西村良夫
9	無機化合物 2 「講義」	C3-(5)-①-3	窒素酸化物の名称, 構造, 性質	西村良夫
10	無機化合物 3 「講義」	C3-(5)-①-3	活性酸素の名称, 構造, 性質	西村良夫
11	錯体 「講義」	C3-(5)-①-4	代表的な錯体の名称, 構造, 代表的な配位子, キレート試薬, 錯体の安定度定数	西村良夫
12	無機医薬品 「講義」	C3-(5)-①-5	医療品として用いられる代表的な無機化合物, 錯体	西村良夫
13	定期試験			西村良夫 金原 淳

授業科目名	物理学Ⅰ		基礎科学-3-1	1年 前期1
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）		必修	2単位
担当教員	講師：小野哲也			

1. 科目の概要

薬学分野の科目を理解する上で、物理学の基礎知識を習得して物理的なものの考え方を学ぶことが必要となる。物理現象の概念をとらえる素養を身につけるために、物体の運動、波動、電磁気学の分野の基礎的な項目を学習する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、薬学を学ぶ上で教養として必要な物理的な考え方を身につけることを目標としており、ディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 一般目標

- ・薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識、問題解決の手法等を身につける。
- ・物理現象などに関して正確に記述できるようにすることで、物理的な概念を身につける。

4. 到達目標

1. 波動、音波などの基本的性質を説明できる。
2. 光、電磁波などの基本的性質を説明できる。
3. 電場と磁場について説明できる。
4. 電気回路（コンデンサー・抵抗）について説明できる。

5. 授業時間外の学習

授業終了時に次回の予告をするので、教科書の該当範囲を熟読してくる。(30分)
教科書をもとに、授業内容についての復習を十分に行う。(30分)

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験：100%
定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：「わかりやすい 薬学系の物理学入門」 小林 賢 他編 講談社 2019年
参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	物理量と単位 「講義・演習」	SI単位系, 有効数字, 次元	小野哲也
2	力学 (1) 「講義・演習」	力	小野哲也
3	力学 (2) 「講義・演習」	速さと速度	小野哲也
4	力学 (3) 「講義・演習」	力と運動	小野哲也
5	力学 (4) 「講義・演習」	仕事とエネルギー	小野哲也
6	力学 (5) 「講義・演習」	円運動	小野哲也
7	波 (1) 「講義・演習」	波の性質	小野哲也
8	波 (2) 「講義・演習」	波の伝わり方	小野哲也
9	波 (3) 「講義・演習」	音波, 音の伝わり方	小野哲也
10	波 (4) 「講義・演習」	光波, 光の性質	小野哲也
11	電磁気学 (1) 「講義・演習」	電場と電位	小野哲也
12	電磁気学 (2) 「講義・演習」	電流と電気抵抗	小野哲也
13	電磁気学 (3) 「講義・演習」	電流と磁場	小野哲也
14	電磁気学 (4) 「講義・演習」	電磁誘導と電磁波	小野哲也
15	定期試験		小野哲也

授業科目名	物理学Ⅱ		基礎科学-3-2	1年 前期2
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）		必修	1単位
担当教員	教授：志村紀子 講師：小野哲也			

1. 科目の概要

薬学を学ぶ上で必要な物理の基礎力を身につけるため、原子・分子の性質や放射線の特徴、熱などの物質のもつエネルギー、物質の三態変化やその平衡などに関する基本的知識を習得する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医薬品・化学物質等の作用や性状、生体および環境への影響に関する科学的な根拠を理解するために必要な「原子や分子、放射線の特徴および熱力学、物質の状態に関する基本的知識」を習得することを目的としており、ディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 一般目標

物質を構成する原子・分子の構造、物質のもつエネルギーや物質の三態に関する基本的知識を習得し、物質の状態について理解する。また、放射線に関する正しい知識を身につける。

4. 到達目標

1. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。
2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
3. 熱力学第一法則を説明できる。
4. 相変化に伴う熱の移動について説明できる。
5. 状態図について説明できる。
6. 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。
7. 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。

5. 授業時間外の学習

予習：授業終了時に次週の予告をするので、その範囲の教科書を熟読してくる（所要時間30分前後）。

復習：授業時間中に理解不足があったら、その日のうちに教科書と配布資料をもとに復習をする（所要時間30分前後）。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験（100％）

定期試験の解答例は、試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：「わかりやすい薬学系の物理学入門」 小林 賢 他編 講談社 2019年

参考書：スタンダード薬学シリーズⅡ物理系薬学Ⅰ 物質の物理的性質 日本薬学会編 東京化学同人
第1版

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	熱 「講義」	C1-(2)-①	気体の法則，理想気体の状態方程式	小野哲也
2	熱 「講義」	C1-(2)-②	気体の分子運動とエネルギー	小野哲也
3	物質の三態 「講義」	C1-(2)-⑤	混合気体と蒸気	小野哲也
4	物質の三態 「講義」	C1-(2)-⑤	態変化とエネルギー，相平衡	小野哲也
5	原子・分子 「講義」	C1-(1)-③-1	電子と光，粒子性と波動性	小野哲也
6	原子・分子 「講義」		原子・原子核・素粒子	小野哲也
7	放射化学入門 「講義」	C1-(1)-④ D2-(1)-④	放射線の特徴 放射線の生体への影響	志村紀子
8	定期試験			志村紀子 小野哲也

授業科目名	生物学Ⅰ		基礎科学-4-1	1年 前期1
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）		必修	2単位
担当教員	准教授：櫻井敏博 助教：小田中啓太			

1. 科目の概要

薬剤師として薬剤を投与する対象は主にヒトである。病態や薬物の作用メカニズムを理解するためには、正常な細胞機能・生命現象について分子レベルから個体レベルまで、幅広い知識が必要となる。本講義では、生命の起源から多細胞生物に進化し、かつ多様化した過程をたどりながら、細胞とはなにか、細胞は何で出来ていてどうやって生きているのか、多細胞化によりどのような利点が生まれたのか、などを学び、今後様々な専門知識を修得する上で必要となる生命についての基礎的事項について解説する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、薬剤師として活躍し、さらに新しい医療につながる科学と技術の進歩に対し適応していくために必要な知識、様々な医療の場で通用する実践力を涵養するために必要となる、基本的な生命システムを理解することを目的としている。これはディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 一般目標

薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身につけるために、細胞、組織、器官、個体、集団レベルでの生命現象と、誕生から死への過程に関する基本的事項を修得する。そのうえで、生物の進化の過程をたどり、生命システムの共通性と多様性を学ぶことにより、生物という概念を構築する。また、薬が細胞に作用するのは、細胞内の化学反応であることを理解する。

4. 到達目標

- 1) 生物学の基本について概説できる。
- 2) 細胞とは何かについて概説できる。
- 3) 細胞内器官の構造と働きについて概説できる。
- 4) 細胞膜の構造と性質について概説できる。
- 5) タンパク質による細胞の活動について概説できる。
- 6) 細胞間の情報伝達について概説できる。
- 7) 細胞の増殖、死について概説できる。
- 8) 遺伝とDNAについて概説できる。
- 9) 転写と翻訳の過程と調節について概説できる。

5. 授業時間外の学習

予習：毎回の講義ごとに、教科書の該当する章を予め読んでから授業に望む（30分）。

復習：毎回の講義の後で講義ノートを見直し、不完全な部分を教科書や参考書を使って補う（30分）。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験の成績（100%）で評価し、判定する。

試験終了後、速やかに模範解答例を教員の居室入り口に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：基礎から学ぶ一生物学・細胞生物学 第3版 和田勝著 羊土社

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	1章. 生物学の基本 「講義」	Pre-(6)-④-2,3,4 Pre-(6)-①-5	地球上には多様な生物が生息している 地球上の生物に共通すること (細胞説) 生物体のつくりと階層	櫻井敏博
2	2章. 細胞のプロフィール 「講義」	Pre-(6)-①-1,2	細胞には多様な横顔がある 細胞を構成している物質 (水・タンパク質, 核酸・糖質・脂質)	櫻井敏博
3	2章. 細胞のプロフィール 「講義」	Pre-(6)-①-3,4 C6-(1)-②-1	細胞小器官の構造と機能 細胞を取り巻く細胞膜の構造と機能	小田中啓太
4	3章. 何が細胞の形や機能を 決めているか 「講義」	Pre-(6)-⑤-2,3 C6-(4)-①-1,2 C6-(4)-②-1,2,3	メンデルの遺伝の法則 形質を決めているものを求めて 遺伝子としてのDNA (セントラルドグマ)	小田中啓太
5	3章. 何が細胞の形や機能を 決めているか 「講義」	C6-(4)-④-1~5	DNAからタンパク質 (転写・翻訳の過程と調節) オペロン説	小田中啓太
6	4章. タンパク質が細胞の さまざまな活動を行う 「講義」	C6-(3)-①-1 C6-(3)-②-1,2	タンパク質の構造 タンパク質のさまざまな機能	櫻井敏博
7	5章. 細胞が生きて活動して いくために 「講義」	Pre-(6)-④-1 Pre-(6)-②-1	代謝経路のネットワーク	櫻井敏博
8	章. タンパク質が細胞のさ まざまな活動を行う 「講義」	C6-(1)-③-1	細胞は動く (アクチンフィラメント・微小管・筋収縮)	櫻井敏博
9	5章. タンパク質が細胞の さまざまな活動を行う 「講義」	Pre-(6)-①-4 C6-(1)-①-1,2 C6-(1)-④-1	細胞膜に埋め込まれた膜タンパク 質の重要な機能膜輸送タンパク質 (単純拡散・受動拡散・能動拡散・膜動輸送)	櫻井敏博
10	6章. 多細胞生物への道① 「講義」	Pre-(6)-②-2	細胞膜に埋め込まれた膜タンパク質の重要な 機能 細胞は集まって情報交換する(細胞接着)	櫻井敏博
11	6章. 多細胞生物への道① 「講義」	Pre-(6)-②-2	細胞間の情報交換 (ホルモンと受容体)	櫻井敏博
12	7章. 多細胞生物への道② 「講義」	Pre-(6)-⑤-1,6 C6-(4)-③-1	細胞の数を増やすーその1	小田中啓太
13	7章. 多細胞生物への道② 「講義」	Pre-(6)-⑥-1~5	細胞の数を増やすーその2	小田中啓太
14	8章. 多細胞生物への道③ 「講義」	C6-(4)-⑤-1 Pre-(6)-⑦-1~3	細胞を正常な状態に保つ 次世代の誕生に必要なこと	小田中啓太
15	定期試験			櫻井敏博 小田中啓太

授業科目名	生物学Ⅱ		基礎科学-4-2	1 年 前期 2
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）		必修	1 単位
担当教員	教授：守屋孝洋，山下俊之 助教：小田中啓太			

1. 科目の概要

薬剤師として薬剤を投与する対象はおもにヒトである。しかし、ヒトも生物の一種であり、生物に共通する生命システムの理解は不可欠である。リンネは生物を分類したが、ダーウィンはすべての生物をつなげてしまった。なぜ共通の祖先があるはずと考えたのか？

生物学ⅠとⅡでは、生命の起源から多細胞生物に進化し、かつ多様化した過程をたどりながら、細胞とは何か、細胞は何でできていてどうやって生きているのか、多細胞化によりどのような利点が生まれたのか、どのように生命をつないでいくのか、などを系統立てて学べるように工夫されている。この流れのなかで、生物学の大きなパラダイムシフトであった、細胞の発見、進化の提唱、遺伝子の示唆、DNA の構造決定、セントラルドグマの否定、リボザイムの発見、ゲノムプロジェクトなどが理解できるはずである。

生命システムを広い視野から眺めるためにも、本講義で多くの疑問を抱き、考え、そして多くの担当教員と意見を交わして欲しい。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、生命システムの共通項を学ぶことにより、生物という概念を構築することを目標としており、ディプロマ・ポリシー 3 および 4 に関連する。

3. 一般目標

生命システムの共通項を学ぶことにより、生物という概念を構築する。

4. 到達目標

- 1) 細胞の再生と死、個体の死について概説できる。
- 2) 生体の情報伝達機構（神経系）と防御機構（免疫系）について概説できる。
- 3) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態および体内での位置およびを説明できる。
- 4) 心臓、血管系、リンパ系の構造と機能を説明できる。
- 5) 肺、気管支の構造と機能を説明できる。

5. 授業時間外の学習

予習：前期Ⅰに開講された生物学Ⅰの復習をしっかりと行い、教科書の該当する章を予め読んでから授業に臨む（30 分）。

復習：毎回の講義のあとで講義ノートを見直し、不完全な部分を教科書や参考書を使って補う（30 分）。

6. 評価・フィードバックの方法

- ・定期試験 100 点満点で評価する。
- ・試験終了後、速やかに模範解答例を教員の居室入り口に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：基礎から学ぶ一生物学・細胞生物学 第 3 版 和田勝著 羊土社
機能形態学 改訂第 4 版（南江堂）
第 3 版 和田勝著 羊土社

参考書：トートラ人体解剖生理学 原書 10 版 佐伯由香ほか編訳 丸善

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	生きること，死ぬこと 「講義」	C6-(7)-②-1, ③-1,2	細胞の再生と死	小田中啓太
2	器官系概論「講義」	C7-(1)-③-1	人体を構成する器官，器官系の名称，形態， 体内での位置および機能	守屋孝洋
3	神経系「講義」	C7-(1)-④-1,2	中枢神経系および末梢神経系の構成と機能	守屋孝洋
4	神経細胞の興奮「講義」	C7-(2)-①-1	静止膜電位，活動電位の発生	守屋孝洋
5	循環器系（心臓，血管とリンパ系）「講義」	C7-(1)-⑦-1	心臓，血管系とリンパ系の構造と機能	守屋孝洋
6	呼吸器系「講義」	C7-(1)-⑧-1	肺，気管支の構造と機能	守屋孝洋
7	個体を守る免疫のシステム (1)	C8-(1)-①-1,2 C8-(1)-②-1,2	免疫系の概説，自然免疫	山下俊之
8	個体を守る免疫のシステム (2)	C8-(1)-①-3,4	体液性免疫と細胞性免疫	山下俊之
9	定期試験			守屋・山下 小田中

授業科目名	薬学基礎実習		基礎科学-5	1年 後期1・2
授業区分	基礎教育科目（基礎科学）		必修	1.5単位
担当教員	教授：柏木良友，守屋孝洋 准教授：石山玄明，古泉博之，西村良夫 講師：小野哲也，金原 淳，吉田健太郎 助教：小田中啓太			

1. 科目の概要

『化学系』『化学の実験』と『化学の理論（教科書で学んでいること）』は、車でいうなら両輪に相当するものです。そのうち、『化学の実験』は化学の本質を理解するために行うものであり、専門教育科目の化学系実習に留まらず研究室で実験をする時にも必要な手段となります。

この薬学基礎実習（化学系）では、大学の実習室において専門教育科目の化学系実習を安全かつスムーズに開始できるように、『化学の実験』をする上での安全面、ガラス器具の使い方、実習室機器の操作方法などの基本事項について、呈色反応や分液操作による有機化合物の分離を通して学びます。実習は実習時間内にただ操作を行うだけでなく、その日に行う実習についてあらかじめ調べ（インターネットを利用した、薬品の危険性の調査を含む）、目的を正しく理解し、実習の結果だけでなく途中経過もノートにしっかりと記載し、最終的にレポートを作成するということが一連の流れとなります。実習の予習をしてくることで、実習途中の段階で順調に進んでいるのか、あるいはうまく行っていないのかわかります。また、『失敗したかな？』と思ったときに、教員と相談して原因を考えることはとても大切です。教科書で学ぶ『化学の理論』を、実体験を通してレポートにまとめることで、確実に知識を深めることができます。

『物理系』学問に好奇心を持つには、単に座学による知識の詰め込みだけでなく、その現象を自分の手で確かめることは有用な手段である。また、あらかじめ予測することが可能な結果もあり（pH変化など）、自分自身の手で実験を行い確かめることにより知識の定着を図る。もし仮に予測と異なった結果が得られた場合には、知識を総動員して問題の解決を図る。本実習では、上級学年から行われる専門教育科目の各実習が円滑に行えるよう、実験の基本的なマナー、実験器具の使い方、試薬の調製法等の技術の修得ならびに簡単な実験を行う。

『生物系』科学の歴史は可視化の歴史です。生命とは何か？を探るために、顕微鏡をはじめとした様々なものが発明され、生命科学の進歩に貢献してきました。この実習では、マウスの血糖値を測定することにより生体の恒常性を知り、ウイルスが引き起こす赤血球凝集反応を通して目に見えないウイルスの定量方法とその応用例を学び、イムノクロマト法を通して試料中にある目に見えない物質の検出原理を学びます。出来てしまったものを利用するのは簡単ですが、その陰には想像を超える物語が広がっています。「可視化」をキーワードにして、共に未知の世界に旅立つ準備をしましょう。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、実験マナーを学び、物理系、化学系、生物系実験における基本的な技術を習得することを目標としており、ディプロマ・ポリシー 3 および 4 に関連する。

3. 一般目標

- ・本実習では、上級学年で行われる専門教育科目の各実習が円滑に行えるよう、実験マナー、実験器具の使い方、器具の洗浄法、有害廃液の処理法、試薬調製等の基本的な技術を習得する。
- ・実験データを効率よく整理し、グラフ等を作成できることが重要であるため、本実習では薬学に必要な物理化学的現象を解析し、理論的に考察することで明快なレポートを書く能力を身に付ける。
- ・安全に『化学の実験』を行うために、実習室内での危険性を予測・認知する能力を修得する。

- ・化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する。
- ・環境への影響を配慮し、実習の片付けを適切に行う能力を身につける。
- ・化学物質の定性分析に関する基本的事項を修得する。
- ・官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。

生物

- ・血糖値測定によってわかることとその限界を知る。
- ・ウイルスの定量方法とその応用例を知る。
- ・抗体発見の物語と抗原抗体反応の有用性を知る。

4. 到達目標

物理系

1. 実験に用いる器具を正しく使用できる。
2. pH 変化が理解できる。
3. 緩衝作用の原理を理解し、緩衝液の限界が判断できる。
4. 中和滴定が理解できる。

化学系

1. 化学系の研究室で発生件数が多いまたは重大な事故について説明できる。
2. 実習室内での危険性を察知することができる。
3. 実習で使う試薬の危険性や処理方法について（SDS を）調べることができる。
4. 揮発性の高い、臭いのきつい、あるいは毒性の強い溶媒や試薬については、ドラフト内で取り扱うことができる。
5. 実習室のガラス器具類を安全かつ適切に使用することができる。
6. 実習室内の機器類（ロータリーエバポレーターなど）を安全に使用することができる。
7. 実習の後片付けの際、実験ゴミや廃液を適切に処理することができる。
8. 実験で使用したガラス器具類を、それぞれ適切に洗浄、乾燥、後片付けできる。」
9. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。
10. 有機溶媒の物性の理解し適切に取り扱うことができる。
11. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。
12. 化合物の秤量、溶解、抽出、乾燥、ろ過、濃縮を実施できる。

生物系

1. 用具の適切な使用ができる。
2. スケッチができる。
3. 生体内に目印を付する方法が説明できる。
4. 無菌操作ができる。
5. 抗原と抗体が説明できる。
6. マウスを正しく扱える。

5. 授業時間外の学習

『物理系』実習開始前に実習書（プリント）を熟読し、実習内容を十分理解しておくこと。また、レポート作成を通じて、実習内容の理解度を確認する。予習：実習書を熟読し、参考書の該当箇所をよく読んで予習して来ること。（30 分）

復習：毎回、実習にて得たデータを振り返り、その日のうちにレポートを作成する。（60 分）

『化学系』実習で使用する試薬や反応について各自があらかじめ調べ（約 30 分）、実習の目的をよく理解し

た上で自らが実験操作を行うことによって、理解が深まります。さらに、実験結果だけでなく実験経過のメモ、あるいは失敗したことも含めてレポートを作成することで、より理解が深まり記憶に定着させることができます。

『生物系』実習書（プリント）を予め読む。レポート執筆により、実習の目的から考察までを明確化する。

6. 評価・フィードバックの方法

『物理系』実習態度：30%，実習レポート：70%

『化学系』実習試験：20%，実習態度，実習レポート 80%

『生物系』実習試験：30%，実習態度，実習レポート 70% 最終成績は3系の合計を100%に換算する
実習試験の解答例を試験終了時に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：実習書（プリント）『物理・生物系』

基礎化学実験 安全オリエンテーション，山口和也・山本仁 著，東京化学同人『化学系』
「ソロモンの新有機化学Ⅱ（第11版）」廣川書店

参考書：「パートナー分析化学Ⅰ改訂第3版」萩中 淳・山口政俊・千熊正彦編，南江堂『物理系』

安全化学実験ガイド，NPO 法人 研究実験施設・環境安全教育研究会（REHSE）編，講談社『化学系』

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」（記号）	授業内容	担当者
1 2	実習ガイダンス 「講義」 安全講習 「演習」	D2-(1)-②-1 化学系実習の注意事項と全体説明 事故例の紹介と危険認知の確認	石山玄明 西村良夫 金原 淳
3 4 5	定性反応 1 「実習」 定性反応 2 「実習」 定性反応 3 「実習」	C2-(3)-①-2 準備教育(5) -④ 日本薬局方収載医薬品の呈色反応（1） （銀鏡反応など） 日本薬局方収載医薬品の呈色反応（2） （ヨードホルム反応など） 日本薬局方収載医薬品の呈色反応（3） （ニンヒドリン反応など）	石山玄明 西村良夫 金原 淳
6 7 8	官能基の性質 1 「実習」 官能基の性質 2 「実習」 官能基の性質 3 「実習」	C3-(3)-①-2 準備教育(5) -④ 有機溶媒の物性について （水と混和する溶媒，混和しない溶媒）分液 操作による有機化合物の分離 （水層の pH 変化による異なる物質の抽出） pH の変化による有機化合物の結晶化 （有機化合物が溶解した水層の pH 変化による析出）	石山玄明 西村良夫 金原 淳
9 10 11	ガイダンス 「講義・実習」	C2-(1)-① 実習の進め方，レポートの作成方法，実験器具の使い方，器具の洗浄法，有害廃液の処理法，試薬調製	柏木良友 小野哲也 吉田健太郎
12 13 14	pH 変化の観察 「実習」	C2-(3)-②-1 塩酸と水酸化ナトリウムの混合による pH 変化の観察	柏木良友 小野哲也 吉田健太郎
15 16 17	緩衝液 「実習」	C2-(2)-① -2,3 水，酢酸およびリン酸二水素カリウム水溶液の緩衝作用	柏木良友 小野哲也 吉田健太郎

18 19 20	動物の解剖 「実習」	C7-(1)-③-3 C7-(1)-⑤-1	血糖値の測定	守屋孝洋 古泉博之 小田中啓太
21 22 23	ウイルスの定量 「実習」	C8-(3)-③-1 C8-(3)-⑥-2	インフルエンザウイルスの赤血球凝集試験と 赤血球凝集抑制試験	守屋孝洋 古泉博之 小田中啓太
24 25	免疫反応の利用 「実習」	C8-(2)-②-4	イムノクロマト法	守屋孝洋 古泉博之 小田中啓太

授業科目名	フレッシュマンウィーク	準備-1	1年 入学直後
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	0.5 単位
担当教員	学年主任 他		

1. 科目の概要

入学式直後の一週間、大学生として生活していくために必要なことを多角的に学習する。大学などの高等教育と高校までの初等・中等教育との大きな違いの一つが、自主的かつ能動的に学習その他の活動に取り組む態度が求められることである。授業やサークル活動など学内での活動はもとより、地域での活動等においても自律的・活動的に行動する姿勢が成功につながる。この授業では、多様な活動を通じて自分が集団の中でどのような役割を果たすことができるかを考え、その役割を積極的に担おうとする態度の大切さを学ぶ。また、学生生活ではさまざまな不法行為や社会問題に遭遇する可能性も高まる。自らがそうした事案の加害者・被害者にならないために必要な知識を学ぶ。この授業ではグループワークによる問題解決型授業（PBL）を行う。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医療人としての豊かな人間性と強い使命感を醸成することを目的としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。また、チーム活動における自己の特性を知り、チームに貢献しようとする態度を培う点においてディプロマ・ポリシー 2 に関連する。

3. 一般目標

大学生として安全かつ有意義な生活を送るために必要な知識・技能・態度がどのようなものかを知り、それらを習得しようとする意識を持つ。

4. 到達目標

- (1) 消費者問題、酒、煙草、ドラッグの危険性とそれらが原因となって生じる社会問題の現状と、危険を回避する対処法を説明できる。〔独自目標〕
- (2) 大学で学生生活を快適に送るために必要な見識や態度について説明できる。〔独自目標〕
- (3) 薬剤師の職能と社会的使命について説明できる。〔独自目標〕
- (4) 円滑な人間関係を構築するために自分が果たすべき役割を述べるができる。〔独自目標〕
- (5) 協同学習の有効性を理解し、他人と協力し合って学習を進めることができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習は特に必要としない。復習として、講義で取り上げられた内容をノートに整理し、追加情報を検索・収集しておく。（所要時間：30 分）

6. 評価・フィードバックの方法

活動への取り組み姿勢（教員の観察による評価）40%
講義の内容に関するレポート 60%
観点別の評価を記載したレポート評価表を配付する。

7. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	喫煙の有害性「講義」	喫煙が人体に及ぼす影響	学年主任 他
2	飲酒の影響「講義」	飲酒が人体に及ぼす影響と飲酒の関する社会問題	学年主任 他
3	薬物乱用の防止「講義」	薬物乱用の実態と危険に近づかない方策	学年主任 他
4	学生生活と消費者問題「講義」	学生生活において気をつけたい消費者問題	学年主任 他
5	オリエンテーションキャンプ (1)「演習」	構成的グループエンカウンター	学年主任 他
6	オリエンテーションキャンプ (2)「グループワーク・PBL」	グループワーク (1)	学年主任 他
7	オリエンテーションキャンプ (3)「グループワーク・PBL」	グループワーク (2)	学年主任 他

授業科目名	フレッシュマンセミナー	準備-2	1年 前・後期
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	0.5 単位
担当教員	准教授：伊藤頼位 アドバイザー教員他		

1. 科目の概要

大学へ入学して間もない時期は、以前とは大きく異なる生活環境や学習環境に戸惑い、日々の生活や学習をどのように進めればよいか不安を感じることが少なくない。この授業ではそうした不安を早期に解消し、大学生としての生活と学習を円滑に開始できるよう、様々な活動を通して大学の規則や6年間の学習の内容、卒業後の進路の選択肢を知るとともに、効果的な学習の進め方、適切な学習計画と生活環境の作り方、教員や友人とのコミュニケーションの取り方についてクラスメートと協同して学ぶ。この授業では、情報リテラシー（情報の探索、分析、提示）について扱う。授業はディスカッション、プレゼンテーション、PBLを含むグループワークを実施する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医療人としての豊かな人間性と強い使命感を醸成することを目的としており、ディプロマ・ポリシー1に関連する。また、チーム活動における自己の特性を知り、チームに貢献しようとする態度を培う点においてディプロマ・ポリシー2に関連する。

3. 一般目標

大学生生活を円滑に開始するため、大学の規則や6年間の学習の内容、卒業後の進路の選択肢を知る。また、効果的な学習の進め方、適切な学習計画と生活環境の作り方、教員や友人とのコミュニケーションの取り方について学ぶ。

4. 到達目標

- (1) 薬学部のカリキュラムの概要を説明できる。〔独自目標〕
- (2) 整理された授業ノートを作成できる。〔独自目標〕
- (3) 適切に構成されたレポートを作成できる。〔独自目標〕
- (4) アドバイサー教員の研究領域について概要を説明できる。〔独自目標〕
- (5) 協同学習・ディスカッションにおいて自分が貢献できる事柄を理解する。〔独自目標〕
- (6) 協同学習・ディスカッションにおいて活動に積極的に参加しようとする。(態度)〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習は必要としないが、授業時間外で取り組むべき活動が多いので、それらに怠りなく取り組む必要がある。(30分)

6. 評価・フィードバックの方法

- 80% 授業時の活動（リアクションフォームへの記入・ディスカッションでの発言や質問）
20% 提出課題 提出課題は採点後にコメントを付して返却する。

7. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	大学の6年間を知ろう(1) 「講義」	ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー／科目履修の方法／大学での学びの基本	伊藤頼位
2	大学の6年間を知ろう(2) 「講義」	薬学共用試験・薬剤師国家試験の概要／薬剤師の就職先	伊藤頼位
3	ロングホームルーム 「SGD」	クラスメートとの交流	伊藤頼位
4	効果的な学習方法 「講義」	講義の聞き方／メモの取り方／ノートの作り方／復習の方	伊藤頼位
5	PROG テスト 「演習」	PROG テスト受験	伊藤頼位 他
6	リーディングスキルテスト 「演習」	リーディングスキルテスト受検	伊藤頼位 他
7	性的マイノリティについて 考える「演習」	性的マイノリティについて知り、多様性を認め合う社会について考える	伊藤頼位
8	アドバイザーゼミ 「演習」	アドバイザー教員によるゼミナール	アドバイザー 教員
9	チームプロジェクト(1) 「演習・PBL・グループ ワーク」	情報の収集	伊藤頼位
10	チームプロジェクト(2) 「演習・PBL・グループ ワーク」	情報の整理	伊藤頼位
11	チームプロジェクト(3) 「演習・PBL・グループ ワーク」	情報の提示	伊藤頼位
12	チームプロジェクト(4) 「演習・PBL・グループ ワーク」	活動の振り返り	伊藤頼位
13	まとめ 「演習・SGD」	この授業のまとめ	伊藤頼位

授業科目名	情報科学講義	準備-3	1年 前期2
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1単位
担当教員	准教授：木田雄一		

1. 科目の概要

社会の情報化が進展し、産業・経済・生活の構造が変化するのに伴って、コンピュータやインターネット、携帯情報端末を支える情報通信技術は、薬学領域を含めた、あらゆる分野における基盤技術として、ますます発展を続けている。このような情勢のなかで、情報システムの利用は、実務の効率的な遂行において不可欠となった。

情報システムは、その中心的な役割を担うコンピュータを構成するハードウェア技術とソフトウェア技術、互いに接続し連携するためのネットワーク技術など多岐に渡る技術の上に成り立っている。

また、誰もがスマートフォンに代表されるインターネットに接続された情報端末を持ち、気軽に情報発信ができる現代は、逆に考えると、例えば学生であっても実社会と直結しており、その目を向けられる事をも意味する。従って、情報システムやインターネットの利用においては、情報倫理と情報セキュリティの知識が必須となる。

本講義では、情報システム、特にコンピュータと携帯情報端末を今後の学習や就職後の実務に効率的に利用できるようになるため、上述した技術と知識の基礎を学ぶ情報リテラシーの授業であると共に、随時、即時応答システムである Google Forms により小問を解答させて、それに対するフィードバックを行う ICT を活用した授業である。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、薬物療法に関する情報を、患者に分かり易いように IT 機器を用いて提供するために必要とされる「情報処理能力」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 6 に関連する。

3. 一般目標

本講義では、情報システム、特にコンピュータと携帯情報端末を今後の学習や就職後の実務に効率的に利用できるようになるため、電子データの特徴、コンピュータの仕組みとハードウェア関連技術、ソフトウェア関連技術、ネットワーク関連技術の基礎知識、および、情報倫理と情報セキュリティの基礎知識を習得する。

4. 到達目標

- ・電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。〔独自目標〕
- ・コンピュータを構成する基本的装置について概説できる。〔独自目標〕
- ・無線 LAN を利用するための注意点について概説できる。〔独自目標〕
- ・インターネットの仕組みを概説できる。〔独自目標〕
- ・ソーシャルネットワークサービスの利用における留意点を説明できる。〔独自目標〕
- ・ネットワークセキュリティについて概説できる。〔独自目標〕
- ・情報倫理、情報セキュリティに関する情報を収集できる。〔独自目標〕
- ・著作権、肖像権、引用と転載の違いを説明できる。〔独自目標〕
- ・ソフトウェア使用上のルールとマナーを概説できる。〔独自目標〕
- ・コンピュータウイルスとその予防について概説できる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：シラバスに従って講義を進めるので、その範囲の教科書を30分以上かけて熟読して臨むこと。

基本的な四則演算（加減乗除）ができる前提で講義を進める。数字や筆算に対するアレルギーを克服しておくこと。

復習：前回の授業内容を復習し、出された問題を解けるようにすること。

どうしても解けない場合は、その週の内に教員に質問に行き、そのままにしないことが重要である。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験の成績（90%）、小演習（10%）で評価する。

随時、Google Formsを活用した即時応答システムを用いて、小問題を解答させ、その正誤を通知する。

小演習の成績に応じて次の授業に復習の時間を設けるなど工夫する。

定期試験の解答例を試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：伊東俊彦 著「情報科学基礎－コンピュータとネットワークの基本－」ムイスリ出版

参考書：IT 技能演習の教科書を、参考書として利用する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	データと情報の表現 「講義」	データと情報の基礎、電子データの特徴	木田雄一
2	コンピューターの仕組みと ハードウェア (1) 「講義」	コンピューターの構成要素（演算装置、制御装置）	木田雄一
3	コンピューターの仕組みと ハードウェア (2) 「講義」	コンピューターの構成要素（主記憶装置、補助記憶装置、入力装置、出力装置）	木田雄一
4	ソフトウェア 「講義」	ソフトウェアの種類、オペレーティングシステムの役割、プログラムとは、データベースの基礎	木田雄一
5	ネットワーク 「講義」	ネットワークの種類、無線 LAN の種類と注意点、インターネットの仕組み	木田雄一
6	情報セキュリティと情報倫理 (1) 「講義」	情報システムのセキュリティ	木田雄一
7	情報セキュリティと情報倫理 (2) 「講義」	情報倫理、著作権・肖像権・引用	木田雄一
8	定期試験		木田雄一

授業科目名	IT 技能演習 I	準備-4-1	1 年 前期1・2
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	准教授：木田雄一		

1. 科目の概要

社会の情報化が高度に発展した現代において、情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うためには、情報機器の利用が必須となった。スマートホンに代表される携帯情報端末の利用が普及した現代においても、文書の作成や表計算など、多くの情報を入力する場面や高度な計算処理を行う場面では、大きな画面とキーボードそして高い計算能力のあるコンピュータの重要性は変わっていない。

これを受けて本授業では、オペレーティングシステムの基本操作、アカウントの管理、データファイルの管理、ワードプロセッサによる文書作成、プレゼンテーションアプリによるスライド作成を実際に行い、コンピュータの基本的な利用技術を身につける。

本演習は、情報リテラシーに関する授業であると共に、各自の作成した課題が保存されるファイルサーバ経由で、随時、教員が進捗と完成度を確認してフィードバックを行う ICT を活用した授業である。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、薬物療法に関する情報を、患者に分かり易いように IT 機器を用いて提供するために必要とされる「IT 機器を活用する技能」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 6 に関連する。

3. 一般目標

情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うための技能として、コンピュータの基本的な利用技術を習得する。

4. 到達目標

- ・オペレーティングシステムの基本的な操作ができる。〔独自目標〕
- ・アカウントとパスワードを適切に管理できる。〔独自目標〕
- ・電子データの特徴を知り、データファイルを適切に管理できる。〔独自目標〕
- ・学生用ポータルサイトを活用できる。〔独自目標〕
- ・ワードプロセッサによる文書作成と印刷ができる。〔独自目標〕
- ・プレゼンテーションアプリによるスライドの作成ができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：演習課題の範囲と補足資料を <http://st1.student-ohu.ac.jp/> に随時掲載するので、毎週、必ず見ておくこと。演習終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を 30 分程度かけて読んでから臨むこと。

復習：キーボードでの入力の実験レポートや卒業論文の作成で必要となるので、練習ソフトで習熟しておくこと。教科書の課題のうち演習で指定されなかったものも、後々役立つので完成させておくとうい。

6. 評価・フィードバックの方法

演習課題の完成度（80%）、演習中の態度（20%）で評価する。

演習時間中に各学生の PC を見て回り、質問に対応するなど適宜指導する。

7. 教科書・参考書

教科書：佐藤憲一・川上準子 編「医療系のための情報リテラシー－ Windows10・Office2016 対応－」
共立出版

参考書：情報科学講義の教科書を，参考書として利用する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	オペレーティングシステムの基本操作 「演習」	ログインと電源を切る方法，アカウントの管理，キーボードの練習	木田雄一
2	学生用ポータルサイトの利用 「演習」	学生用ポータルサイトの紹介	木田雄一
3	データファイルの管理 「演習」	フォルダと階層構造，データファイルの管理	木田雄一
4	ワープロソフトによる文書作成（1） 「演習」	日本語入力の方法，MS-Word によるファイルの開き方と保存方法，簡単な文書の作成	木田雄一
5	ワープロソフトによる文書作成（2） 「演習」	特殊文字の入力，さまざまな文字飾りの適用，文のコピー・移動・削除	木田雄一
6	ワープロソフトによる文書作成（3） 「演習」	表のある文書の作成	木田雄一
7	ワープロソフトによる文書作成（4） 「演習」	既定の書式に基づいた文書の作成，印刷プレビューと実際の印刷	木田雄一
8	ワープロソフトによる文書作成（5） 「演習」	ワードアートとイラストのある文書の作成	木田雄一
9	ワープロソフトによる文書作成（6） 「演習」	数式のある文書の作成	木田雄一
10	ワープロソフトによる文書作成（7） 「演習」	段組みのある文書の作成	木田雄一
11	ワープロソフトによる文書作成（8） 「演習」	複雑な文書の作成	木田雄一
12	ワープロソフトによる文書作成（9） 「演習」	複雑な文書の作成	木田雄一
13	ワープロソフトによる文書作成（10） 「演習」	複雑な文書の作成と印刷	木田雄一
14	プレゼンテーションアプリの利用（1） 「演習」	文字の入力と画像の挿入，表示モード，スライドの操作	木田雄一
15	プレゼンテーションアプリの利用（2） 「演習」	スライドショーとアニメーション	木田雄一

授業科目名	IT 技能演習Ⅱ	準備-4-2	1 年 後期1・2
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	准教授：木田雄一		

1. 科目の概要

社会の情報化が高度に発展した現代において、情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うためには、情報機器の利用が必須となった。スマートホンに代表される携帯情報端末の利用が普及した現代においても、文書の作成や表計算など、多くの情報を入力する場面や高度な計算処理を行う場面では、大きな画面とキーボードそして高い計算能力のあるコンピュータの重要性は変わっていない。

これを受けて本授業では、表計算ソフトによるデータ処理とグラフ作成、インターネットを利用した情報検索の課題を実際に行い、コンピュータの基本的な利用技術を身につける。

本演習は、情報リテラシーに関する授業であると共に、各自の作成した課題が保存されるファイルサーバ経由で、随時、教員が進捗と完成度を確認してフィードバックを行う ICT を活用した授業である。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、薬物療法に関する情報を、患者に分かり易いように IT 機器を用いて提供するために必要とされる「IT 機器を活用する技能」を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 6 に関連する。

3. 一般目標

情報の収集・加工・提供・管理を効率よく行うための技能として、コンピュータの基本的な利用技術を習得する。

4. 到達目標

- ・表計算ソフトによるデータ処理とグラフ作成ができる。〔独自目標〕
- ・インターネットに接続し、Web サイトを閲覧できる。〔独自目標〕
- ・検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。〔独自目標〕
- ・医薬品と文献に関する情報を収集できる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

予習：演習課題の範囲と補足資料を <http://stl.student-ohu.ac.jp/> に随時掲載するので、毎週、必ず見ておくこと。演習終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を 30 分程度かけて読んでから臨むこと。

復習：キーボードでの入力の実験レポートや卒業論文の作成で必要となるので、練習ソフトで習熟しておくこと。教科書の課題のうち演習で指定されなかったものも、後々役立つので完成させておくといよい。

6. 評価・フィードバックの方法

演習課題の完成度（80%）、演習中の態度（20%）で評価する。

演習時間中に各学生の PC を見て回り、質問に対応するなど適宜指導する。

7. 教科書・参考書

教科書：佐藤憲一・川上準子 編「医療系のための情報リテラシー－ Windows10・Office2016 対応－」
共立出版

参考書：情報科学講義の教科書を、参考書として利用する。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	表計算の基本操作 (1) 「演習」	表計算の基本操作, 簡単な計算表の作成	木田雄一
2	表計算の基本操作 (2) 「演習」	関数計算の利用	木田雄一
3	表計算の基本操作 (3) 「演習」	表の編集, 書式の設定	木田雄一
4	表計算の基本操作 (4) 「演習」	複雑な計算表の作成	木田雄一
5	表計算ソフトでのグラフ作成 (1) 「演習」	グラフ作成の基本操作	木田雄一
6	表計算ソフトでのグラフ作成 (2) 「演習」	グラフの編集	木田雄一
7	表計算ソフトでのグラフ作成 (3) 「演習」	数式のグラフ化	木田雄一
8	表計算ソフトでのグラフ作成 (4) 「演習」	様々な種類のグラフの作成	木田雄一
9	表計算ソフトのデータベース機能 (1) 「演習」	Excel のデータベース機能の概要, 簡単なデータベースの作成	木田雄一
10	表計算ソフトのデータベース機能 (2) 「演習」	各種の条件によるソート	木田雄一
11	表計算ソフトのデータベース機能 (3) 「演習」	レコードの抽出	木田雄一
12	表計算ソフトのデータベース機能 (4) 「演習」	クロス集計とピボットテーブル	木田雄一
13	表計算ソフトのデータベース機能 (5) 「演習」	ゴールシークとソルバー	木田雄一
14	インターネットを利用した情報検索 「演習」	インターネットの利用とセキュリティ インターネットを利用した文献検索	木田雄一
15	オンラインでの医薬品情報検索 「演習」	インターネットでの医薬品情報検索 添付文書情報の検索	木田雄一

授業科目名	日本語表現Ⅰ	準備-5-1	1年 前期1・2
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	2単位
担当教員	准教授：伊藤頼位 講師（兼担）：本多真史		

1. 科目の概要

「読む」という行為は、孤独な作業というイメージを持たれがちであるが、実は非常に対話的な営みである。第一に、テキストに書かれている事柄は書き手の意図を離れては存在しえないものであるから、読むことはすなわち書き手のメッセージを受け取ることである。さらに、そのようにして受け取ったメッセージに対して、自らはどう考えるのかを自問することで、読み手としての自分との対話が生まれる。

そして、学生や教員といった他者と共に読むとき、自らの読みは他者の読みと重なり、修正され深まっていく。共に読む他者との対話も、「読む」行為の重要な一要素である。

本科目では、テキストの講読と発表・質疑応答を通して、「読む」行為の持つ対話性を体感し、コミュニケーション能力の基礎となる「読む力」を養うことを目標とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、多様な背景を持つ人と速やかに良好なコミュニケーションを取るために必要な能力のひとつである「文章を正確に理解する能力」「自らの意見を聞き手に伝える能力」を身につけることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 2 に関連する。

3. 一般目標

1. テキストを主体的に読み、自らの意見を形成・修正することができるようになる。
2. 読み手として、書き手の意図を正確に読み取ったうえで考えを深め、さらに書き手として、あるいは話し手として、自らの意見を読み手（聞き手）に伝えることができるようになる。

4. 到達目標

1. まとまった量の文章において、情報の内容や書き手の意図を正確に読み取れるようになる。
2. テキストに対して、疑問や意見を持つことができるようになる。
3. 自らの意見を、適切な情報を根拠として挙げつつ、論理的にまとめられるようになる。

5. 授業時間外の学習

指定のテキスト（初回の授業で発表します）を読み、問題点・疑問点をまとめる（各回 30 分程度）。また、発表に備えて資料の作成を進める。発表後は、質疑応答を活かして内容を深め、レポートにまとめる。

6. 評価・フィードバックの方法

発表（40%）、最終課題（20%）、授業内課題（20%）、授業態度（20%）。

なお、正当な理由なく、発表を無断で欠席した場合や、発表資料を指定の時間までに提出しなかった場合は履修を放棄したものとみなします。オンラインでの開講となった場合は、教材配布・課題回収により授業を行い、次の通りに成績評価を行います。

出席及び小テスト（40%）、毎回の提出課題（40%）、最終課題（20%）。

7. 教科書・参考書

教科書：なし。テキストは随時配布します。

参考書：授業内で適宜紹介します。

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	ガイダンス 「講義」	授業内容や進め方の説明、テキストの紹介	伊藤頼位 本多真史
2	テキストの読み方Ⅰ 「講義」	情報の読み取り方とまとめ方	伊藤頼位 本多真史
3	テキストの読み方Ⅱ 「講義」	疑問・意見の持ち方とまとめ方	伊藤頼位 本多真史
4	発表の仕方 「講義」	発表資料の作り方、発表の進め方	伊藤頼位 本多真史
5	発表（1） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
6	発表（2） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
7	発表（3） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
8	発表（4） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
9	発表（5） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
10	発表（6） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
11	発表（7） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
12	発表（8） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
13	発表（9） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
14	発表（10） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史
15	発表（11） 「演習」	発表と質疑	伊藤頼位 本多真史

授業科目名	日本語表現Ⅱ	準備-5-2	1年 後期 1
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1単位
担当教員	准教授：伊藤頼位 講師（兼担）：本多真史		

1. 科目の概要

この授業では、論理的に思考・表現するための技能を養成する。論理的思考・表現に不可欠なのは、言語表現の意味や真偽に注意を向けること、誤った論証や推論がどのようなものかを知り、それらを避けることである。授業では多くの例題を用いて実際に考え、「論理的である」とはどういうことかを理解する。さらにディベートを通じて論証の技能を実践する。本科目では、情報リテラシーを扱う。また、本科目はアクティブラーニング（学生の能動的活動を基盤とする学び）を指向した授業であり、ディスカッション、ディベート、グループワークを実施する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、コミュニケーション能力の基盤となる論理的な思考力と表現力を要請することを目標としており、ディプロマ・ポリシー2に関連する。

3. 一般目標

薬学の学びおよび卒業後の薬剤師実務において必要となる論理的思考・表現能力の基盤を確立するため、コミュニケーション能力を高めるとともに論証の方法を習得する。

4. 到達目標

- (1)基本的な接続表現を列挙し、それらの使い分けを説明できる。〔独自目標〕
- (2)論理的な文章を読んで、その論証構造を把握できる。〔独自目標〕
- (3)他者の論証を分析して批判を加えることができる。〔独自目標〕
- (4)正確、かつ、わかりやすい日本語を用いて、説得力のある論証を行うことができる。〔独自目標〕

5. 授業時間外の学習

授業者が配布するプリントを使用して講義を行う。シラバスで、事前に内容確認しておく（所要時間5分前後）。授業終了後に課題演習を行い、提出する。（所要約30分）

6. 評価・フィードバックの方法

40% 提出課題

60% 発表・討議・最終課題

提出された課題は採点后に返却する。発表や発表準備への未参加者は、履修を放棄したものとみなす。（出席停止等、特段の事情がある場合は除く。）

7. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：『質問力』、齋藤孝、ちくま文庫、2003

『大学生のための社会人入門トレーニング』、真田治子・野呂佳代子・長谷川守種編、三省堂、2011

『看護系学生のための日本語表現トレーニング』、野呂幾久子・渡辺弥生・味木由佳編、三省堂、2013

『大学生のための日本語表現トレーニング』、橋本修・安部朋世・福岡健伸編、三省堂、2008

『「質問力」の教科書』、御厨貴、講談社、2011

『論理トレーニング101題』、野矢茂樹、産業図書、2001

『イラスト・ストーリーで身につくロニリのちから』、NHK『ロニリのちから』制作班著、三笠書房、2015

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	「論理的」とはどういうことか 「講義・グループワーク」	論理的思考と非論理的思考，数学の論理と自然言語の論理	伊藤頼位
2	論証の方法（1） 「講義・グループワーク」	接続表現と接続構造，論証の構造	伊藤頼位
3	論証の方法（2） 「講義・グループワーク」	論証の評価	伊藤頼位
4	討議の仕方 「講義・グループワーク」	総合的な力を身につけよう	本多真史
5	討議（1） 「演習・グループワーク」	ある論題に対して，ディベートをする（1）	本多真史
6	討議（2） 「演習・グループワーク」	ある論題に対して，ディベートをする（2）	本多真史
7	討議（3） 「演習・グループワーク」	ある論題に対して，ディベートをする（3）	本多真史

授業科目名	倫理学	準備-6	1 年 前期 1
授業区分	基礎教育科目（準備教育）	必修	1 単位
担当教員	非常勤講師：石澤理如		

1. 科目の概要

日常生活において、「倫理」という言葉を耳にする機会が多い。高校での「倫理」の授業をはじめ、政治における「政治倫理」や、企業の不祥事の際に指摘される「企業倫理」などがそれである。医療従事者にとっては、「医療倫理」がそれに当たるであろう。では、「倫理」とは何か、と問われると、即答することは難しいと思われる。

辞書的な意味として「倫理」を定義するならば、「道徳や社会習慣として成立している行為規範」ということになるが、やや漠然とした印象は否めない。また「倫理」の概念を探るべく、古代ギリシアのソクラテスまで遡り、彼の言葉を借りて説明するならば、「善く生きること」ということになるが、辞書的な定義だけでは「倫理」とは何か、という問いに十分に答えたことにはならないであろう。

そこで本講義では、「倫理」とは何か、という問いに対して、西洋および日本の倫理学に関する議論を参考に、倫理学の基礎的な理論を学習する。2・3年生で学ぶ「医療倫理」の基盤となる倫理概念をこの講義を通して身につけ、医療従事者として向き合うべき生命・医療に関する「倫理」の基礎的知識を習得することを目標としたい。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、社会人としての「教養と高い倫理観」を身につけることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

医療に関する倫理的な問題を考える際に必要な倫理学の基礎理論と、日本および西洋における倫理学の展開について学ぶ。

4. 到達目標

- ①倫理学という学問について、その成立過程と課題について説明することができる。
- ②倫理学の基本的な理論（義務論・功利主義・自由主義・正義論・共同体主義）について説明することができる。
- ③古典的な倫理問題から応用倫理の問題まで、自分で考えられるようになる。

5. 授業時間外の学習

（予習：初回を除く）次回の講義に関する内容を、参考図書として提示した加藤尚武『現代倫理学入門』の該当箇所を読んでくること。（30分程度）

（復習）今回の講義で学習したことを、配布プリントを参照しながら復習すること。（30分程度）

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験 50% 平常点 50%

【平常点】

授業終了後に毎回、出席カードの裏面にミニコメントを書いてもらいます。文字数は不問ですが、内容に応じて点数化します。

【定期試験】

定期試験期間内に実施します。詳細は講義の際に伝えますが、基本的には持ち込みは可能です。

7. 教科書・参考書

教科書：なし。随時、プリントを配布する。

参考書：加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社学術文庫，1997年）中山元『正義論の名著』（ちくま新書，2011年）

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	はじめに 「講義」	ガイダンス 「倫理」とは何か 「道德」と「倫理」	石澤理如
2	倫理学概説（1） 「講義」	日本における倫理学の成立および展開	石澤理如
3	倫理学概説（2） 「講義」	日本における倫理学研究	石澤理如
4	倫理学の基礎理論（1） 「講義」	義務論について カントの義務論とは？	石澤理如
5	倫理学の基礎理論（2） 「講義」	功利主義について ベンサムとミルとの違い	石澤理如
6	倫理学の基礎理論（3） 「講義」	自由主義について	石澤理如
7	倫理学の基礎理論（4） 「講義」	正義論・共同体主義について ロールズ・マッキンタイア・サンデル	石澤理如
8	定期試験		石澤理如

授業科目名	薬学入門		薬学基礎-1	1 年 前期 2
授業区分	基礎教育科目（薬学基礎）		必修	1 単位
担当教員	教授：衛藤雅昭 助教：熊谷文哉 客員教授：島貫英二			

1. 科目の概要

歯学部附属病院および市内等病院で診療している医師，調剤薬局勤務の薬剤師が授業を担当する科目である。

入門では，薬学について学ぶ意義と概要について解説する。薬剤師資格取得を目指して 6 年間にわたって学習を続ける学生諸君の勉学の動機付けを図る。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は，薬学への入門科目であり，ディプロマ・ポリシー 1 に関連する。

3. 一般目標

薬学生としてのモチベーションを高めるために，薬の専門家として身につけるべき基本的知識，技能，態度を修得する。

4. 到達目標

- 1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。
- 2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。
- 3) 「薬とは何か」を概説できる。
- 4) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。
- 5) 薬剤師の活動分野（医療機関，製薬企業，衛生 行政など）について概説できる。
- 6) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ，その仕事を概説できる。
- 7) 病院・開局薬剤師の業務を見聞し，その保健，福祉の重要性を知る。
- 8) 生活習慣病の基礎を学び，その予防・健康管理について概説できる。
- 9) 栄養学の基礎知識を説明できる。
- 10) 医療と薬剤師の関わりや地域医療 における薬剤師の役割を説明できる。
- 11) 薬学生として，1 人の人間として，抱負や考えをプレゼンテーションできる。

5. 授業時間外の学習

レポート課題を出すのでよく復習してほしい（30 分程度）。なお，講義日程は担当者の都合により変更になることがあるので掲示に注意すること。

6. 評価・フィードバックの方法

レポート 70% とプレゼンテーション・態度 30% で評価する。

7. 教科書・参考書

教科書：配布資料を用いる。

参考書：鎌滝哲也 著「薬学へのいざない」東京化学同人
「これから薬学をはじめるあなたに」日本薬学会編

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	薬学への招待 「講義」	A-(1)-① ②	薬学の歴史的な流れと医療におけるその役割、薬とは何かを学ぶ。	衛藤雅昭 熊谷文哉
2	薬学の歴史 薬の発見の歴史 (1) 「講義」	A-(1)-④	薬学の歴史および代表的な薬（インスリン、ペニシリン、アドレナリンなど）の発見の歴史を学ぶ。	衛藤雅昭 熊谷文哉
3	薬学の歴史 薬の発見の歴史 (2) 「講義」	A-(1)-④	薬学の歴史および代表的な薬（インスリン、ペニシリン、アドレナリンなど）の発見の歴史を学ぶ。	衛藤雅昭 熊谷文哉
4	将来の抱負を語る(1) 「プレゼンテーション」	A-(1)-① -6	薬学生として、1人の人間として、将来の抱負や考えを語る。	衛藤雅昭 熊谷文哉
5	将来の抱負を語る(2) 「プレゼンテーション」	A-(1)-① -6	薬学生として、1人の人間として、将来の抱負や考えを語る。	衛藤雅昭 熊谷文哉
6	保険薬局の今 「講義」	A-(1)-② -2	保険薬局薬剤師の業務内容を知る。	島貫英二
7	糖尿病と栄養学を学ぼう 「講義」	E1-(3)-1 E2-(5)-① -1 A-(4)	糖尿病の概念を学習し、基礎的な栄養学を学ぶ。	衛藤雅昭 熊谷文哉

授業科目名	チーム医療学演習Ⅰ		薬学基礎-2-1	1年 前期1・2
授業区分	基礎教育科目（薬学基礎）		必修	1単位
担当教員	教授：木皿重樹，衛藤雅昭，小池勇一，早坂正孝 助教：熊谷文哉			

1. 科目の概要

本授業は、本学附属病院等で診療に当たる医師および病院薬剤部での実務経験のある教員が担当する。

薬剤師の任務は、薬剤師法第1条において「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と規定されている。この「国民の健康な生活の確保」を達成するためには、医師、歯科医師、看護師などの他の医療職との連携が重要であることは論をまたない。「チーム医療」とは、医療従事者が互いに対等に連携して治療やケアに当たることで患者中心の医療を実現しようとするものであり、近年、医療現場において、高い専門性を有する多職種の医療スタッフが、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完しあい、患者の状況に的確に対応したチーム医療を実践しており、医療における重要な要素の一つとなっている。このような背景から、現在の薬学教育モデルカリキュラムにおいても、チーム医療が教育目標（GIO: general instructional objective）に取り入れられ、さらに、薬学実務実習に関するガイドラインに「チーム医療への参画」としてその修得が明記されている。

この授業では、初めに、学生が公平に幅広く参加・実習体験できる教育を受けるために、薬物療法に関して「代表的な8疾患」について、本学の医師2名による講義および演習を行う。薬学臨床における代表的な8疾患とは、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経障害、免疫・アレルギー疾患、感染症である。次に、早期体験学習を通じて、患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、薬剤師業務の重要性について討議する。なお、外部機関との調整を要する内容があるために、一部の項目について講義順の変更あるいは実施時期が前期、後期で交換される可能性があることを付記する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目では、臨床の現場を見学することも含み、薬剤師の立場から医薬品の適正使用の大切さ等を認識する。また生涯にわたる学習の必要性を認識する。したがって、本科目はディプロマ・ポリシー4および6に関連している。

3. 一般目標

将来、薬剤師として活躍するために必要な多職種連携を容易とするために、医療職としての基本的な知識や技能を学ぶ。

4. 到達目標

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。また、薬学臨床における代表的な疾患、すなわち、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経障害、免疫・アレルギー疾患、感染症についても、基礎的事柄を修得する。

【早期臨床体験】

1. 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。
2. 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づき、その重要性や課題を討議する。
3. 一次救急処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明しシミュレータを用いて実施できる。

【臨床における心構え】

1. 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。
2. 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。
3. 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。

【臨床実習の基礎】

1. 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。
2. 病院・薬局の薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。
3. 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。
4. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
5. 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。

5. 授業時間外の学習

前週までに必要な事前学習項目を掲示するので 30 分程度予習する。

6. 評価・フィードバックの方法

授業に関するレポートと小テストの成績（80％）および授業に対する取り組み態度（20％）から総合的に評価する。小テストの解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：配布資料を用いる。

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」（記号）		授業内容	担当者
1	ガイダンス	F-(4)	本演習の意義と概要を説明する。	木皿重樹
2	チーム医療とは「講義」	F-(4)	チーム医療の意義と概要を説明する。	木皿重樹
3	医療と地域をつなぐこれからの薬剤師像「講義」	F-(4)	チーム医療に関する薬剤師の役割についてのDVDを聴講する。	衛藤雅昭 木皿重樹 早坂正孝
4	医療と地域をつなぐこれからの薬剤師像「SGD」	F-(4)	チーム医療に関する薬剤師の役割についてのDVDから演習を行なう。	衛藤雅昭 木皿重樹 早坂正孝
5	代表的な8疾患を理解する(1)「講義」	F-(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を学習する。	衛藤雅昭 熊谷文哉
6	代表的な8疾患を理解する(1)「SGD」	F-(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を演習する。	衛藤雅昭 熊谷文哉
7	代表的な8疾患を理解する(2)「講義」	F-(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を学習する。	小池勇一
8	代表的な8疾患を理解する(2)「SGD」	F-(5)	薬学臨床の学習で関わっておく必要のある疾患を演習する。	小池勇一
9	体験学習・病院 (1)「体験」	F-(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	木皿重樹 早坂正孝
10	体験学習・病院 (2)「体験」	F-(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	木皿重樹 早坂正孝
11	体験学習・病院 (3)「体験」	F-(1)	病院を訪問し、業務を見学する。	木皿重樹 早坂正孝
12	体験学習・薬局 (1)「体験」	F-(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	木皿重樹 早坂正孝
13	体験学習・薬局 (2)「体験」	F-(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	木皿重樹 早坂正孝
14	体験学習・薬局 (3)「体験」	F-(1)	保健薬局を訪問し、業務を見学する。	木皿重樹 早坂正孝
15	病院・保険薬局体験学習まとめ「SGD」	F-(1)	病院・保険薬局で得たものをまとめて発表する。	木皿重樹 早坂正孝

授業科目名	チーム医療学演習Ⅱ		薬学基礎-2-2	1年 後期1・2
授業区分	基礎教育科目（薬学基礎）		必修	1単位
担当教員	教授：木皿重樹，衛藤雅昭，押尾 茂，早坂正孝 准教授：伊藤頼位 准教授（兼担）：今井 元 助教：熊谷文哉			

1. 科目の概要

本授業は、歯学部附属病院等で診療に当たる医師および病院薬剤部での実務経験のある教員が担当する。チーム医療学演習Ⅰに引き続き、チーム医療学演習Ⅱを開講する。科目の概要についてはチーム医療学演習Ⅰを参照されたい。

奥羽大学では、歯学部と薬学部という2業種の医療従事者を養成する大学であるため、一部の授業に、2学部連携した講義・演習・SGD等を取り入れ、医療人としての心構えや態度を習得する機会を設けている。その一環として、本演習の初めに、両学部生に薬害被害者の話を聞く機会を設け、医療の基本理念を学ぶと共に、薬害の原因や社会的影響について考える。次に、チーム医療に直結している内容（例えばNSTや感染対策チーム）の各論ごとに、講義、演習を行い、チーム医療を取り巻く医療環境についても学ぶ。さらに、不自由体験を通じて、患者の心理を思い図れる動機づけを行う。

なお、外部機関との調整を要する内容があるために、一部の項目について講義順の変更あるいは実施時期が前期、後期で交換される可能性があることを付記する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目では、臨床の現場を見学することも含み、薬剤師の立場から医薬品の適正使用の大切さ等を認識する。また生涯にわたる学習の必要性を認識する。したがって、本科目はディプロマ・ポリシー4および6に関連している。

3. 一般目標

将来、薬剤師として活躍するために必要な多職種連携を容易とするために、医療職としての基本的な知識や技能を学ぶ。

4. 到達目標

1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。2. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。3. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。4. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。5. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。6. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。7. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。8. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。9. 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。10. 健康管理・疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。11. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。12. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。13. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。14. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。

5. 授業時間外の学習

前週までに必要な事前学習項目を掲示するので、30分程度予習する。

6. 評価・フィードバックの方法

授業に関するレポートと小テストの成績（80%）および授業に対する取り組み態度（20%）から総合的に評価する。小テストの解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：配付資料を用いる。

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	ガイダンス	F-(4)	本演習の意義と概要を説明する。	木皿重樹 早坂正孝
2	栄養サポートチーム (NST)「講義・演習」	F-(4)	NST に関する講義と演習を行う。	早坂正孝
3	薬害と社会 「講義」	F-(5)	薬害被害者の話を聞き、薬害の原因・健康被害・社会的影響を考える。	衛藤雅昭 木皿重樹 早坂正孝
4	薬害と社会 「SGD」	F-(5)	薬害被害者の話から薬害の原因・健康被害・社会的影響について演習を行う。	衛藤雅昭 木皿重樹 早坂正孝
5	認知症介護補助者講習 「講義」	F-(5)	高齢化社会の中での認知症について、講義を聞き今後の認知症を支える介護や補助方法を考える。	押尾 茂
6	認知症介護補助者講習 「演習」	F-(5)	認知症・介護における様々な問題点についてその解決方法について演習を行う。	押尾 茂
7	B 型肝炎接種事故と社会 「講義」	F-(5)	B 型肝炎接種事故を考える。	木皿重樹 早坂正孝 今井 元 伊藤頼位
8	B 型肝炎接種事故と社会 「SGD」	F(5)	B 型肝炎接種事故に関する社会的影響について演習を行う。	木皿重樹 早坂正孝 今井 元 伊藤頼位
9	糖尿病におけるチーム医療 の実際「講義・演習」	F-(4)	糖尿病におけるチーム医療の講義と演習を行う。	熊谷文哉
10	緩和ケアチーム 「講義・演習」	F-(4)	緩和ケアチームに関する講義と演習を行う。	木皿重樹
11	障がい疑似体験（不自由体験）「実習」	F-(1)	各種障がいを疑似体験する用具を身に付けて、障がい者理解につなげる。	木皿重樹 早坂正孝
12	障がい疑似体験（不自由体験）「実習」	F-(1)	各種障がいを疑似体験する用具を身に付けて、障がい者理解につなげる。	木皿重樹 早坂正孝
13	障がい疑似体験（不自由体験）「実習」	F-(1)	各種障がいを疑似体験する用具を身に付けて、障がい者理解につなげる。	木皿重樹 早坂正孝
14	体験学習（1）介護施設等 「体験」	F-(1)	社会福祉施設における介護等を体験する。	木皿重樹 早坂正孝
15	体験学習（2）介護施設等 「体験」	F-(1)	社会福祉施設における介護等を体験する。	木皿重樹 早坂正孝
16	体験学習（3）介護施設等 「体験」	F-(1)	社会福祉施設における介護等を体験する。	木皿重樹 早坂正孝

授業科目名	生化学 I	生物-1-1	1 年 後期 1
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	2 単位
担当教員	教授：守屋孝洋 准教授：古泉博之，櫻井敏博 助教：小田中啓太，熊谷文哉		

1. 科目の概要

生命システムを理解するために必要な、最初の科目のひとつである。ダーウィンが予測したように、全ての生物は共通の祖先から進化したと考えられており、生命の最小単位といわれる「細胞」の構造や機能は、微生物から高等動物まで驚くほど似通っている。本講義では、生命システムを構築するために最低限必要な、細胞を構成する物質、すなわちタンパク質、糖質、脂質、核酸などについて、その構造と機能を理解する。さらに、生命システムが成り立つために不可欠である、タンパク質の立体構造認識能力についても理解する。

また生命活動を担うタンパク質のうち、生体内で行われる化学反応を担っている酵素の性質と役割についても学ぶ。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

医薬品の生体への作用を知るためには、結合するタンパク質に関する理解が不可欠である。このため、本科目はディプロマ・ポリシー 3 に関連する。

3. 一般目標

細胞を構成している物質を細かく分けていくと、タンパク質、糖質、脂質、核酸などになる。しかしながら、これらの物質を混ぜたスープに生命は宿らない。これらの物質の構造と機能を学ぶとともに、混ぜただけでは生命とならない理由を考え、さらに生命がなぜタンパク質を選んだかを考えることが、本講義の目標である。

4. 到達目標

- ・生命システム概念、すなわち「動的平衡」とは何かを説明できる。
- ・生体を構成する物質の構造、性質、役割を説明できる。
- ・タンパク質の立体構造認識能力について説明できる。
- ・酵素の一般的特性、酵素反応速度論、酵素活性調節機構について説明できる。

5. 授業時間外の学習

教科書は予め読んでおくこと（単元あたり所要 30 分）。また、復習にも必ず教科書や授業ノート、資料を読み返し（30 分程度）、疑問点・理解ができなかった点を明確にし、授業やオフィスアワーを利用し質問をするようにする。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験の成績 (100%) で評価し、判定する。定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：New 生化学 第 2 版 堅田寿明 他編（廣川書店）、薬学生のための基礎生物 初版
小林・吉田編（廣川書店）

参考書：はじめての生化学 平澤栄次著（化学同人）、生物系薬学 I . 生命現象の基礎
日本薬学会編（東京化学同人）

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	序論 生命とは何か, 細胞「講義」	C6-(1)-①, ②, ③	生命とは何か, 高等生物を構成する真核細胞の構造	守屋孝洋
2	糖質 1「講義」	C6-(2)-②-1	単糖, 二糖	熊谷文哉
3	糖質 2「講義」	C6-(2)-②-2	多糖, 複合糖質	守屋孝洋
4	脂質と膜 1「講義」	C6-(2)-①-1	脂質の分類 (1)	熊谷文哉
5	脂質と膜 2「講義」	C6-(2)-①-1 C6-(1)-①-1, 2	脂質の分類 (2)	守屋孝洋
6	核酸「講義」	C6-(2)-⑤-1	ヌクレオチド, DNA, RNA	小田中啓太
7	アミノ酸・ペプチド・タンパク質 1「講義」	C6-(2)-③-1	アミノ酸, ペプチド	小田中啓太
8	アミノ酸・ペプチド・タンパク質 2「講義」	C6-(2)-③-1	タンパク質	小田中啓太
9	アミノ酸・ペプチド・タンパク質 3「講義」	C6-(2)-④-1	タンパク質の立体構造認識能力	小田中啓太
10	酵素 1「講義」	C6-(3)-③-1, 2	酵素の一般的性質と分類	古泉博之
11	酵素 2「講義」	C6-(3)-③-1, 2	反応速度論, 阻害剤	古泉博之
12	酵素 3「講義」	C6-(3)-③-3	反応機構, 酵素活性調節機構	古泉博之
13	ビタミン 1「講義」	C6-(2)-⑥-1	水溶性ビタミンの構造と機能	櫻井敏博
14	ビタミン 2「講義」	C6-(2)-⑥-1	脂溶性ビタミンの構造と機能	櫻井敏博
15	水・無機質「講義」	C6-(2)-⑦-1	水, 生体に含まれる無機質の種類と機能	櫻井敏博
16	定期試験			守屋・古泉 櫻井・小田中

授業科目名	機能形態学Ⅰ		生物-2-1	1年 後期2
授業区分	専門教育科目（基礎科目）		必修	2単位
担当教員	教授：守屋孝洋			

1. 科目の概要

ヒトの体は脳や心臓などの器官から構成され、さらに器官はいくつかの組織・細胞から成り立っている。心臓が全身に血液を供給する役割を果たすように、器官はそれぞれに特有の働きをもち、ヒトが生きてく上で重要な役割を果たしている。

「機能形態学」は、からだを構成する器官や組織の「形」（形態）を知り、その上でそれらの「働き」（機能）を学ぶ学問である。病気は器官や組織の働きや形の異常によって起こるため、薬が病気を治療したり、予防したりする仕組みを理解するためには、まず「機能形態学」を学ぶことによって、からだの器官や組織についての知識を深め、それらの異常がどのような病気と関係するのかを考える力を養う必要がある。

機能形態学Ⅰでは、生物学Ⅱで学ぶ器官と器官系、神経系（基礎）、循環器系、呼吸器系に続き、各器官系の名称、形態、体内での位置および機能について学ぶ。具体的には、中枢神経系、末梢神経系、骨格筋、皮膚、消化管、消化付属器官（肝臓、膵臓、胆のう）、腎臓、膀胱、内分泌器官および感覚器官の構造と機能について学ぶ。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、ヒトの体を構成する器官系および各器官の「形」（形態）の知識を深め、その上でそれらの「働き」（機能）を理解することを目標としており、ディプロマ・ポリシー 3 および 4 に関連する。

3. 一般目標

ヒトの体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、その構造と機能に関する基本的な知識を修得する。

4. 到達目標

- 1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態および体内での位置およびを説明できる。
- 2) 中枢神経系、末梢神経系の構成と機能を説明できる。
- 3) 主な骨と関節、および主な骨格筋の名称を挙げ、位置を説明できる。
- 4) 皮膚の構成と機能を説明できる。
- 5) 消化管（口腔、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能を説明できる。
- 6) 消化器付属器官である肝臓、膵臓、胆嚢の構造と機能を説明できる。
- 7) 腎臓、膀胱の構造と機能を説明できる。
- 8) 甲状腺、副腎、性腺、眼、耳、鼻の構造と機能を説明できる。
- 9) 骨髄、脾臓、胸腺の構造と機能を説明できる。

5. 授業時間外の学習

予習：次回行う項目を指示するので、教科書の該当部分を必ず読んでおくこと（30分）。

復習：講義毎にC-Learningを用いたオンライン問題を宿題として配付するので、配布資料、教科書等を参考にして知識の整理を行うこと（30分）。

6. 評価・フィードバックの方法

- ・定期試験 95 点および課題提出 5 点の 100 点満点で評価する。
- ・試験終了後、速やかに正答リストを配布する。

7. 教科書・参考書

教科書：機能形態学改訂 第 4 版（南江堂）

参考書：スタンダード薬学シリーズⅡの 4「生物系薬学Ⅱ－人体の成り立ちと生体機能の調節」日本薬学
z 会編（東京化学同人）トートラ人体解剖生理学 原書 10 版 佐伯由香ほか編訳（丸善）

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	神経系 「講義」	C7-(1)-④-1,2 中枢神経系の構成と機能	守屋孝洋
2	神経系 「講義」	C7-(1)-④-1,2 末梢神経系の構成と機能	守屋孝洋
3	格系・筋肉系 「講義」	C7-(1)-⑤-1 骨の構造と機能	守屋孝洋
4	格系・筋肉系 「講義」	C7-(1)-⑤-2 筋の構造と機能	守屋孝洋
5	皮膚 「講義」	C7-(1)-⑥-1 皮膚の構造と機能	守屋孝洋
6	消化器系 1（消化管） 「講義」	C7-(1)-⑨-1 食道，胃，小腸，大腸の構造と機能	守屋孝洋
7	消化器系 2（消化器付属器官） 「講義」	C7-(1)-⑨-2 肝臓，膵臓，胆のうの構造と機能	守屋孝洋
8	泌尿器系 1 「講義」	C7-(2)-⑦-1 腎臓，尿管，膀胱の構造と機能	守屋孝洋
9	泌尿器系 2 「講義」	C7-(2)-⑦-2 ネフロン構造と機能	守屋孝洋
10	内分泌系 1 「講義」	C7-(1)-⑫-1 内分泌器官（甲状腺と上皮小体）の構造と分泌されるホルモンの作用	守屋孝洋
11	内分泌系 2 「講義」	C7-(1)-⑫-1 内分泌器官（副腎皮質と副腎髄質，膵臓）の構造と分泌されるホルモンの作用	守屋孝洋
12	内分泌系 3 「講義」	C7-(1)-⑫-1 内分泌器官（性腺）の構造と分泌されるホルモンの作用	守屋孝洋
13	感覚器系 「講義」	C7-(1)-⑬-1 眼の構造と機能	守屋孝洋
14	感覚器系 「講義」	C7-(1)-⑬-1 耳および鼻の構造と機能	守屋孝洋
15	総括	神経系から感覚器系までのまとめ	守屋孝洋

授業科目名	有機化学 I	化学-1-1	1 年 後期 1
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	2 単位
担当教員	准教授：西村良夫		

1. 科目の概要

有機化学を学ぶ基礎として有機化合物の性質を概説する。各論としてアルカンとシクロアルカンの命名法・性質、酸・塩基の概念と反応、分子の三次元構造（立体化学）、化学反応における反応機構について講義する。本科目の修得は、生体外における化合物の性質の理解とともに生体内における化学現象を理解することに寄与する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、化合物を取り扱うことを生業とする者が現場で生じる話題や問題を理解するための基礎を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 3 に関連する。

3. 一般目標

有機化合物の構造とその性質を理解するために、化学結合の種類と形成される化学構造の性質について学ぶ。また、化合物の三次元構造を理解するために、位置異性、立体異性、光学異性などの異性体をはじめ、立体配座を含めて立体化学の基礎を修得する。さらに、反応の基礎を把握するために、酸・塩基の概念と求核置換・脱離反応について理解を深め、医薬品類の化学的性質を理解する基礎を身に付ける。

4. 到達目標

- 1) アルカン、シクロアルカンの構造式を正しく書くことができる。
- 2) 有機化合物を命名することができる。
- 3) 有機化合物の構造式から化合物の性質と三次元構造を理解できる。
- 4) ハロゲン化アルキルの求核置換・脱離反応における反応機構が理解できる。

5. 授業時間外の学習

講義終了の際に、次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと（15 分）。教科書、ノート、課題を用いてよく復習すること（45 分）。

6. 評価・フィードバックの方法

学期末試験によ評価する（100%）。定期試験の解答例を試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：「ソロモンの新有機化学 I（第 11 版）」廣川書店 「基礎有機化学問題集（第 2 版）」廣川書店
「分子模型 BAS-1 基本 A セット」モル・タロウ

参考書：なし

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	炭素化合物と化学結合「講義」	C1-(1)-①-1,2 C3-(1)-①-3	sp ³ 混成, sp ² 混成, sp混成 メタン・エタン・エチレン・ベンゼン・アセチレンの構造	西村良夫
2	窒素, 酸素, ホウ素などの混成と化学結合「講義」	C1-(1)-①-1,2 C3-(1)-①-3	アンモニア, 水, ボランなどの分子の形	西村良夫
3	窒素, 酸素, イオンなどの混成と化学結合「講義」	C1-(1)-①-1,2 C3-(1)-①-3,7	アルデヒド, イミン, 炭酸, 炭素アニオン, 炭素カチオン, 炭素ラジカルなどの分子の形	西村良夫
4	代表的な官能基と各種化合物「講義」	C3-(1)-① -1, 2, 3 C3-(1)-①-1	官能基, 物理的性質と分子構造	西村良夫
5	有機化学反応序論: 酸と塩基 I「講義」	C3-(1)-①-5,9 C3-(3)-⑦-1	反応機構, ルイス酸とルイス塩基, 酸・塩基反応	西村良夫
6	有機化学反応序論: 酸と塩基 II「講義」	C3-(1)-① -4,5,9 C3-(3)-⑦-1	反応機構, 酸の強さ, 構造と酸性度の関係, 共鳴	西村良夫
7	中間演習「演習」		第1回～第6回の演習	西村良夫
8	アルカンの構造と性質「講義」	C3-(1)-①-1,2 C3-(2)-①-1,2	アルカンの性質と構造異性体, アルカンなどの IUPAC命名法	西村良夫
9	アルカンの立体配座解析, シクロアルカン「講義」	C3-(1)-②-7,8 C3-(2)-①-3	エタン, ブタンの立体配座解析, シクロアルカンの相対的安定性	西村良夫
10	アルカンの立体配座解析, シクロアルカン「講義」	C3-(1)-② -4,5	シクロヘキサンのいす形配座, アキシアル結合とエクアトリアル結合, 置換シクロヘキサンの安定性, 環反転	西村良夫
11	立体化学: キラル分子 I「講義」	C3-(1)-② -1,2,5	構造異性体と立体異性体, キラリティーと光学活性 エナンチオマーとその立体配置: R-S 則	西村良夫
12	立体化学: キラル分子 II「講義」	C3-(1)-② -3,4,6,7	ジアステレオマー, メソ体, ラセミ体環式化合物の立体異性	西村良夫
13	イオン反応: 求核置換反応 I「講義」	C3-(3)-② -1,2	求核置換反応の特徴 (SN2 反応)	西村良夫
14	イオン反応: 求核置換反応 II「講義」	C3-(3)-② -1,2	求核置換反応の特徴 (SN1 反応)	西村良夫
15	定期試験			西村良夫

授業科目名	基礎分析化学	物理-1-1	1 年 後期 2
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	2 単位
担当教員	教授：竹元万壽美，鈴木康裕 助教：小田中啓太		

1. 科目の概要

「分析化学」とは、何が(定性)、どれだけ(定量)、どのような状態で存在しているのかを明らかにする学問である。薬学において、化学物質(医薬品を含む)の定量分析法は日本薬局方の一般試験法をはじめ、生化学、薬理学、薬物動態学など様々な分野で応用されている。本講義では、1) 化学物質(医薬品を含む)の定量に関する基本的事項の修得、2) 各種の化学平衡に関する基本的事項を修得し、各種の化学平衡を利用した容量分析法について学ぶ。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

各種医薬品等を含む化学物質の定量分析法(容量分析・重量分析)を修得することを目標としており、ディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 一般目標

日本薬局方に定められた各種医薬品を含む化学物質の品質管理における定量法を修得することを目標とする。定量分析法(容量分析・重量分析)を理解するための基礎となる各種化学平衡の原理についても学ぶ。また、化学物質の分析に用いる器具の使用法と、測定値の取り扱いについても学ぶ。

4. 到達目標

- 1) 薬学分野における分析化学の意義および物質の基本概念と分析化学との関連を説明できる。
- 2) 分析に用いる器具を正しく使用できる。
- 3) 測定値を適切に取り扱うことができる。
- 4) 分析法のバリデーションについて説明できる。
- 5) 化学平衡の原理に基づいて、溶液中における化学種の濃度を計算できる。
- 6) 酸・塩基の定義、pH測定法やpH緩衝液について説明でき、計算ができる。
- 7) 各種の化学平衡(酸・塩基、錯体・キレート形成、沈殿、酸化還元、分配)を説明できる。
- 8) 各種の化学平衡に基づく容量分析法の原理、操作法および応用例が説明できる。
- 9) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析法および重量分析法を列挙し、その内容を説明できる。

5. 授業時間外の学習

予習: 授業終了時に次の授業内容の予告をするので、教科書の該当箇所をよく読んでくること(20分)。
復習: 授業中に理解不足があったら、その日のうちに教科書と配布資料をもとに該当箇所を復習すること(20分)。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験により評価する(100%)。
定期試験の解答例は試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書: 薬学分析化学 第2版(編集 萩中, 片岡, 四宮) 廣川書店

参考書: 1) パートナー 分析化学1 改訂第4版 編集 萩中 淳, 加藤くみ子, 南江堂

2) 日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ2 物理系薬学Ⅱ 第2版 化学物質の分析
東京化学同人

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者
1	酸・塩基反応の化学平衡 (1) 「講義」	C2-(2)-①-1 化学平衡総論, 酸・塩基平衡	鈴木康裕
2	酸・塩基反応の化学平衡 (2) 「講義」	C2-(2)-①-2 酸・塩基水溶液のpH	鈴木康裕
3	酸・塩基反応の化学平衡 (3) 「講義」	C2-(2)-①-1,2 分子形とイオン形のpHによる変化	鈴木康裕
4	酸・塩基反応の化学平衡 (4) 「講義」	C2-(2)-①-3 pH緩衝液, 生体内における酸・塩基平衡	鈴木康裕
5	分配平衡 「講義」	C2-(2)-②-4 分配平衡と分配比, 抽出率	鈴木康裕
6	容量分析総論 「講義」	C2-(1)-①-1,2,3 C2-(3)-②-1 器具の取り扱い, データ処理, 分析法バリデーション, 容量分析総論	小田中啓太
7	中和滴定 (1) 「講義」	C2-(3)-②-1 中和滴定曲線, 滴定終点検出法	小田中啓太
8	中和滴定 (2) 「講義」	C2-(3)-②-1 C2-(3)-②-5 日本薬局方での応用例	小田中啓太
9	中和滴定 (3) 「講義」	C2-(3)-②-1 C2-(3)-②-5 非水滴定	小田中啓太
10	キレート滴定 「講義」	C2-(2)-②-1 C2-(3)-②-2,5 錯体・キレート生成平衡, キレート滴定	竹元万壽美
11	沈殿滴定 「講義」	C2-(2)-②-2 C2-(3)-②-3,5 沈殿平衡, 沈殿滴定	竹元万壽美
12	酸化還元滴定 (1) 「講義」	C2-(2)-②-3 C2-(3)-②-4 酸化還元平衡, 酸化還元滴定	竹元万壽美
13	酸化還元滴定 (2) 「講義」	C2-(3)-②-4,5 酸化還元滴定, 日本薬局方での応用例	竹元万壽美
14	重量分析法, 純度試験	C2-(3)-②-6,7 揮発重量法, 抽出重量法, 沈殿重量法 混在物または有機性混在物の限度試験	竹元万壽美
15	定期試験		竹元・鈴木 小田中

授業科目名	物理化学Ⅰ	物理-2-1	1年 後期1
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1単位
担当教員	講師：小野哲也		

1. 科目の概要

物理化学は数少ない法則をもとに、自然現象を体系的に捉えようとする学問である。自然科学的な考え方の基礎であり、「科学的」という場合は物理化学を抜きに語れない。ここでは、物理学で学んだことをもとにして原子・分子の構造と、分子間相互作用などの物理化学的性質の発現について学ぶ。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、医薬品・化学物質等の作用や性状、生体および環境への影響に関する科学的な根拠を理解するために必要な「分子間相互作用、原子・分子の挙動および気体分子の運動に関する基本的知識」を習得することを目的としており、ディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 一般目標

物質を構成する原子・分子の構造、分子間相互作用および気体分子の運動に関する基本的知識を習得する。

4. 到達目標

1. ファンデルワールス力について説明できる。
2. 静電相互作用について例を挙げて説明できる。
3. 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。
4. 分散力について例を挙げて説明できる。
5. 水素結合について例を挙げて説明できる。
6. 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。
7. 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。
8. 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。
9. 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。
10. 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。
11. 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。
12. 光の散乱および干渉について説明できる。
13. 結晶構造と回折現象について概説できる。
14. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。
15. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
16. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。

5. 授業時間外の学習

予習：授業終了時に次回の予告をするので、教科書の該当範囲を熟読してくる（30分）。

復習：授業内容について、教科書と配布資料をもとに復習をする（30分）。

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験（100%）

定期試験の解答例は、試験終了後に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：レファレンス物理化学 米持悦生編 廣川書店 第1版担当教員編集教材

参考書：スタンダード薬学シリーズⅡ物理系薬学Ⅰ 物質の物理的性質 日本薬学会編 東京化学同人
第1版

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	分子間相互作用Ⅰ 「講義」	C1-(1)-②-2	極性分子, 無極性分子, 静電相互作用	小野哲也
2	分子間相互作用Ⅱ 「講義」	C1-(1)-②-1,3,4	ファンデルワールス力, 双極子間相互作用	小野哲也
3	分子間相互作用Ⅲ 「講義」	C1-(1)-②-5,6,7	水素結合, 電荷移動, 疎水性相互作用	小野哲也
4	分子間相互作用Ⅳ 「講義」	C1-(1)-②	化合物の沸点, 融点	小野哲也
5	原子・分子の挙動Ⅰ 「講義」	C1-(1)-③-1	電磁波の性質および物質との相互作用	小野哲也
6	原子・分子の挙動Ⅱ 「講義」	C1-(1)-③-2,3	分子の振動, 回転, 電子遷移 電子や核のスピンとその磁気共鳴	小野哲也
7	原子・分子の挙動Ⅲ 「講義」	C1-(1)-③-4,5,6	光の屈折, 偏光, および旋光性 光の散乱および干渉, 結晶構造と回折現象	小野哲也
8	原子・分子の挙動Ⅳ 「演習」	C1-(1)-③	原子・分子の挙動に関する演習	小野哲也
9	気体の微視的状態と巨視的 状態Ⅰ「講義」	C1-(2)-①-1	ファンデルワールスの状態方程式	小野哲也
10	気体の微視的状態と巨視的 状態Ⅱ「講義」	C1-(2)-①-2	気体の分子運動とエネルギー	小野哲也
11	気体の微視的状態と巨視的 状態Ⅲ「講義」	C1-(2)-①-3	エネルギーの量子化とボルツマン分布	小野哲也
12	総合演習 「演習」	C1-(1)-②, ③ C1-(2)-①	物理化学Ⅰに関する演習	小野哲也
13	定期試験			小野哲也

授業科目名	物理化学Ⅱ（化学熱力学入門）	物理-2-2	1 年 後期 2
授業区分	専門教育科目（基礎科目）	必修	1 単位
担当教員	教授：柏木良友		

1. 科目の概要

物理化学はエネルギーと物質に関する自然現象を理解する上で重要な学問であり、薬学領域で学ぶあらゆる教科の基本となっている。この科目では、物理学で学んだ基本をもとに、まず化学熱力学の基礎となる熱力学第一、第二、第三法則、自由エネルギーなどを理解し、さらにこれらを応用して化学平衡や物理平衡（相平衡）などの自然現象について学ぶ。特に、理想的思考力を身につけ、客観的に実験事実と理論を対比して考えられるような姿勢を養う。

また、本授業では授業中に教授した内容に関連する問題を学生の能動的活動を通して解答させることにより、「授業により身につけた知識によって問題の解答を得ること」を習得することも目的としている。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本授業は、医薬品・化学物質等の物質の状態を理解するための基本となる知識を身につけることを目的としており、ディプロマ・ポリシー 3 に関連する。

3. 一般目標

1. 物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的知識を習得する。
2. 複雑な系における物質の状態および相互変換過程を熱力学に基づき解析できるようになるための基本的知識を習得する。

4. 到達目標

1. 熱力学における系、外界、境界について説明できる。
2. 熱力学第一法則を説明できる。
3. 状態関数と経路関数の違いを説明できる。
4. 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。
5. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。
6. エンタルピーについて説明できる。
7. 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。
8. エントロピーについて説明できる。
9. 熱力学第二法則について説明できる。
10. 熱力学第三法則について説明できる。
11. ギブズエネルギーについて説明できる。
12. 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。
13. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。
14. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。
15. 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。
16. 共役反応の原理について説明できる。
17. 相変化に伴う熱の移動について説明できる。
18. 相平衡と相律について説明できる。
19. 状態図について説明できる。

5. 授業時間外の学習

予習：講義終了の際に次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと（その際に高校時代に使用した物理、化学の教科書・参考書等を見直すとよい）。（30 分）

復習：毎回の講義終了後に、自分のノートを読み直し、不完全と思われる部分があれば教科書等で補って整理する。(60分)

6. 評価・フィードバックの方法

定期試験 100%

随時、授業のはじめに前回の内容に関する小テスト等を行い、解答方法をフィードバックを行う。必要に応じて補講を行う。定期試験の解答例は、試験終了時に掲示する。

7. 教科書・参考書

教科書：「レファレンス物理化学」米持悦生 他 編 廣川書店

参考書：「物理化学テキスト」葛谷 編 廣川書店、「薬学物理化学（第4版）」小野 編 廣川書店、
「薬学物理化学演習（第2版）」小野 編 廣川書店、「アトキンス物理化学（第8版）上・下巻」
P. W. Atkins 著 / 千原・稲葉 訳 東京化学同人、「スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学
Ⅰ. 物質の物理的性質」日本薬学会 編 東京化学同人

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1	エネルギーⅠ 「講義」	C1-(2)-②-1,3	系, 外界, 境界, 状態関数, 経路関数	柏木良友
2	エネルギーⅡ 「講義」	C1-(2)-②-2,5	仕事, 熱, 熱力学第一法則, 定容熱容量, 定圧熱容量	柏木良友
3	エネルギーⅢ 「講義」	C1-(2)-②-4,6,7	エンタルピー, 定圧過程, 定容過程, 化学変化に伴うエンタルピー変化	柏木良友
4	自発的な変化Ⅰ 「講義」	C1-(2)-②-4 C1-(2)-③-1,2	可逆過程, 不可逆過程, エントロピー, 熱力学第二法則, カルノーサイクル	柏木良友
5	自発的な変化Ⅱ 「講義」	C1-(2)-③-3	物理変化, 化学変化に伴う標準エントロピー変化, 熱力学第三法則	柏木良友
6	自発的な変化Ⅲ 「講義」	C1-(2)-③-4,5	ギブズ自由エネルギー, 自発的な変化の方向	柏木良友
7	化学平衡の原理Ⅰ 「講義」	C1-(2)-④-1	化学ポテンシャル	柏木良友
8	化学平衡の原理Ⅱ 「講義」	C1-(2)-④-2,3	平衡定数, ルシャトリエの法則	柏木良友
9	化学平衡の原理Ⅲ 「講義」	C1-(2)-④-4	ファントホッフ式, 共役反応	柏木良友
10	相平衡Ⅰ 「講義」	C1-(2)-⑤-1,2	Clausius-Clapeyronの式, Gibbsの相律	柏木良友
11	相平衡Ⅱ 「講義」	C1-(2)-⑤-3	状態図(一成分系相図)	柏木良友
12	相平衡Ⅲ 「講義」	C1-(2)-⑤-3	状態図(二成分系, 三成分系相図)	柏木良友
13	定期試験			柏木良友

授業科目名	薬学演習Ⅰ	総合-1-1	1年 後期2
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	1単位
担当教員	学年主任，1年次科目担当教員		

1. 科目の概要

上級学年で受講する薬学専門領域を習得するためには、各学年で学習する薬学基礎科目や薬学専門科目に関する知識を整理し、かつ確実に理解しておく必要がある。本演習では、1年次で学んだ薬学基礎科目や薬学専門科目について、演習中心の講義を行い、練習問題をとおして解答を導くまでの客観的かつ論理的思考力を養うとともに、2年次以降で行われる薬学専門科目の受講に備える。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

薬剤師になるための薬学基礎知識ならびに薬学専門知識を整理し、客観的かつ論理的思考能力を養うと共に生涯に亘り主体的学習を継続できるように自己研鑽に努めることが必要不可欠である。このため、本科目はディプロマ・ポリシー6に関連する。

3. 一般目標

1年次で学ぶ薬学基礎科目ならびに薬学専門科目について、演習を通して基本事項に関する問題を解くための論理的思考能力の向上を目標とする。

4. 到達目標

1年次に履修する薬学基礎・薬学専門科目の総復習なので、学習者は演習を通して自分の弱点をみつけ、速やかにそれを克服するよう自己研鑽に励む。

5. 授業時間外の学習

予習：当日の講義範囲については、予め担当教員名と共に掲示するので、その範囲の予習を必ず行うこと（所要30分）。

復習：講義では、教員による重要事項の説明と一定時間内での問題の解答およびその解説が行われる。学力養成のため、講義で分からなかったところを教科書や参考書、ノートなどで理解するように努め、それでも理解できなかったところについて教員に質問するなどし、その日のうちに理解することに努めること（60分）。

6. 評価・フィードバックの方法

薬学演習Ⅰ一次試験または二次試験（100%）において、原則として得点率65%以上を合格する。解答一覧を試験終了後に配布する。

7. 教科書・参考書

教科書：各教科で使用した教科書、プリント等

参考書：コアカリマスター第8版 全3巻 薬学ゼミナール

コアカリ重点ポイント集第8版 全3巻 薬学ゼミナール

8. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1 ～ 15	演習・講義	1年次に開講された薬学基礎と薬学専門科目の演習を実施する。	学年主任 科目担当教員
16	2023年1月20日(金) (予定) 薬学演習Ⅰ試験 (一次試験)		学年主任 科目担当教員
17	2023年2月6日(月) (予定) 薬学演習Ⅰ試験 (二次試験)		学年主任 科目担当教員

